



山林實務要訣原叙

現今我佛國

於テ森林維持ノ方法ハ農事工業ニ比較スレ

ク劣レルモノトス余之ヲ慨スルヲ茲ニ數年森

必要ナル書ヲ著シテ世ニ裨益セント圖ルヲ亦

少ク閑ヲ得テ遂ニ宿昔ノ志ヲ果スヲ得タリ此

森林學者ノ爲ニスルモノニ非ラス唯タ予カ十

五年間實地經驗ヲ以テ得ル所ノモノヲ述ヘ以テ森林實地

家ノ參覽ニ供セント欲スノミ若シ夫レ學術ニ係ルノ書ハ

先覺者ノ既ニ著ス所ノモノアリ且余靈ノ力能ク及フ所ニ

非ラサルナリ余ハ唯々實務ノ要訣ヲ述ヘ森林家ノ補益ヲ

計ルニ過キス斯ク説キ來ルト雖モ敢テ森林學術ヲ輕スル

ニ非ラス學術ノ効ニ由テ實地ノ進步ヲ來タスノモナレハ



學術ヲ重ニスルハ勿論ノ事ナレモ凡ソ森林ノ事ハ其土地ノ性質、其樹木ノ種類、其供給ノ員數、其地方ノ物價、等ニ由テ各其維持ノ方法ヲ異ニスルモノナリ故ニ學術ノ適用ヲ欲セハ先ツ其實地ノ景況ヲ審ニセサル可ラス是余ノ敢テ此ニ實地ノ景況ヲ述ル所以ナリ

佛國ノ森林地ハ合計八百六十三万七千七百四十七「エクタール」アリ其内百十三万三千「エクタール」ハ官有ニ屬シ六万六千五百九十二「エクタール」ハ王室所有ニ屬シ十九万三千「エクタール」ハ舊王族所有ニ屬シ百五十九万「エクタール」ハ共有ニ屬シ三百四十八万九千「エクタール」ハ私有ニ屬シ而シテ百廿万九千「エクタール」ハ荒蕪不毛地ナリ政府所有森林即チ官有森林ヲ以テ全國合計森林地ニ比スレハ其積僅ニ六分ノ一ニ過キ

サルノミ然ラハ則チ政府獨リ森林維持ノ必要ナルヲ知リテ之ヲ施行スルモ他ノ森林ハ更ニ之カ維持ヲ願ルモノナシ余甚々之ヲ憂フ

遙ニ古代ヲ回想スレハ埃及土國ノ如キ土利國ノ如キ當時皆ナ膏沃濕澤ニシテ泉源ノ乏カラサル土地タリシ而今ヤ則チ漠々タル沙場ニシテ萬里人烟ヲ見サル荒地ト爲ルモノアリ蓋往古ノ民ハ先見遠慮ナク妄ニ森林ヲ荒却シテ自ラ其國ヲ亡スノ端ヲ啓キタルニ似タリ現ニ埃及土國ノ或ル領主ハ其管下ノ土地ニ多ク樹木ヲ植タルヲアリ而ルニ其土地タルヤ數百年來嘗テ雨降ヲ見サルモ此ノ樹木茂生スルニ及テ數週間ノ霖雨アリシト云フ是ニ因テ之ヲ見レハ森林ノ盛衰ハ國土ノ瘠肥存亡ニ係ルヤ明カナリ



現今佛國ノ森林ハ材木ノ需用日ニ増殖シ森林ノ樹木ハ日ニ減少セリ而シテ政府所有ノ森林(全國森林地六分一)ヲ除ク外他ハ其減少ニ任セテ之ヲ制スルモノナシ世人ハ皆ナク云フ所有權利ハ貴重ナリト余モ亦タ所有權ノ貴重ナルヲ知レリ今此權利ヲ害スルナク森林維持ノ方法ヲ天下一般ニ施スノ手段ナカラシヤ政府ハ直接ニ民有森林ヲ支配セサルモ彼ノ農會ノ如ク地方ニ山林會ヲ設ケテ之ヲ維持方法ヲ勸導シ而シテ天下一般ノ森林ヲ間接ニ支配スルノ手段ナカラシヤ是殊ニ森林所有者ノ益トナルノミナラス天下一般ノ公益ナリ而ルニ政府ハ徒ニ其所有林地ノミヲ支配シテ他ノ所有林地ヲ見ルト越人カ吳人ハ肥瘠ヲ見ルカ如キ豈ニ政府ノ本分ヲ盡セルモノナラシヤ

且ツ今日私林監守者ナルモノハ皆ナ無識無能ニシテ森林維持ノ何物タルヲ知ラサル往々皆ナ然リ蓋シ今日ノ弊タル森林監守ノ職ヲ以テ老後ノ閑役ト看做シ其任ニ當ルモノハ森林所有者ノ舊僕又ハ其地方ノ獵師等ナリ如此ニノ森林ノ維持ヲ得ルノ理ハ余未タ之ヲ知ラサルナリ故ニ余ハ諸地方ニ森林學校ヲ興シ其卒業生ヲ以テ私林監守者ノ任ニ當ラシメシテ期望スルナリ山林監守者ハ固ヨリ給料モ僅少ナルカ故ニ到底學者ヲ以テ充ル能ハス且ツ學者ヲ要セサルナリ然レモ多少ノ心得ナキ者ハ以テ森林ヲ委任シ難シ

余ハ此著ヲ以テ唯タ山林實地ノ經驗ヲ示スノミ若夫レ維持ノ良法ハ大方ノ識者ニ質サ、ルヘカラサルカ故ニ余等



ノ取テ管見ヲ妄吐シ得ル所ニ非ラスト云爾

編著者識

山林實務要訣例言

一是書ハ原ト佛蘭西「セイヌ、エ、ロアーズ」郡ノ山林監護者ナ  
ル「クリノン」氏ノ著ス所ニ係リ原書名ハ「フォレスチアン、  
プラチシアン」即チ實地山林家ト稱スル者ナリ書中説ク  
所ハ山林事業ニ關スル實務ノ要領ニシテ皆ナ同氏ノ親  
ラ經驗シタル所ヲ簡易ニ述ヘタルナリ蓋シ前人ノ未ク  
發明セサル所モ亦タ少シトセス故ニ譯名ヲ命シテ山林  
實務要訣ト云フ

一原書ハ分テ上下二篇ト爲シ其上篇ニハ即チ同氏ノ所見  
ヲ載セ下篇ハ山林法律ニ關スル事ヲ略述シタル者ニシ  
佛國控訴裁判所ノ代言師タル「ウァスロト」氏ノ筆スル所ニ  
係ル故ニ之ヲ譯スルニ當リ右兩氏ノ合著ト爲ス



一 下篇山林法律ニ關スル分ハ該法律明文ノ解釋ニ非ラス  
 シテ法律上山林家ノ注意スヘキ諸件ヲ略述シタル者ナ  
 リ且ツ多クハ告訴狀證明狀ノ書式ニ係ルヲ以テ我邦人  
 ノ參觀ニ必要ナラスト信シ敢テ之ヲ略シテ載セス唯タ  
 看守者ノ心得トナルヘキ者ノミヲ舉ク  
 一 書中地名人名ノ如キハ世上一般ノ譯例ニ倣ヒ草木蟲獸  
 ノ名ハ多クハ文部省出版ノ初學須知ニ依リテ之ヲ譯シ  
 尙ホ譯字ヲ得サル者ハ原語ノ儘ニ之ヲ載ス其他尺度積  
 量ノ如キ者及ヒ譯字ノ穩妥ヲ得サル者ハ注釋ヲ加ヘテ  
 其責ヲ塞ク  
 一 字旁ニ圈點ヲ施シタル處ハ原書中異様ノ文字ヲ以テ特  
 票シタル所ニ從フノミ蓋シ讀者ヲシテ特ニ意ヲ注カシ

一 山ル爲メナラン且ツ分章別項ノ如キハ悉ク原書ノ体裁  
 ニ倣テ譯者敢テ之ヲ僭變セサル者ナリ

譯者謹誌



山林實務要訣目次

第一章 森林維持ノ事

第二章 樹木種蒔及植培ノ事

一 種子収獲法

一 有<sup>シ</sup>脂樹播種法

一 雜樹播種法

第三章 樹木増殖ノ事

一 樹木植付場所

一 壓<sup>ス</sup>條<sup>ノ</sup>法

一 同上注意事項

一 苗木ノ事

一 植付時候



- 一 植付方法
  - 一 植料苗木種類撰方
  - 一 樹木種類
  - 一 樹木伐養法
  - 一 毎年落葉スル樹木播種法
  - 一 樹木植付受負
  - 一 常盤木ノ播種
- 第四章 下枝下草ヲ刈ル事
- 一 長大ニ至ラサル前ニ伐採スヘキ森林手入
  - 一 大樹ヲ生育スル森林ノ手入
  - 一 下枝ヲ刈ル

第五章 森林支配ノ事

- 一 將來豫慮  
フレイオリイヤンス
  - 一 小樹森林ノ伐採區別
  - 一 芽立木<sup>ブリス</sup>森林伐採年限
  - 一 同上伐木法
  - 一 同森林内ノ大樹
  - 一 芽立木伐採年限ノ變換
  - 一 大樹林木伐採法
  - 一 同上ニ關スル畫線區別法及公園法
  - 一 有脂木伐採法
  - 一 伐木順序
  - 一 芽立木森林中ニ大樹ヲ生育スル
- 第六章 伐木方法及収獲方法ノ事



- 一 伐木方法
- 一 寒氣ニ感シ易キ樹木伐採法
- 一 森林収獲物
- 第七章 森林計算ノ事
- 一 森林樹木計算
- 一 森林地價計算
- 一 大樹森林計算
- 一 道路礦石等ニ關スル注意
- 第八章 森林法律ノ事
- 一 官林私林ニ關スル看守ノ心得
- 一 官林監守人ノ權限
- 一 私林監守人ノ權限

- 一 森林内ノ鳥獸ヲ狩ル事
- 一 治罪法心得
- 以上



山林實務要訣

佛蘭西

山林守護家  
ウァスロ一氏 著

大日本

陸 實譯

第一章 森林維持ノ事

凡ソ森林ノ樹木ヲ損害シ及ヒ之カ生養維持ノ道ヲ障碍ス  
 ル者ハ其種類數多アリトス而シテ彼ノ共用權按トスルニ  
 有者ノ土地ニ於テ其郡内人民カ土地ノ廣狹又ハ需用ノ  
 寡コシテ薪木及用材ヲ伐採シ或ハ畜類ヲ放牧シ得ルノ權  
 ナリ筈ト譯セリ民法第三卷第五章ヲ見ヨ  
 其ノ一ニ居ルモノナリ共用權ノ内ニモ薪木伐採ト定期採材  
 等ハ唯々森林所有者ノ收入高ク減殺スルニ止リテ其他森  
 林障害ト爲ルヲ無シト雖モ畜類放牧ノ事ニ至テハ大ニ妨



害ヲ成スモノコシテ森林所有者ノ忽ニスヘカササル所  
リ薪材伐採ノ如キハ所有者ガ預辨シテ其収入減少ノ高チ  
知ルヘシ畜類ヲ放牧スルコトハ森林ノ繁茂生育ヲ害スルコ  
甚ク且ツ諸種ノ弊害ハ之ヨリ續出スルモノナリ故ニ所  
有者如是ノ大損害ヲ免レント欲セハ今日ノ勞費ヲ厭ハス  
シテ早ク是等共用權ノ施行ヲ防クノ策ヲ立ツヘシ佛國森  
林法第六十四條ニ依レハ森林所有者ハ其樹木ニ障害アル  
課税ヲ免除セラル、ヲ得ヘキモノナリトス  
既ニ前段ニ言ヘルカ如ク畜類ヲ森林ニ放牧スルコトハ薪材  
伐採ノ比ニ非ス畜類ハ唯々樹林ヲ荒却スルノミナラス其  
他諸種ノ弊害竝出スルコト甚ク畜類ノ内ニテ牛ハ草ヲ喰フ  
モノナリト雖厄艸ナキ時ニハ樹木ノ萌芽又ハ若木苗木等

ヲ嚙取ルモノナリ馬、驢、馬、野羊、羊ハ猶ホ一層森林ヲ害スル  
モノナリ此等畜類ハ好テ樹木ノ皮ヲ喰ヒ又ハ若木ノ葉ヲ  
嚙ムモノナリ生樹ニシテ其皮ヲ剝カレ其葉ヲ喰ハル、ハ  
天然ノ發育ヲ害スルコト甚ク假令ヒ枯死スルニ至ラサ  
ルモ之カ爲ニ痛苦ヲ受クルコト尠少ナラサルナリ畜類ヲ森  
林ニ放牧スルノ禍害ハ其レ斯ノ如シ如何ニ注意スルモ放  
牧シタル上ハ此患ヲ免ルニ由ナキモノナリ故ニ是等ノ課  
税供用權ノ施行ハ所有者ニ取テ猶ハ山林家ノ勉メテ免カ  
レント欲スル所ナリトス  
畜類ノ森林ニ害アルコトハ既ニ陳説スルカ如シ今マ此ニ人  
ニシテ森林ニ害アルノ所爲アリ例ヘハ山林所有者カ其勞  
費ヲ厭フテ森林ノ務ヲ怠リ或ハ收入ヲ一時ニ増加セント



四  
欲ノ過多ノ伐採ヲ爲シ或ハ時季ヲ擇ハスシテ斧斤ヲ入レ  
或ハ蘗木ヲ洗伐(洗伐トハ俗ニ間引キト云フナリ)スルノ  
時ヲ後レ或ハ之ヲ洗伐スルノ度ヲ過マ或ハ伐採ノ後チ樹  
苗ノ植附ヲ怠ルキハ森林ヲ損害スルモノナリ故ニ山林所  
有者ハ其維持ノ方法ヲ誤ルヘカラス  
凡ソ森林ニ害アルモノヲ防禦シテ之カ維持ヲ能セント欲  
セハ有識正直ナル人ヲ撰テ之ニ保護ヲ委任スルニ如クハ  
莫シ山林保護者ヲ撰ムハ尤モ肝要ナルトニシテ輕率ニ委  
托ス可ラス正直ナル者アリ有識ナル者アリ然ル能ク其道  
ニ通シ能ク其業ニ達スルモノヲ撰フヲ要ス山林ヲ養育ス  
ルハ田畑ヲ耕作スルト大ニ異ナルモノアリ田畑ハ其方法  
ヲ誤ルモ一年ノ収獲ヲ減少スルニ過キスト雖モ森林養育

五  
ノ方法ヲ誤ルキハ後日永遠ノ損害ヲ貽スモノナリ其損害  
タルヤ一時ノ収入高チ減スルノミナラス漸次ニ森林ノ疲  
瘁ニ至ルヲ見ルヲアリ實ニ森林ノ疲瘁ニ至ルヲハ豫想ヨ  
リモ速ナルト往々嘗ナ然リ予カ茲ニ陳述スルハ席上ノ空  
言ニ非ラズ現ニ某森林ハ所有者又ハ保護者ノ無謀無識ニ  
因テ疲瘁ニ至リシモノヲ見タリ  
森林養育維持ノ方法ヨリシテ却テ森林ヲ疲瘁ナラシムル  
モノアリ此障害ノ類ハ特ニ乾地及ヒ山中ノ森林ニ多シト  
ス(通常履行スル所ノ方法及ヒ其最良ナルモノ等ハ委シク  
第五章及ヒ第六章ニ述フヘシ)森林ニ天然生殖スル虫獸ノ  
類ハ幾分カ樹木ヲ害スルニ至ルモノアリ例ヘハ野兔ノ如  
キ其繁殖尤モ速ニシテ數多ニ至ルキハ殆ント之ヲ狩盡シ



六  
難キモノナリ兔ハ苗木植木古木等ヲ害スル甚シキモノナ  
ルカ故ニ能ク森林ヲ維持セント欲スルモノハ之ヲ狩盡ス  
カ又ハ之ヲ畜フモ繁殖セシメサルノ注意ヲ爲シ勉テ之ヲ  
苗木植木ニ遠カラシムヘシ兔ハ森林ニ害アルモノナレモ  
森林守護者ノ爲ニ敢テ妨アルモノニ非ラス却テ無代價ノ  
好食料タルカ故ニ或ハ此獸ヲ狩盡スル難ガルヘシ  
極寒ノ候青艸地ヲ拂テ空キノ節ニ至レハ兔ハ木皮ヲ嚙テ  
其食ト爲シ漆樹、桑皮樹、亞加矢加、等ノ皮ハ好テ其食料ト爲  
スモノナリ麋鹿等モ亦タ森林ニ害スル獸類ナリト雖モ此  
等ハ大抵私有森林ニ稀少ナル者ナレハ其害ヲ見ルコトナカ  
ルヘシ然レモ繁殖ニ至ル時ハ其害モ從テ大ナル者ナレハ  
務テ其繁殖ヲ防禦スルコト怠ルヘカラサルナリ

七  
蟲類ガ樹木ノ幹身ヲ喰嚙スルヨリ森林ノ害ヲ來タスコトア  
リ蟲類ノ食流ヨリ林樹ニ病ヲ生シ枯死スルアリ又ハ之ヨ  
リ樹幹ニ腐敗ヲ生スルアリ蓋シ樹身ノ蟲疵ハ土地ノ濕氣  
ニ觸レテ腐爛スルカ故ニ腐敗ヲ來タスモノナリ  
森林蟲害ノ豫防ハ樹木ノ蟲疵ヲ受テ腐敗セサル者ヲ伐倒  
シテ之ヲ遠サクルニ在リトス何トナレハ腐敗木ハ蟲類ノ  
爲ニ殆ント巢穴ノ如キモノニシテ最初ハ卵様ニテ存在セ  
ルカ故ニ甚タ介意スルニ足サルカ如シト雖モ其生長シテ  
四方ニ散スルヤ數百根ノ樹木ヲ踏倒スルニ至ルヘケレハ  
ナリ蠶螂、吸液蟲、蠅、蝶等ノ類ハ樹木ノ幹、根、ヲ食ヒ又ハ其葉  
花、實、ヲ食フテ森林ニ害ヲ作スモノナリト雖モ是等ノ蟲類  
ハ各其大敵アリテ狩去ラル、者ナリ鴉、鴟、鶉、鵲、啄木、等ノ類



ハ樹木ノ皮又身ヲ啄刺シテ是等ノ蟲ヲ食ヒ又其卵子ヲ喰  
フモノナリ又モツラ鼠ハ地底ニ在テ蟲類ヲ食スルヲシカラス  
右ノ鳥類樹木ヲ啄刺スルヲ見レハ大ニ森林ノ害ヲ爲スカ  
如クナレモ能ク之ヲ觀察スレハ又然ラサルモノアリ其樹  
身ヲ啄傷スルハ全ク害蟲ヲ尋テ又ハ巢ヲ造ルカ爲ナルノ  
ミ且ツ樹身ニ疵ヲ附シルモ朽木又ハ蟲食ノ樹木ニシテ決  
シテ壯健ノ樹木ニ害ナキモノナリ予ハ森林ノ爲ニ此等ノ  
鳥類ヲ保護セサルヲ得サルナリ

樹木ノ枝上ニ栖住スル獸類ノ内ニテ鼠、栗鼠、ノ如キハ亦ク木  
實及苗木ヲ食シ又ク樹木ノ皮ヲ嚙破リテ大ニ森林ノ害ヲ  
爲スモノナリ此等ノ獸類モ亦ク其大敵アリテ常ニ之ト戰  
闘スルモノナリ即チ梟、鴞、木兔、狸、等ハ此等ノ獸類ヲ狩リ盡

サント盡カスルモノナリ夫レ如此ク天帝ハ至仁至公ノ心  
ヲ以テ萬物ノ死生存亡ヲ平均シ有害ナル者アレハ又ク有  
益ナル者アリ以テ此世界ヲ調整スル者ナリ然ルニ無情者  
ハ此理ヲ悟ラス森林ノ鳥獸ヲ殺ス者ニハ褒賞ヲ與ル等ノ  
事アリ感ヘルノ甚キモノニ非スヤ凡ソ鳥類ノ害虫ヲ食ス  
ル者ハ前陳ノ外ニ猶ホ數多アリ若シ此鳥類微セハ今日森  
林田畑ノ虫害ヲ被ル其レ幾多シヤ春夏ハ此等ノ鳥類ハ害  
蟲ヲ食テ其繁殖ヲ禦キ秋冬ハ蟲卵ヲ食テ其發生ヲ防ク如  
斯有益ノ鳥類ヲ殺スモノハ固ヨリ宜ク罰ヲ加フヘキナリ  
況ンヤ之ヲ賞スルノ理アルヘケンヤ此理ヲ知リテ地産ノ  
殖生ヲ計ル者ハ有害ノ蟲類獸類ヲ殺スモ敢テ有益ナル鳥  
獸ヲ殺サ、ルベシ若シ天然死生ノ平均法ヲ破リ偏ニ一種



ノ蟲獸ヲ殺スキハ其敵必ス殖生シテ大ニ禍害ヲ來タスヘ  
シ花園菜圃等ニ根切蟲其他害蟲増殖ノ植物ヲ倒シ盡ス  
其例少カラス其原由ヲ尋ルニ彼ノ害蟲ヲ食スル所ノ鼯鼠  
ヲ狩盡セルニ因ルモノ多シ夫レ鼯鼠ハ形大ナリ陷穽ヲ作  
リテ之ヲ捕獲スヘシ而シテ害蟲ハ其形小ナルカ故ニ之ヲ  
狩盡スフ尤モ難シトス今其障害ノ厚薄ト其捕狩ノ難易ト  
ヲ以テ相較スルモ鼯鼠ヲ殺ササルニ如カサルヲ知ルヘ  
シ  
蟲獸ノ外ニ猶ホ草木ノ繁茂シテ樹林ニ害アルモノアリ例  
ヘハ草木ノ地面ヲ蔽覆シテ他ノ樹木ノ生長ヲ妨クルアリ  
又ハ日光ヲ壅塞スルアリ又ハ地中ノ水氣ヲ他ノ樹木ニ分  
與セサルアリ又ハ苗木ヲ壓倒スルアリ又ハ直ニ他樹木ノ

養液ヲ吸奪シ生長スルアリ是等ノ雜草木ハ總テ森樹ニ害  
アルモノナリ  
右ノ有害草木中ニモ亦タ自ラ其有害ニ厚薄アリ茲ニ其最  
有害ナル者ヲ舉グルトハ灌木、棘藪、金雀艸、茨榛、蘿蔓、覆盆木、  
等ハ皆ナ有害草木ナリトス樹木ニ纏着シテ害ヲ爲スノ草  
木ヲ刈除スルニハ其被害樹木ノ七八歳乃至十歳ヲ歴タル  
比ヒ鶴嘴鋤ヲ以テ其根ヲ掘リ之ヲ道路林間ニ移棄スヘシ  
然ルレハ樹木勢力ヲ得テ速ニ生長スルモノナリ其生長充  
分ニシテ深蔭ヲ爲スレハ他ノ害草自ラ生長スル能ハサル  
ヘシ若シ樹木ノ或ハ疎ニシテ深蔭ヲ爲スニ至ラサルレハ  
壓條分植法ヲ以テ其株數ヲ増殖スヘシ如是スルレハ害草  
日光ヲ受クル能ハスノ其生育ヲ遂クル能ハサルモノナリ



凡ソ何種類ノ樹木ニ拘ラス其繁茂スルヲ密ナルキハ周邊  
 ニ在ル草木ノ生長ヲ妨害スルモノナリ例ヘハ白楊樹類ハ  
 殊ニ新墾地ニ在リテ其生長速ナルカ故ニ是等樹木ノ周邊  
 ニ堅木質ノ樹ヲ植ルキハ爲ニ其生長ヲ妨害セラル、ナリ  
 堅木類即チ樺、樫等ヲ以テ白楊類ニ比較セハ其價格最モ高  
 貴ナルカ故ニ勉テ之ヲ保護スヘキナリ此等ノ樹類ヲ白楊  
 等ト同時ニ植養スルキハ十二年ヲ歷ルニ至テ白楊等ノ生  
 長ハ樺、樫等ニ比シテ三メートル乃至四メートルノ高サヲ  
 優得スヘシ此場合ニ至テ樺、樫ノ類ハ爲ニ壓倒セラレ身幹  
 益々衰微薄弱シ其生長益々遲鈍ナルヘシ是等ノ樹木ヲ助  
 ケンニハ即チ有害樹木ヲ伐踏スルノ外ナカルヘシ白楊等  
 ハ其生長ノ速ナルヲ如是クナルカ故ニ十年ヲ經ルニ及テ

其材量價格ハ其伐採費用ヲ償フチ得ヘシ且ツ此等ノ樹ハ  
 伐採ノ後其蘗ハ斬口ヨリ生セシテ根底ヨリ生スルカ故  
 ニ一本立ノ木ヲ得難キモノナリ故ニ伐採ノ時ニハ必ス其  
 根元ヨリ斬取スルヲ良シトス其他蔽滅ノ類ハ森林ニ害ス  
 ルモノニシテ殊ニ植床ニ繁生スルトハ最モ害アリ此害草  
 ヲ刈去スルニハ其根ヲ掘テ棄ルニ在ルノミ  
 森林内ニ落ナタル木葉及ヒ之ニ生シタル枯草ハ必ス掃除  
 スヘカラス何トナレハ地ヲ覆ヘル落葉及枯草ハ樹木ノ養  
 料ト爲ルノミナラス冬季ニ至テハ樹根ヲ蔽覆シテ爲ニ凍  
 氷ノ難ヲ防シテアリ夏季ニハ土地ノ蒸發氣ヲシテ過度ニ  
 起ルノ患ナカラシムヘシ  
 樹木ノ下枝シタヲ刈ルエダトハ最モ緊切ニ養林法ニシテ此方法ヨ



十四  
リ却テ種々ノ弊害ヲ來タスヲアリ故ニ此事ヲ擔任スル人  
ハ老練實着ノ性質ヲ具ヘ且ツ樹林ヲ一見シテ其下枝ノ斬  
取スヘキ者ヲ識別スル眼力ヲ具ヘサルヘカラス下枝ノ刈  
取ルヘキ者トハ樹幹ノ最下ニ在ル枝ニシテ其枝形ノ最モ  
惡キモノナリ且ツ之ヲ斬取ルニハ可及的ニ身幹ノ近傍即  
チ枝ノ根元ヨリ斬切スヘシ凡ソ樹木ノ未ダ五歳ニ至ラサ  
ル者ハ下枝ヲ切斷スヘカラス又下枝切斷ノ賃錢ハ決シテ  
森林看護者ニ渡スヘカラス何トナレハ保護者ハ其職務ヲ  
忽ニシテ潜カニ下枝切斷ノ内職ニ從事スルノ弊アレハナ  
リ  
森林所有者ハ其森林ヲ委托スヘキ人物ヲ撰定スルコト最モ  
肝要ナリトス其人物タルモノハ正直着實ニシテ且ツ森林

學専門ノ識ナカルヘカラス森林看護者ハ森林守護ノ字義  
ヲ執テ森林警察ノ如ク誤解スル者少カラス又森林所有者  
モ其看護者ヲ見做スコト如是ク誤リテ其人物ノ撰定ヲ過ツ  
コト屢之アリ夫レ森林看護ノ役ハ警察ノ務アルハ勿論ナレ  
モ當ニ森林ヲ警察スルノミナラス又ク森林ノ維持及生養  
ヲモ司ルナリ森林所有者ハ之ヲ察セサル者多ク且ツ其人  
物ノ撰定ニ當ル者モ多カラス是レ予ガ曾テ樹林維持法ノ  
不充分ナルヲ論說シ并テ實地森林維持法ニ係ル専門學校  
ノ設立ヲ主張スル所以ナリ凡ソ森林看護者ヲ撰フニハ其  
森林近傍ニ住スル人ヲ撰フ可ラス何トナレハ或ハ私利ヲ  
計ルノ弊害ヲ生スルコトアレハナリ又ク看護者ニハ充分  
ノ給料ヲ與テ而シテ森林収護物ハ決シテ之ヲ分與スル等ノ



約束ヲ爲ス可ラス之ヨリシテ弊害ヲ生スルキハ事物錯乱  
 シテ森林維持方ニ妨害アルコト大ナリトス  
 森林維持ノ方法ニ猶又タ肝要ナルモノハ除水法ナリ森林  
 地内ニ水溜アルキハ此溜水漸々地底ニ浸入シテ遂ニ其地  
 質ニ濕氣ヲ多クスルニ至ルヘシ地質ニ濕氣多クレハ森林  
 樹木ノ減少ヲ來タスコトアリ故ニ森林中ニハ溜水等ナキヤ  
 ヲ注意スヘシ森林ノ除水法ハ地面ノ勾配ヲ量リテ渠溝ヲ  
 穿テ卑地ノ溜水ヲ此渠溝ニ引ク爲ニ又小溝ヲ通スヘシ此  
 小溝ヲ穿掘スルニハ其入費長サ一メートルニ付キ僅ニ金  
 五仙乃至七仙ニ過キサルノミ又土地ノ勾配ヲ見ルニハ冬  
 季雨多キ時ニ方リテ林地ヲ巡視シ雨水ノ流通スル路筋ヲ  
 尋テ之ニ杭ヲ立テ季候ノ長キ時節ニハ此標杭ヲ目印トシ

テ小溝ヲ掘ルヘシ

森林ノ地位ニヨリテハ一個ノ渠溝ヲ穿テ一森林内ノ溜水  
 ヲ除クコトヲ得ヘシ例ニハ森林ノ周圍ニ不毛ノ澤地アルキ  
 ハ最モ此法ヲ施スニ適當ナルヘシ蓋シ此澤地ノ水ハ本ト  
 近傍ノ山ニ溜ル水ニシテ地底ニ浸入スルト雖モ粘土ノ磐  
 アルニ遇ヒ深ク地底ニ入ル能ハサルカ爲メ磐上ヲ流通シ  
 テ山麓ニ再湧スルモノ也故ニ此水ヲ除クニハ右山ヲ環リ  
 テ溝ヲ穿テ而シテ溝ノ深サヲ粘土磐地迄ニ至ラシムヘシ然  
 ルキハ山麓ニ再湧スル水ハ皆ナ此溝ヲ流通シテ林地ニ濕  
 氣ヲ留メサルナリ他ノ地位ニヨリテハ林地ノ質其表面皆  
 粘土ニシテ水ノ地中ニ浸入スル能ハサルカ爲メ又ハ地面  
 ニ水ノ流通スヘキ勾配ナキカ爲ニ溜滞スル場合アリ此場



合ニ於テハ深井ヲ穿テ又ハ溝ノ深サ二三メートルアル者  
 ヲ穿テ此水ヲ地底ニ吸浸セシムルナリ  
 寒暑風雪雷等ハ亦タ森林ニ害スルモノナリ此等ハ實際ニ  
 就テ豫防ヲ爲スヘキモノナリ其他凍氣等ハ大ニ害ヲ森林  
 ニ興フヘシ例ヘハ冬季ノ凍氷ハ樹木ニ腫脹又ハニツ身(ニ  
 ツ身トハ樹肉ニ二重ヲ生シタル者ヲ云フ即チ Doublebarkier ト  
 云ヘル語ナリ譯字ヲ知ラス)等ノ疵ヲ生シ春季ノ凍氷ハ新  
 發ノ芽苗ヲ傷却スルナリ之ヲ防禦スルニハ先ヅ常ニ土地  
 ノ除水法ヲ充分ニ行ヒ且ツ森林ノ東北ニハ常盤木ノ大樹  
 ヲ多ク植ユルト是ナリ  
 森林看護ノ事ニ就テ或ル森林家曰ヘルアリ樹林ノ守護ヲ  
 爲ス者ハ銃器ヲ持スシテ樹木培植ノ農具ヲ持ツヘシト此

言ヤ實ニ當然ノ理ナルガ如シト雖ヒ亦タ席上ノ空論タル  
 ノニ此說ヤ森林看護者ヲシテ養林農務ヲ兼テシムルノ主  
 旨ナレハ森林所有者ノ爲メニ至便ナルガ如シ然ヒ實際ニ  
 就テ之ヲ觀察スルヒハ唯ニ其効ヲ見サルノミナラス又タ  
 大ニ其害ヲ見ルナリ例ヘハ山林樹木ノ盜竊ニ遭フアル  
 者所有者之ヲ看護者ニ責ルモ看護者ハ此時ニ樹木培植ニ  
 従事セルヲ以テ此責ヲ辭スヘシ又タ樹木培植ノ怠惰ヲ責  
 ムルモ守護人ハ此時ニ森林警護ニ従事セルヲ以テ此責ヲ  
 辭スヘシ如是ナルヒハ或ル森林家ノ說其効ナクシテ却テ  
 害アルヲ知ルニ足ル然ヒ看護者ハ森林内ニ於テ爲スヘキ  
 ノ業ナキニ非ラズ是等ハ所有者ヨリ臨時ニ依托シテ可ナ  
 リ



森林ニ有害ナル者ノ最モ甚キモノハ山林火災ニシテ其最モ豫防シ難キモノモ亦ヲ火災ナリトス其防禦ノ方法ハ他ニ非ラス即チ林内及林傍ニ於テ焚火スルヲ禁スルヲ特ニ乾燥ノ候及ヒ烈風ノ日ニハ最モ火ヲ謹マシムヘキヲ止ムヲ得ヌシテ森林ノ近傍ニ焚火スルハ森林ト焚火場トノ間ニ三乃至四デシメトカ三寸三分ニ當ル高サノ塙壁ヲ積ミ立テシムヘシ是等ハ豫防ノ一法ニシテ其他放火天然發火等ノ災ハ豫防スルニ由ナシト雖モ常ニ火ヲ謹シムハ緊要ノ事ナリトス

萬一林内ニ火災ノ起リタルハ看護者ハ多人數ヲ呼集シテ斧斤又ハ鋤犁等ヲ執ラシメテ之ヲ率ヒテ火前ニ當ル林樹ヲ伐倒シ之ヲ火後ニ投棄シテ其跡ニ一帯ノ空地ヲ作り

之ニ塙壁ヲ築テ火ノ進行ヲ遮斷スヘシ

右ノ非常事變ヲ按スレハ予ハ益々森林看護者ニ培植又發樹ヲ兼務セシメ或ハ道路修復ヲ兼任セシメテ雇ヒ置クノ不可ナルヲ感スルナリ如是定雇人ハ平常不勉強ナル者ナレハ其益固ヨリ少キノミナラス變災アルニ當リテモ恐クハ用ヲ爲スナカルヘシ若シ此等人員ヲ雇置カハ能ク其人物ヲ撰定スルカ又ハ正確ナル指揮者ヲ附置クヘシ

此章ニ陳述セシハ森林所有者及ヒ森林維持ノ爲ニ最モ有益ナル所ナリトス然レ是レ其大略ナルノミ若シ夫レ詳細事項ノ如キハ此單編ノ能ク記シ盡ス所ニ非ラス請フ是ヨリ進テ樹木各種ノ植方及蒔方ニ關スル事ヲ述フヘシ

第二章 樹木ノ種蒔及培植ノ事



如何ニ繁茂セル森林ト雖凡天然又人爲ニ因テ其種子ヲ蒔  
 キ又ハ其苗子ヲ植ユルニ非レハ土地ニ樹林ナキニ至ルヘ  
 シ伐倒セル樹木又ハ枯死セル樹木ノ空跡ヲ補充セシムコハ  
 茲ニ種々ノ方法アリテ存ス夫レ樹木ノ種類若クハ土地ノ  
 性質ニ因テハ種子自ラ地ニ落テテ發生スルアリ或ハ種子  
 風ニ吹カレテ數里外ヨリ飛來スルアリ樺樹、秦皮「シヤルム」  
 楓樹、柳樹及ヒ其他有脂樹等ハ皆ナ是類ナリ又樹林地質ノ  
 乾燥ナル所ハ菓實地ニ落ルモ發生スルヲ得サルモノアリ  
 此等ノ場合ニ於テハ人爲ニテ其種ヲ蒔キ其苗ヲ植ヘサル  
 ヘカラス種子ヲ蒔キ苗子ヲ育フ所ヲ名テ苗床ト稱ス今茲  
 ニ諸種樹木ノ詳解ヲ舉クヘシ

一種子収獲法

○榿樹ハ其種類多シト雖凡皆ナ身長ク幹太ク而シテ有用ノ材  
 ト爲ル花開クト同時ニ葉生シ其實ヲ「グラソ」ト名ク十月ニ  
 至リテ熟ス  
 ○山毛櫨ハ亦ク長大ニ至ルト雖凡其價格ハ榿ニ及ハス而シテ  
 其用ヲ爲スル甚ク多シ其花ニハ雌雄ノ別アリテ葉ト共ニ  
 發生ス其實ハ包袋中ニ在リテ十月ニ至レハ敗落ス  
 ○栗樹ハ榿樹及山毛櫨ニ齊シク長大ニ至ルノ樹木ナリ苗子  
 ノ時ヨリ十五年乃至二十年ニ至ル迄ハ其成長殊ニ速ナリ  
 木質ハ甚美ニシテ世間ノ賞好スル所タリ其花亦ク雌雄ノ  
 別アリ春季ニ於テ開キ馨香最モ強シ其實ハ針毛アル包袋  
 中ニ一個又ハ二三個アリ十月ニ至リテ熟成ス  
 以上三種ノ樹木ハ其菓實天然ニ枝上ニ脱落スルルキヲ以テ



成熟ノ期ト爲ス其以前ニ落キタル者ハ皆チ未熟ニシテ之  
 チ時クモ發生セサル者多シ成熟ノ種子ヲ撰テ之ヲ人家ノ  
 側ニ運ヒ之ヲ四十乃至五十「サンチメートル」ノ高サニ堆積  
 シ毎日之ヲ搔撥シテ種中ニ含有セル餘分ノ濕氣ヲ除去ス  
 ヘシ十一月ニ至テ右種子ヲ空氣ノ能ク流通セル室内ニ藏  
 ムヘシ其貯藏法ハ種子ト砂トヲ各相ヒ層ヲ作シ以テ鼠ノ  
 竊喰ヲ防クモノナリ  
 春陽ノ候草木ノ發生スル氣節ニハ右種子モ亦發芽スヘシ  
 而レ空氣ノ冷寒未ク去ラサルカ爲メ右三種ノ萌芽ハ空氣  
 及日光ニ觸レテ萎靡スルコトアリ故ニ播種地ヲ整ヘテ後チ  
 徐ニ之ヲ移播シ三乃至四「サンチメートル」ノ土ヲ其上ニ盛  
 リ置クヘシ

Chacme

茲ニ我國ノ森林ニ生育スル樹木ニシテ年々落葉スル者ノ  
 種子収穫期節ヲ記スヘシ其他庭園公園ニ在ル諸種ノ樹木  
 多シト雖モ此小冊子ノ能ク盡ス所ニ非ルヲ以テ之ヲ略ス  
 「シヤルム」イヌハ其花ニ雌雄ノ別アリ其果實ハ楕圓形ニシ  
 テ稜角アリ十一月ノ候ニ至テ菓實黃色ヲ帶タル時ハ直ニ  
 之ヲ採取スヘシ地ニ墜落スル時ハ其形細小ナルヲ以テ甚  
 ク拾集シ難シ採取ノ時ハ直ニ之ヲ播蒔スルカ若クハ椶實  
 ト同様ニ貯藏スヘシ此樹ノ菓實ハ播蒔ノ後チ十八ヶ月チ  
 歷サレハ發生セサルナリ播種地質ハ培養氣多クシテ濕氣  
 少キチ良シトス  
 楡樹ハ其花一個ニシテ雌雄ヲ兼チ數花相ヒ黃帶シテ開ク  
 モノナリ且ツ花ハ葉ノ出ル前ニ先チ開發ス其菓實ハ楕圓



ニシテ平薄ナリ此樹木ハ數種アリテ而ソ種類ニ從テ菓實  
 ノ成熟ニ遲速アルモノナリ然ルモ通常五月或ハ六月ニ至リ  
 テ成熟ス播種ハ成熟ノ時ニ直ニ行フヘシ然ルモ其冬季  
 ニ入ルヤ苗木既ニ充分成育シテ凍害ヲ受ケヌ或ハ種子ヲ  
 貯置シテ翌春ニ播種スル者アリト雖モ其發生甚ク難シ就  
 中春季雨少シテ快晴續クハ發芽スルノ最モ稀ナリ播  
 種ノ地質ハ最上ノ地質ヲ良シトス其耕作ハ深ク土地ヲ撥  
 起シ細ク之ヲ混セシメ雨後ヲ待テ直ニ播下スヘシ且ツ雨  
 脚ノ烈ク來ル場所ニ播下スヘカラス播種後ハ直ニ一乃至  
 ニ「サ」ナメイトル」ノ土ヲ以テ之ヲ覆フヘシ  
 桑皮樹ハ其花雌雄ヲ兼合シ四月ニ至ニ葉ト共ニ開發ス其  
 實ハ中秋ニ至テ成熟シ成熟ノ時直ニ播下スヘシ通常ハ播

種年内ニ發芽スルモノナレモ一年又二年ヲ歷サレハ發生  
 セサルヲ屢之アリ播種ノ地質ハ肥沃ニシテ柔ラカナルチ  
 良シトス而モ沙地ニシテ濕氣多キ地ニ能ク發生セル例少  
 カラス種子ヲ覆フ厚キハ宜シカラス  
 楓樹ハ其種類多ク或ハ林地ニ自ラ生スルヲアリ其花ハ雌  
 雄ノ別アリ又ハ之ヲ兼有スルアリ其實ハ九月ノ末ニ至テ  
 成熟シ翌年ノ春若クハ成熟ノ時ニ播下スルチ得ヘシ播種  
 後直ニ發芽スルアリ又五六月後ニ發芽スルアリ播種地ハ  
 耕耕ヲ怠ラヌ且ツ覆土ヲ少ク興フヘシ  
 オールヌ（譯字ヲ知ラス）ハ其花ニ雌雄ノ別アリテ初春ニ開ク其實  
 ハ松實ノ如クニシテ稍ヤ小ナリ十一月ニ至テ成熟ス種子  
 ヲ取ルニハ先ツ日光ニ晒シ其實ヲ開破セシメ之ヲ篩子ニ



掛テ種子ヲ取ルナリ之ヲ貯藏スルニハ空氣流通ノ室ニ置  
 シヘシ播種ノ地ハ濕氣アルヲ良シトス然レ雨水ノ漲流ス  
 ル處ハ宜カラズ  
 柳揚ハ樹木ニ雌雄ノ別アリテ花モ亦ヨ樹木ニ從テ雌雄ア  
 リ花ハ數個集合シテ葇荑ヲ成シ葉ノ出ルニ先テ開ク其實  
 ハ羽毛ノ如キ者ニシテ飄然風ニ從テ數里外ニ飛フ三月初  
 旬ヨリ四月下旬ノ間ニ成熟シ成熟ノ後直ニ播種スヘシ  
 該樹ヲ増殖スルニハ播種ノ外ニ又ク插穂法アリ插穂法ハ  
 二三歳ナル柳枝ヲ撰ミ之ヲ插穂スヘシ既ニ生根シタル後  
 三年ヲ經テ之ヲ移植スヘシ予曾テ柳樹ノ枝周圍十五センチ  
 ヤメートルニ至リシ者ノ櫻植シタルヲ實見セリ若シ此法  
 ニヨラスンテ播種法ヲ用ルキハ新鮮ナル土地ヲ撰ミ之ヲ

精耕シテ播下シ土ヲ盛テ其種子ヲ覆フヘシ  
 小櫻樹ハ天然ニ森林ニ生育ス其木質美ニシテ其價格モ亦  
 タ高シ造作家ハ之ヲ用材ニ供スルコト多シ其花ハ雌雄ノ別  
 アリ又ハ兩性ヲ餘スルアリ其實ハ小ニシテ尻長シ之ヲ食  
 事ニ用ユ又ハ之ヲ釀シテ銘酒ヲ造ルヘシ其成熟ハ六月ニ  
 シテ直ニ之ヲ播種ス翌春ニ至ラサレハ發生セス此菓實ハ  
 種大ニシテ肉薄シ播種スルニハ肉附キタル儘ニ埋メ肉腐  
 リテ其發芽力ヲ助ケ且ツ發芽後ノ肥料トナルヘシ播種ス  
 ヘキ地質ハ黒土多キヲ良トス  
 神樹ト稱スル者カ歡木ハ森林ニ於テ貴重ナル樹木ノ一ナリ  
 其木質甚タ美ニシテ其生長至テ速ナリ且ツ最良ノ土地ニ  
 非ルモ能ク生育ス其花ハ藤花ノ如ク花房ヲ垂ル春暖ノ候



ニ至テ開發シ香氣甚ク好シ其果實ハ通常ノ菓物形ニ非ラ  
 スシテ猶ホ莢豆ノ實ニ似タリ其ノ黃色ヲ帶フルモ之ヲ採  
 取スレハ手ニ觸レ蹙然トシ聲アルヲ猶ホ枯レタル豆莢ノ  
 如シ此時ニ之ヲ收穫シテ乾燥ニシテ濕氣ナキ室内ニ貯置  
 シヘシ翌年四月五月ノ交ニ至テ右豆莢様ノ實ヲ割テ種子  
 ヲ取り之ヲ濕氣少ク且ツ精耕セル畑地ニ播種スヘシ萌芽  
 ハ其年末ニ至テ二月トル乃至三月トルノ生長ヲ得ル  
 ナリ  
 菩提樹ハ天然ニ森林ニ生長スルモノナリ之ヲ増殖スルニ  
 ハ播種及櫻術ヲ用ユ其木肌ハ白色ニシテ需用甚ク多シ什  
 具製作師指物師彫刻師ハ最モ此木材ヲ用ユ其花ハ花梗一  
 個ニ數花ヲ群戴シ初夏ノ候ニ至テ開ク花莖ハ蜜蜂ニ最良

ノ蜜汁ヲ與ヘ花ハ藥用ニ供スヘシ樹幹ノ皮ハ「サトル」ト名  
 クル綱ヲ製スヘキモノナリ其實ハ軟柔ナル毛ノアル豆莢  
 様ノ包中ニ在リテ暮秋ニ至レハ成熟ス成熟ノ時ハ直ニ之  
 ヲ播下シテ可ナリ  
 白陽樹ハ樹木ニ雌雄ノ分アリテ其花モ亦タ樹木ノ性ニ從  
 テ雌雄アルモノナリ而シテ花ハ各群ヲ成シテ開發ス其實ハ  
 種子甚多シ之ヲ増殖スルニハ播種及櫻術ヲ用ユト雖モ櫻  
 術ヲ用ユルハ常ナリトス蓋シ種子ヲ播テ其芽ノ生長ヲ待  
 ツハ既ニ生長セル枝ヲ櫻スルノ速効ナルニ如カサルナリ  
 且ツ櫻術ヲ播種ニ比スレハ其生育ノ速ナル三年ノ差ヲ見  
 ルヘシ櫻術ヲ行フニハ新鮮ノ土地ニ畝ヲ作りテ之ニ插櫻  
 スヘシ櫻術ニ用ル枝ハ二三年ヲ歷タル枝ヲ良シトス且ツ



季候ヲ問ハスト雖モ通常秋季ヲ以テ適當ナリトス  
 樺樹ハ其花ノ雌性ナル者ハ初春ニ開キ其色ハ青色ナリ而  
 シ雄花ハ其後ニ發シ其色黃色ヲ帶フ雌花ハ甚ク小シテ  
 見ヘ難キ程ナリ花終リテ其跡ニ松實様ノ實ヲ生ス而シテ  
 種子ハ其實ノ瞬間ニ在リ種子ノ成熟スルハ樹ノ種類ニ因  
 テ各遲速アレヒ七月八月ノ交ヲ以テ常期ト爲ス右種子ハ  
 幾年間之ヲ貯置シモ其發芽力ヲ減少セサルカ故ニ便宜ノ  
 年ヲ見テ之ヲ播種スルヲ得ヘシ播種ノ地ハ其質ノ如何ヲ  
 擇ハスト雖モ唯モ乾地ト沙石地トヲ忌ムノミ播種ノ時ハ  
 其覆土ヲ厚クスヘカラス北亞米利加ヨリ舶來セル樺種ハ  
 其生長力最モ多ク身高ハ二十五メートルニ達スルヲ容易  
 ナリトス此種類モ亦土質ノ如何ニ拘ラス生育スルモノニ

シテ其木質ハ軟柔ナレモ我國ノ樺樹ニ優ルヲ遠シ  
 テラオラ、ソレオ、ソレ、ハ「カスビイ」海邊ニアリシ樹木ナリ六  
 七十年前之ヲ佛國ニ輸來シ其後ハ大ニ増殖セリ其身幹ノ  
 長ハ六十乃至八十尺(尺トハ佛語ニテ「ピエ」ト云ヘル詞ナリ  
 我國ノ尺ト均キ長サナルカ故ニ尺ト譯ス)ニ達スルモノナ  
 リ樹皮ハ幾年ヲ歷タル老木ト雖モ常ニ平滑ニシテ滑ナリ  
 其樹質ハ楡樹ニ甚肖タリト雖モ其生長ハ該樹ヨリモ速ナ  
 リ世人ハ之ヲ築屋材造車材等ニ用ユ其木色ハ甚ク美ナリ  
 今日ハ佛國森林ニ儘マ之アルヲ見ル後來此樹木ヲ増殖セ  
 ハ甚ク便利ヲ世ニ與フヘシ殊ニ道路ノ傍側等ニ植ユルハ  
 最モ宜シ之ヲ増殖スルニハ播種法及壓條法(マルコット)接木接木術術ヲ用ユ  
 ヘシ又タ之ヲ楡樹ニ接木スルヲ得ヘシ此樹ハ總テ楡樹ニ



適スル土地ニ生育スルモノナリ  
 樹木種子貯藏法ハ前段ニ陳説セルカ如シト雖其粒至小  
 ニシテ其量極少ナル者ハ前段方法ノ外ニ猶ホ函詰スル  
 アリ而シテ函詰ニシタル者ハ之ヲ清冷ナル室内ニ貯藏スル  
 モノトス

一有<sup>ヤニアルキ</sup>脂樹ノ播種法

杉樹ノ花ハ稚枝ノ端ニ生シ數個一群ヲ爲シテ開發スルモ  
 ノナリ其色ハ黃又ハ赤ナリ而シテ其實ハ松實ノ小形ナルモ  
 ノニシテ落花後十六月乃至十七月ヲ經サレハ成熟セサル  
 モノナリ當年ノ實ハ翌年ノ春ニ至リテ太陽ノ光ヲ受ケテ  
 破開シ而シテ其中ニアル種子自ラ落ルモノナリ然レ種子ヲ  
 収獲スルニハ此期節ヲ俟ソヘカラヌ其秋季ニ至テハ松實

様ノ實ヲ摘取シテ之ヲ乾燥ナル室内ニ貯藏シ翌年四月ニ  
 至テ播下スルヲ得ヘシ播種前ニ種子ヲ撰取スルニハ松實  
 様ノ實ヲ日光又火温ニテ乾燥シ而后ヲ打麥棒<sup>俗ニ唱ルモ</sup>  
 ノヲ以テ之ヲ打破シ其種子ヲ撰分スルナリ此種類ノ樹木  
 ハ移植ヲ忌ムルモノナルカ故ニ苗床ヲ作ラヌシテ直ニ林  
 地ニ播種スヘシ或ハ小籠<sup>コカゴ</sup>中ニ播種スルモノアリト雖モ如  
 是方法ハ徒ニ手數ヲ費スノミ又タ此種子ヲ播クハ松實様  
 ノ壳ヲ除カスシテ蒔クモノアレハ杉種播下ノ地ハ芝草ノ  
 アル土地ヲ要スルカ故ニ之ヲ耕作スルノ煩アリ先ツ之ニ  
 土ヲ覆被スルニ甚タ不充分ナルコトアルヘシ故ニ此方法ハ  
 予カ敢テ排斥スル所ナリ  
 檜樹ハ杉ト同ク其生長速カナル者ナレハ森林所有者ノ宜



シク注目スヘキ所ノ樹木ナリ其花ハ四月ニ至リテ開發シ  
而シ雌雄ノ別アリ其實ハ猶ホ杉實ノ如ク其中ニ包有セル  
種子ハ翌春ニ至テ脱落ス其種子ノ收穫及貯藏ハ總テ杉樹  
ト同シ播種ハ五月ヲ以テ期節ト爲ス

一 雜樹播種法

凡ソ樹木ノ種類ニ從テ其培養料ノ種類モ亦タ各相ヒ同カ  
ラス甲種ノ培養トナル者ハ乙種ノ培養トナラス乙種ノ好  
ム所ハ甲種ノ思ム所タリ故ニ播種地ニ於テ各種ノ樹ヲ更  
迭ニ播種スルキハ其生長大ニ長シトス之ヲ營ルニ同一ノ  
畑地ニ向テ毎年同一ノ穀物ヲ播種スルキハ其收穫高必ス  
減スルニ至ル樹木播種モ亦タ之ニ異ナラス之ニ依テ播種  
ノ樹木種類ヲ時々交換スルヲ良策トス

播種スヘキ土地ノ性質及ヒ播種スヘキ手續ハ大ニ種子ノ  
發芽及ヒ芽萌ノ生育ニ關係スル者ナレハ播種者宜ク之ニ  
注意スヘシ播種ノ時日ハ天氣靜穩ナル日殊ニ雨日及曇天  
ヲ撰フヘシ何トナレハ種子ノ平均ニ播布シテ疎密ナキヲ  
要スレハナリ播種ノ地面ニハ畝線ヲ作リテ蒔クヘシ然ル  
ルハ種子節減スルヲ得ヘク且ツ發生後ノ除草方ニ便利ナ  
リ  
樹苗發生ノ年ニハ畝間ノ雜草ヲ除耘スルモ極テ淺輕ニ土  
ヲ搔クヘシ否ラサレハ苗根ノ傷痛ヲ來タス丁無キ能ハス  
翌年又三年後ニ至テハ此注意ナキモ妨ナシ  
播種ニ適スル地質ハ土沙交混ノ頗ル沃肥ナル地ヲ最上ト  
ス地質堅硬ニ過ルルハ樹木種類ニヨリテ發芽ノ妨害トナ



リ又ハ雨後ニ土壤ヲ生シ易ク而ノ耕耘ニ難シ地質輕軟ニ  
 過ルルハ雨後乾燥スル速ニ且ツ暑中ニ水ヲ灌クノ煩アリ  
 又タ堅地ハ雨水ヲ過分ニ含貯スルノ害アリ  
 森林播種家ハ苗床地質ノ愈ヨ沃肥ナルヲ望ムヘシ土地豊  
 肥ナルルハ其發芽及發育迅速ニシテ之ヲ移植スル期モ亦  
 速ナルカ故ニ早ク苗床ヲ變シテ他植物ヲ播種スルノ便ヲ  
 得ルナリ然レ是レ單ニ播種養苗ヲ業トスル者ノ爲ニ至當  
 ナル觀察ナルノミ森林培植者ノ爲ニハ甚喜フヘキコトニ非  
 ルナリ何トナレハ肥沃ナル土地ニ生育セル樹苗ハ其培養  
 ニ飽カカ故ニ一旦之ヲ移植スル時ニ當テ採取ヨリ植付マ  
 テノ間ハ殆ント動物ノ食ヲ絶ツカ如ク且ツ植付後モ其土  
 地ハ苗床ヨリ沃肥ナラサルカ爲ニ殆ント動物ノ飢渴ニ遭

タルガ如クナリテ爲ニ枯死スルモノ少カラサレハナリ若  
 シ枯死セサル者アルモ常ニ苦痛ノ狀ヲ現ノ其生長ニ妨害  
 アレハナリ  
 之ニ因テ是ヲ見レハ樹苗播種ノ土地ハ沃肥ニ過クヘカラ  
 ス又荒瘠ヲ極ムヘカラス凡テ中等土地ヲ適當トス常ニ賣  
 買セル樹苗ノ廉價ナルハ是レ其播種生育ノ容易ナリシ証  
 ナリト云フヘシ故ニ森林培植家ハ自ラ其森林ノ側ニ苗床  
 ヲ作リテ其用ニ充ルニ如クハ莫シ賣買代價ハ千株ニ付キ  
 八法乃至十二法フラン一法ハ大凡ナルモ之ヲ自作スルルハ僅ニ  
 三法乃至四法ニ當ルヘシ且ツ自己ノ要用ニ應シテ便宜ノ  
 時ニ所望ノ樹苗ヲ得ルニ容易ナル可シ  
 矗立ニ生長スヘキ堅木類ノ樹苗ヲ播種スルニハ其土地ヲ



四十乃至五十「サンチナメートル」ノ深サニ耨耕スヘシ地ノ表層ニ在ル培養ヲ受クル白腐類ノ樹苗ヲ播種スルニハ耕耨ノ深サ減スヘシ凡テ播種ノ土地ハ先ツ之ヲ耕耨シ後二三月ヲ歴テ其土塊ノ固結セル者ヲ碎破シ而後ニ播種スルモノトス

總テ大樹ヲ生育スルニハ風路之衝ニ當ル地位及ヒ寒氣燥風ノ衝ニ當ル地位ヲ忌ム可シ若シ其地位惡シキ場合ニハ其樹ノ周面ニ松杉又ハ黍等ヲ植テ其防障ト爲スヘシ

苗床ヲ作ルニハ其土地ノ幅ニメートル半乃至二メートルノ畝線ヲ作り其間ニハ深十五乃至廿「サンチナメートル」ノ小溝ヲ穿テ雨水ヲシテ之ニ流通シ去ラシムヘシ其土地乾燥ナル時ハ小溝ヲ地平面ヨリ深クシ溝内ニ常ニ水氣ヲ貯ヘ

之ヲ苗木ニ與フヘシ右ノ注意アルモ乾地ニ於テハ暑中ニ至リテ必ス初年ノ樹苗ニ灌水スヘシ

第三章 樹木増殖ノ事

一 樹木植附場所

樹木植附場所ハ曾テ樹木ヲ植ヘタルヲ無キ土地アリ或ハ樹林中ノ樹木欠亡セル土地アリ當今ハ森林樹木ヲ減殺スル者多ク新ニ之ヲ増植スル者少キ故ニ樹木植附場所ハ常ニ伐後欠亡ノ場所ヲ補充スルニ止リ曾テ植付セサル土地ニ新植スル者ハ甚ク稀ナリトス凡ソ孰レノ土地ニセヨ芝草蔓生ノ土地ニ樹苗ヲ培植スルニハ茲ニ最モ儉節ナル方法アリ此方法ハ鋤ヲ以テ深四十乃至五十「サンチナメートル」ヲ耨撥シ表面ノ芝草ヲ翻伏シテ底面ノ柔土ヲ表面ニ現ス



ニ在リ凡ソ耕植ノ要ハ土地ノ廣狹ニ在ラスモ耕植ノ精  
 粗ニ在リ一エロクタル位ニ當ルノ地ニ耕植セル樹木ニシ  
 テ能ク生長スルキハ數エクタルニ耕植セル樹木ノ其生  
 長ヲ誤リテ許多ノ徒費ヲ損失スル者ニ比スレハ優ルヲ遠  
 シトス森林家ノ失計ハ常ニ方外不當ノ結果ヲ望ムコ原ス  
 ルナリ樹木ヲ植付テ其生長充分ナラサルハ其咎ヲ土地  
 疲瘠ニ歸ス感ルノ甚キ者ニ非ヌヤ其爲メ所ヲ見ルニ土地  
 ヲ充分ニ耕ヘサスシテ之ニ稚幼ナル樹苗ヲ植付ケ樹苗猶  
 ホ柔弱ニシテ勢力ナキカ故ニ他樹ノ根ニ壓例セラル、モ  
 之ニ抵抗スル力ナク地底ノ水分養料ハ皆ナ他ノ草木ニ吸  
 取セラレ樹苗ハ之ヲ爭フ能ハス遂ニ其生長ヲ得ルヲナシ  
 植付土地ヲ耕耨スルヲハ前説ノ如ク實ニ肝要ナリトス而

ノ植付ノ後ニ至リ樹苗間ノ雜草ヲ耘除スルヲモ亦タ必要  
 ナリ若シ之ヲ怠ルキハ諸種ノ雜草地而テ蔓蔽シテ土地ノ  
 培養分ト空氣ノ滋養分ヲ吸取リ樹苗ノ害ヲ作スヲ少カラ  
 ス故ニ樹苗ノ稍ク生長スルニ至ルマテハ常ニ此除草ヲ怠  
 ル可ラス

前説ノ如ク樹木植付場所ノ深耨セサル可ラサルハ勿論ナ  
 リト雖モ或ハ森林家ニシテ器械鋤ヲ以テ之ヲ耨耕スヘシ  
 ト云フ者アリ是レ一時ノ費用ヲ惜テ將來ノ大害ヲ慮ラサ  
 ルナリ予ハ却テ此説ニ反對ヲ唱ヘサルヲ得ス何トナレハ  
 將來ノ大害ハ一時ノ費用ニ比シテ其損失勝テ言フ可ラサ  
 レハナリ一般ニ樹木植付場ハ深ク耨耕スルヲ良策ナリト  
 謂フヘシ樹苗生育ノ成敗ハ全ク耨耕ノ深淺ニ因ルト云フ



モ敢テ過言ニ非ルカ如シ現ニ予ハ曾テ之ヲ實際ニ試ル  
 アリキ同一ノ樹苗ニ株ヲ取リテ之ヲ同一ノ土地ニ植附ケ  
 甲ハ其耕耨深サ二「ヒート」尺位一トシ乙ハ之ヲ二「ヒート」トセ  
 リ三年ヲ歷テ其生長ノ度ヲ量ルニ乙樹苗ノ生長ハ甲樹苗  
 ニ倍シタリ予ノ實驗ヲ以テ証セル此説ヲ駁シテ土地ノ性  
 質ニ差異アリ何必スシモ耕耨ノ深淺ニ因ラント言フ者ア  
 ルヘシ然レ予ノ試植シタル場所ハ地底ノ質甚惡シク且ツ  
 甲乙共ニ同一ノ地ニ植附タリ或ハ右ノ駁撃ヲ受ルモ決シ  
 テ予ノ説ハ無効ナラサルヘシ凡ソ土地ノ性質ニ粘結力足  
 ラスシテ例ヘハ沙地等ノ如ク水ニ流潦セラレ、土地ナラ  
 ハ樹苗植付ニ當テ唯々其植付ヘキ場所ノミヲ耕耨シ或ハ  
 塹壁ヲ作り或ハ草木ヲ植テ非常ノ害ヲ豫防スヘシ總テ植

付ノ地ヲ深耨シ植付後培養ノ事ヲ怠ラサルキハ其樹苗ノ  
 生長スル實際ニ就テ明ナリ  
 樹苗植付ノ地ハ耕耨ノ後二年又三年ヲ經テ后テ植付ルチ  
 最上ノ事ナリトス何トナレハ耕耨ノ後直ニ之ヲ植ルキハ  
 耨翻シタル土地未タ安固ナラスシテ草根未ク腐敗セサル  
 カ故ニ樹苗ヲ害スルコト多シ且ツ雨水ノ奄至セル時コハ土  
 地流搖シテ樹苗之カ爲ニ苦痛ヲ感スレハナリ故ニ耨耕ノ  
 後ハ尙兩三度モ耕シテ其土塊ヲ碎軟スルチ良シトス而シ  
 テ培育耘除ノ餘暇ニハ馬鈴薯烏麥等ノ植物ヲ播種シテ其  
 収獲ヲ養林入費ニ補充スルチ得ヘシ凡ソ養林費用ハ地方  
 ニ因テ異同アリト雖モ森樹一「エック」ルチ新植スルノ費  
 用大抵金五百法<sup>フラン</sup>ヲ以テ常トス其多キ者ト雖モ七百法ニ上



ラストス今其詳細ノ算當ヲ左ニ掲ク

植林費用調

一金四百五拾九法

一「エ」ク「ル」我カ一町二十五歩

費用總計

内譯

金二百二拾五法

右土地ヲ深サ四十五乃至五十「サ」メ「ト」ル「ハ」糊耕スルノ賃錢

金五拾六法

樹苗七千株ノ代價但千株ニ付樹苗七千株植附及ヒ其培覆ノ賃錢

金二拾六法

植付後四年間ノ培養耘除ニ要スル費用但シ一年內ニ二回ツ

金九拾六法

植付後四年ヲ經テ尙三年間右

金三拾六法

同斷入費但年ノ經一回ツ、一回ニ付十二法ノ創

金二拾法

補欠植付入費及其他ノ雜費共

通計金四百五拾九法

松杉檜ノ類ヲ植付ル植林費用調

一金百五拾五法

一「エ」ク「ル」植林費用

内譯

金七拾五法

土地ノ糊耕深サ廿五乃至卅「サ」メ「ト」ルノ賃錢

金三拾五法

草根斷除及播種培覆ノ入費

金三拾法

樹苗二十「キ」ロ「ク」ラ「ム」ニ付テ金一法五十仙

金十五法

樹苗間引賃

通計金百五拾五法

若シ樹苗類ノ播種ニ畝時ノ法ヲ用ルキハ其入費ハ右額ヨ



リモ減スヘシ何トナレハ耕勸スヘキ土地ノ坪數減少スレハナリ

一 壓條法

壓條法マルコツ樹木増植ノ方法ニシテ或ル場合ニ用ルモノニ種アリ此方法ハ即チ其費用ノ節減スル者ニシテ或ル場合ニ於テ用ルキハ甚ク便益アルヘシ是又森林所有者ノ注目スヘキ所ナリトス  
右方法ノ一ハ則チ壓條法ニシテ樹木ノ枝ヲ壓曲シテ之ヲ耕勸シタル土地ニ埋ムルナリ  
例ヘハ森林内樹木ノ繁茂セル地ニ一二株ノ補植ヲ爲サント欲スルモ他樹木ノ爲ニ壓倒セラレテ其生長恐クハ難カルヘシ如是ノ場合ニ於テハ此壓條法ヲ用ルチ最モ適當ナリ

リトス即チ大樹ノ枝ニ歳乃至四歳ヲ經タル者ニシテ尙ホ在ク易キ者ヲ撰ミ之ヲ其幹身ヨリ切離サステ鉄線ニテ之ヲ締結スルカ又ハ其枝ノ周圍ニ泥ヲ付ケ此處ヲ曲ケテ地中ニ埋ムルナリ之ヲ埋ムルノ深サハ大凡ソ六寸ニシテ枝端サキヲ上方ニ向ケシムヘシ枝ヲ撰ムニハ下枝ノ生長惡キ者ヲ忌ムヘシハ何トナレハ下枝ハ大抵幹ヨリ受ル養液甚ク少キ故ニ地中ニ埋ルモ枯死スル多シ壓條ニ用ルル枝ハ健壯ニシテ精カアル者ヲ要ス且ツ幹身ニ無用ノ枝アルキハ悉ク之ヲ切除シテ其養液ヲ地ニ埋メタル枝ニ施スヘシ鉄線ヲ以テ枝ヲ締結シ又ハ枝身ノ周圍ニ輪形ノ泥ヲ付クルハ他ニ非ラス蓋シ樹木ノ精液ハ其巡環ニ二様アリ一ハ幹身ノ中心ヲ經過シテ下ヨリ上ニ登ル一ハ樹皮ノ裏面ヲ



リモ減スヘシ何トナレハ耕勸スヘキ土地ノ坪數減少スレハナリ

一 壓條法

壓條法マルコツ樹木増植ノ方法ニシテ或ル場合ニ用ルモノ二種アリ此方法ハ即チ其費用ノ節減スル者ニシテ或ル場合ニ於テ用ルルハ甚ク便益アルヘシ是又森林所有者ノ注目スヘキ所ナリトス  
右方法ノ一ハ則チ壓條法ニシテ樹木ノ枝ヲ壓曲シテ之ヲ耕勸シタル土地ニ埋ムルナリ  
例ヘハ森林内樹木ノ繁茂セル地ニ一二株ノ補植ヲ爲サント欲スルモ他樹木ノ爲ニ壓倒セラレテ其生長恐クハ難カルヘシ如是ノ場合ニ於テハ此壓條法ヲ用ルルチ最モ適當ナリ

リトス即チ大樹ノ枝二歳乃至四歳ヲ經タル者ニシテ尙ホ在ク易キ者ヲ撰ミ之ヲ其幹身ヨリ切離サスシテ鉄線ニテ之ヲ締結スルカ又ハ其枝ノ周圍ニ疵ヲ付ケ此處ヲ曲ケテ地中ニ埋ムルナリ之ヲ埋ムルノ深サハ大凡ソ六寸ニシテ枝端オキヲ上方ニ向ケシムヘシ枝ヲ撰ムニハ下枝ノ生長惡キ者ヲ忌ムヘシハ何トナレハ下枝ハ大抵幹ヨリ受ル養液甚ダ少キ故ニ地中ニ埋ルモ枯死スル多シ壓條ニ用ルル枝ハ健壯ニシテ精カアル者ヲ要ス且ツ幹身ニ無用ノ枝アルトハ悉ク之ヲ切除シテ其養液ヲ地ニ埋メタル枝ニ施スヘシ鉄線ヲ以テ枝ヲ締結シ又ハ枝身ノ周圍ニ輪形ノ疵ヲ付シルハ他ニ非ラス蓋シ樹木ノ精液ハ其巡環ニ二様アリ一ハ幹身ノ中心ヲ經過シテ下ヨリ上ニ登ル一ハ樹皮ノ裏面ヲ



經過シテ上ヨリ下ニ降ル右ノ締結法及疵傷法ハ樹皮ノ裏  
 面ヲ經過スル養液ヲ此處ニ留メ而シ埋メタル枝ニ根ヲ發  
 セシメ且ツ之ヲシテ根ヨリ養料ヲ受ケシムルノ目的ナリ  
 右壓條法ノ外ニ尙ホ輕便ナル方法アリ其方法タルヤ樹木  
 ナ其根元ヨリ伐リ四月五月ノ交ニ至テ地表面ニ最モ近キ  
 根ヲ現シ之ニ少疵ヲ付ケ樹木ノ養液ヲ此處ニ集凝シテ之  
 ヨリ新芽ヲ發生セシムルニ在リ然レ此方法ハ樹木ノ種類  
 ニ因テ其効ヲ見サルテアリテ確期シ難キ方法ナリ  
 以上二方法ノ外ニ第三方法ト云フヘキモノアリ其方法タ  
 ルヤ樹木ノ根大小ヲ論セス之ヲ長廿乃至三十センチメー  
 トルニ切斷シ其元口ヲ地面ヨリ二乃至三センチメー  
 トル出シテ之ヲ能ク耕勸セル土地ニ埋ムルニ在リ二年又ハ三

年ヲ經テ後ニ右樹根ハ多ク新芽ヲ發生スヘシ此方法ハ用  
 ルト甚ク少シト雖モ或ハ便利ヲ與ルコトアルガ故ニ之ヲ茲  
 ニ添録シ以テ山林家ノ參考ニ供ス  
 予ハ厭條法ニ就テ諸種ノ方法ヲ用ヒ諸種ノ樹木ヲ取リ之  
 ナ實際ニ於テ驗究スルコト茲ニ數回ナリ而シ能ク注意ヲ加  
 ヘタルガ故ニ其効ナキモノアラザリヤ就中最良ノ結果ヲ  
 現シタルモノハ鉄線ヲ以テ枝ヲ締結シタルニ在リ予ハ此  
 方法ヲ以テ最上ナリト信スルナリ其植付費用ノ如キハ各  
 地ニ從テ異同アリト雖モ諸賢合テ百本ニ付キ金三四法ナ  
 ルハ通常トス

一 壓條法ノ注意スヘキ事項

該方法ハ甚輕便ニシテ其結果モ亦速ナリト雖モ一般ニ之



チ用ル能ハサルヘシ森林樹木ノ伐採ヲ爲スヲ頻々ニシテ  
 之ヲ長大ニ至ラシメサルノ目的アルキハ此方法ヲ用テ大  
 ニ便利アルヘシト雖モ林木ヲ長大老幹ニ至ルマテ生養ス  
 ルノ目的ナレハ之ヲ用ユヘカラス何トナレハ壓條法ヲ以  
 テ植付タル樹木ハ播種ヲ以テ植付タルカ如クニ長大ニ至  
 ル能ハサレハナリ且ツ此法ニ因テ發生シタル樹木ハ漸次  
 ニ其樹質ヲ變スル者ニシ播種ノ如ク必ス其母樹ノ性質ニ  
 同シキ能ハス故ニ壓條法ハ一時ニ數樹ヲ増植スルキ又ハ  
 樹林ノ欠亡ヲ補植スルキニ限リテ用ユヘシ大樹ヲ養成ス  
 ルニハ決シテ用ル勿レ

一 樹苗木ノ事

舊林修植又ハ新林増植等ニ用ル樹苗木壯健ニシテ薄毛<sup>ウスケ</sup>ノ

多キヲ撰ムヘシ如此ノ樹苗木必ス苗床ヨリ出テタル者ニ  
 限ルナリ森林内ニ生育シタル壓條樹苗木其價廉ナリト雖  
 モ之ヲ植ルキハ必ス損失アルヘシ凡テ森林内ニ生育セル  
 樹苗木常ニ日陰ニ慣レテ薄毛ナシ幼稚ヨリ既ニ老木ノ姿  
 ヲ爲シ之ヲ空氣流通日光照射ノ地ニ移植スルキハ樹身ニ  
 苦ヲ生シテ皮膚堅固益々老木ノ姿ヲ現シテ苗床ニ生育セ  
 ル樹苗木如ク活潑ナラサルナリ  
 樹苗木根ノ多キ程愈ニ生育スルモノナルカ故之ヲ掘取ル  
 キハ其根ヲ傷ケス就中中心ノ大根ヲ傷ケサルノ注意ヲ怠  
 ル可ラス或ハ土地ノ淺キガ故ニ苗根ヲ切斷スルモノアリ  
 ト雖モ予ノ所見ヲ以テスレハ如是場合ニ於テモ中心ノ直  
 根ハ成ルヘシ切斷セサルヲ良シトス且ツ之ヲ切斷セサレ



ハ其生長愈ヨ速ナルヘシ又森林家ニヨリテハ樹苗ヲ植付タル後直ニ之カ下枝ヲ切除ク者アリ予ノ所見ヲ以テスレハ可及的樹苗ノ下枝及皮膚ニ傷疵セサルヲ良シトス實際ニ就テ之ヲ見ルキハ植付後ニ下枝ヲ切リタル者モ然ラサル者モ敢テ優劣ナキカ如シ然ニ下枝ヲ切斷セル者ハ其生育ノ速且確ナルヲ見ル何トナレハ草木皆ナ空氣ヲ吸取スルモノニシテ其吸器具愈ヨ多ケレハ從テ其生育愈ヨ強ケレハナリ

樹苗ハ可成的ニ其日ノ植付ニ充ル分ヲ抜キ他ハ之ヲ苗床ニ留メ置クヘシ然ニ植付土地ハ苗床ヲ距ル遠キ場合ニハ二三日ノ植付ニ充ル分又ハ其餘分ヲモ掘掘ラサルヲ得ス斯ル場合ニ於テハ溝ヲ穿テ樹苗ヲ此内ニ埋メ土ヲ以テ覆

ヒ置クヘシ而シテ毎日植付ニ充ル分ヲ限リテ掘出スヲ良シトス若シ樹苗又樹木ヲ遠方ニ送致スルキハ其根ヲ密包シ而シ根ヲ切斷スヘカラス又極寒ノ時節ハ之ヲ回送スヘカラス又樹苗樹木ヲ採取リテ數日間放置シタルキハ之ヲ植ルノ前ニ先ツ二十四時モ其根ヲ水ニ浸スヘシ

一 植付時候

植付時候ハ冬季前ヲ良シトスルカ又ハ冬季後ヲ良シトスルカ此論ハ森林家ニ於テ今日未ダ一定セサル所ナリ森林家ヲシテ疑念ヲ此問題ニ抱カシムル所以ハ當ニ此論ノ一定セサルノミニ非ラス多クハ樹苗賣捌人ノ私利ヲ計ルカ爲ニ立タル説ト森林家カ無識ナル所見トニ源因スルモノナリ



此論ニ付テ他ノ植物ヲ觀察スルニ花園等ヲ作ル者ノ説ハ  
 冬○季○前○ニ○植○ユ○ル○キ○ハ○其○生○長○一○年○ヲ○進○ム○ト○云○ヘ○リ○此○説○ヤ○其  
 正當ヲ得タルカ加シ蓋シ冬季前ハ其樹苗ヲ撰ムニ便利多  
 シ且ツ地底ノ温氣ハ空氣ノ冷氣ナルニ拘ラス尙ホ充分ニ  
 肥養物ヲ醸腐スルニ足ル十月ノ季候ニハ草木ノ毛孔尙ホ  
 開發シテ未ダ閉塞セス其肉ハ勝脹シテ凍寒ノ時節ノ如ク  
 ナラス充分ノ吸引力ヲ有セリ其根ハ充分ニ精汁ヲ含有シ  
 テ翌春ニ至リ直ニ健壯ナル萌芽ヲ吐クノ力アリ其勢力ア  
 ルヲ如此ナリ若夫ノ春季後ニ植付ルキハ植付後乾風及煖  
 熱ノ其樹根ヲ害スルアリテ其樹木枯死ニ至ラサルモ之カ爲  
 ニ多少ノ障害ヲ生長力ニ受ケサルヲ得ス故ニ秋季ニ植タ  
 レ樹木二年ヲ經テ其長成一丈ニ達スヘキモ春季ニ植タル

モノハ四五年ヲ經サレハ此長大ニ至ル能ハサルヘシ  
 植樹ニ最好ナル時節ハ木葉ノ黄色ヲ帶ヒテ搖落スルノ時  
 ニ在リトス此時ニハ春季ニ發芽シタル者ハ既ニ充分ノ生  
 育ヲ遂ケ復タ遺望ナキ時ナリ然レ植付ヲ成スヘキ土地ハ  
 洪水ノ憂有ルカ又ハ高寒ノ山丘ナルカ又ハ樹苗ノ種類ニ  
 シテ寒氣ヲ厭フモノナルトキハ春暖ノ候ヲ俟テ植付ルチ  
 長シトス通常ハ春季ヨリモ秋季ハ至當ノ時ナリト謂フヘ  
 シ

一植付方法

植樹方法ハ第一若ニ其土地ノ位置及性質ヲ考察シ或ハ之  
 ニ道路ヲ開通シ或ハ之ニ小溝ヲ環穿シテ雨水ノ流通ヲ謀  
 ル等必要ナル工事ヲ終ルヘシ



植付ニ要スル樹苗ハ其年齡大ニ生育ニ關係ヲ有スルモノ  
 ナリ凡ソ年數ヲ經タル樹苗ハ頗ル健壯ニシテ冬季寒凍ノ  
 侵襲ニ抵抗スルノ力アルモノナリ故ニ三歳乃至四歳ヲ經  
 タル樹苗ハ頗ル適當ナリトス  
 植樹ノ距離ハ土地ノ位置ト樹苗ノ種類トニ從テ各異ナリ  
 ト雖モ道路ノ傍側又ハ畑地ノ隣側ニ植ルルハ其距離ヲ苗  
 間ナリ凡ソ三メートル乃至四メートルトスヘシ森林内ニ  
 大樹ヲ生育セシムニ其距離ニ乃至五メートルトス又々林樹  
 ヲ長大ニ育成セシメテ屢ハ之ヲ伐採スルノ目的ナルハ  
 其距離一メートルニ過クヘカラス凡ソ植付ノ距離ハ遠ニ  
 過ルヨリハ寧ロ近ニ過ルヲ長シトス如何トナレハ植付後  
 ニ至テ生育セサルカ又ハ生育悪キ者アルハ之ヲ減少ス

ルヲ得ルニ及ビ且ツ生長ノ後其距離近シト認ルルハ之ヲ伐  
 採スルモ妨ナケレハナリ又植付距離ノ近接ハ林内ニ暖氣  
 濕氣ヲ保持シテ燥乾凍寒ノ患ヲ防グヘク及ヒ雜草ノ生長  
 ヲ防グヘシ

長大ニ生育養成セサル林樹ヲ植ルニハ地面ニ畝線ヲ作り  
 テ參差的ニ之ヲ植ユルニ至良ナリ參差的ト譯セシカキヤ  
 例ニハ第一畝ニ植タル諸苗ノ間ニ當ル方位ニ第如此スル  
 二畝ノ苗ヲ植ルニナリ俗ニ互違ト云フモノ也  
 此ハ樹苗ノ根及梢ハ相互ニ裕餘ヲ得テ相抵觸セサルモノ  
 也然ルモ或ハ此方法ヲ謗リテ日光及空氣ヲ塞滞シテ之カ流  
 通ヲ妨ルノ害アリト云フモノアリ是眞ニ然ルナリ而モ空  
 氣ノ流通日光ノ照射ハ樹木幼稚ノ時ニアルニ何種ノ樹  
 木ト雖モ少ク生長スルニ及ンテハ日光空氣容易ニ林中ニ



入ルヘカラス但シ根元及梢端ノ餘地アルハ樹木ノ生長ニ於テ益々生育ニ關係アル者ナリ

又山谷若クハ乾地ニ植樹及播種ヲ爲スルハ常ニ光線様ノ畝ヲ作り之ニ植播スヘシ殊ニ脂腦含有ノ樹木ハ此方法ニ因テサルヘカラス例ヘハ谷間ノ坂地ニ植ルルハ坂上ニ湖リテ溝畝ヲ光線様云フ坂地ハ其最高ヨリ下底ニ散下スニ穿立レ其溝ニ植苗又播種スヘシ其溝堀ノ入費ハ極テ少ク「エソタル」ニ付キ十法乃至十五法ニ過サルナリ且ツ此溝ハ深サ三十「サ」ナメートル幅五十「サ」ナメートルヲ通常トス如是クスルルハ小溝常ニ濕氣ヲ貯ヘ樹苗ヲ養成スルニ最モ好シ其苗木ヲ間引ノ時ニ土ヲ盛り掛クヘシ此等ノ土地ハ雨水ニ注崩サル、憂アリ又々暴風ノ禍ヲ蒙ルモ

ノナレハ常盤木ヲ周圍ニ植ルコト最モ良シトス

一 植料樹木種類撰方

森林ヲ作ラント欲スル者ハ先ツ森林ト作スヘキ土地ノ性質、肥瘠、深淺位置、方向等ヲ熟察セサルヘカラス而シテ最モ之ニ適當ナル樹木種類ヲ撰ミテ培植シ以テ最モ多キ利益ヲ収メシテ勉ムヘシ樹木ノ種類ト土地ノ性質ト相ヒ適合セサルルハ如何ナル方法ヲ用ユルモ其収獲常ニ僅少ナルヘシ且ツ僅小ノ天災ニ罹リテ樹木地ヲ拂テ空キニ至ルヲアルヘシ故ニ其土地ニ適合スル樹木ヲ撰ムコト最モ肝要ナリトス然レニ土地豊肥ナルニ櫻、栗、ノ如キ上等ノ樹木ヲ植ヘス下等ノ樹木ヲ植ルモ亦タ不利ナリトス今茲ニ樹木種類ノ首タル者ヲ略記スヘシ







カ故ニ最モ森林家ノ便ト爲ルヘシ  
 山毛櫨<sup>ナブ</sup> 該樹ハ其木質極ニ劣ルト雖モ亦タ需用ノ多キ  
 樹木ナリトス例ヘハ屠牛者ノ組机、家具師ノ細工盤、馬ノ首  
 輪、家具板<sup>「ヤボン」ノ柄、輪、木履、其他什器材及ヒ小兒玩具</sup>  
 ノ用材ニ用ユ又薪炭ト爲スモ最上ナリ其實ハ之ヲ絞リテ  
 其油ヲ取り之ヲ食料ト爲スモ其味美ナリ材木ト爲スモハ  
 空氣ニ觸レテ朽チ易シト雖モ之ヲ水中又ハ地中ニ貯ルル  
 ハ數十年ノ久シキヲ保ツヘシ予曾テ此材木ヲ二十年間地  
 中ニ埋没シテ殆ント化石ノ如クナリシヲ見ル  
 該樹木ヲ植ルニハ土質中等ノ品位ニシテ砂利又沙地ノ底  
 深カラサル土地且ツ水氣ノ流通鋭キ土地ヲ以テ適當ト爲  
 ス土地ノ位置ハ西南ノ開透セル處ヲ以テ最モ良シトス如

此ノ土地ニ植タル山毛櫨ニシテ其身長四十「メートル」ニ達  
 スルモ枝ノ甚々希ナル者三十五株アルヲ見シ「ア」此樹  
 木ノ種類二三アリト雖モ斯ハ森林ニ關セサル故ニ之ヲ略

大

栗樹<sup>〇</sup> 栗樹モ亦タ森林ノ貴重ナル樹木ト見做サ、ルヘカ  
 ラス其身幹長ク其周圍太ク而其木質ハ甚々美ナリ其實ハ  
 至良ナル食料ト爲ルヘシ此樹木ハ他樹ノ能ク生育スル能  
 ハサル下等ノ土地ト雖モ更ニ忌嫌ナク生殖スルモノナリ  
 且ツ栗樹ノ森林ハ其望見甚々綺麗ニシテ其姿形甚高大ナ  
 リ右等ノ故ヲ以テ森林ニ貴重セラル、所ナリ此材木ハ古  
 來築家屋ノ用ニ供シ來レリ又タ家具造作ノ用タルヲ多シ  
 八歳乃至廿歳ノ材木ハ葡萄ノ支木ト爲シテハ櫨ヨリモ能



シ保存スルモノナリ其他小割材、樺材等ニハ尤モ適當ナリ  
 而ヒ薪ト爲スニハ宜シカラズ此木ハ薪木ト爲シテ火力薄  
 シ且ツ黒炭ヲ生シ密閉セル室ニハ之ヲ薪ニ用ルテ危険ノ  
 一ナリトス  
 栗樹ニ適當ナル土地ハ小石及ヒ岩石ノ多クシテ北風ニ背  
 ケル山ヲ以テ第一トス若シ北風ニ向ル地位ナラハ之ニ白  
 肌樹及有脂樹ヲ林植ノ之ヲ防禦スヘシ然ラサレハ栗樹ノ  
 稚芽ノ精汁ハ春首ニ至テ凍枯スルノ憂アレハナリ低混ナ  
 ル土地及ヒ冷寒ナル土地ニハ栗樹ヲ植ユルニ適セサルモ  
 ノナリ栗林ノ十歳ヲ經タル者ハ之ヲ伐採シテ「エシタル」ニ  
 付キ金千五百弗ノ収獲アル者アリキ此樹ハ殊ニ葡萄園ノ  
 傍ニ克ク生長スルカ故ニ葡萄園ニハ必ズ栗樹ヲ植ユヘシ

神樹 神樹ハ二百五十年前ニ始テ佛國ニ渡來セル樹木ナ  
 リ當今ニ至テハ廣ク國內ニ繁殖シテ全ク佛國ノ樹木ト爲  
 レリ此樹ノ需用ハ少カラズト雖モ或ハ風景裝飾ノ爲ニ植  
 ルコトアリ身幹ノ高ハ二十五乃至三十メートルニ達スヘ  
 シ之ヲ増殖スル方法ハ播種又ハ分蘖ヲ用ルモノトス此樹  
 ハ前段ニ陳セル樺樹ノ種類ヨリモ其生長最モ速ナリ根孽  
 ヲ分植シテ後ニ僅ニ一ケ年ヲ經ルキハ其高サ四メートル  
 乃至五メートルニ至ルモノアリ如是生長速ナルニ拘ラズ  
 其木質ハ甚ク堅シ而シテ割ルニハ甚ク容易ナリ此材ハ  
 輻輳細工、乘馬車造作ニ用ルテ最モ良シ其重量甚多ク且ツ  
 其價值甚高キ故ニ建築用ニ供スルテ少シトス葡萄支柱、及  
 ヒ柵柵等ニ用テ長ク保持スルテハ他樹木ノ能ク及フ所ニ



非ラス神樹ノ種類ニ針毛アル者アリ針毛ナキ者アリ此二  
 種類ハ其性質ニ異等ナント雖ニ針毛ナキ種類ハ之ヲ扱ヒ  
 易スキヲ以テ優レリトス故ニ此種類ヲ撰テ植付ルヲ要ス  
 又此樹林ニハ他樹ヲ雜植ス可ラス若シ雜植スルハハ勉メ  
 テ生長速ナル樹木等ノ類ナリ日本漆及ヒ柳ヲ植ユヘシ他ノ樹木ハ該  
 樹ノ爲ニ蔽ハレテ生長セサルナリ  
 或ル森林家ハ云フ神樹ノ末々長大ナラサルニ屢伐採スル  
 由ハ其功口ヨリ終ニ芽ヲ吐カサルニ至ルノ憂アリト而ヒ  
 此説ヤ或ハ神樹ノ森林ヲ取扱ハサル者ノ妄説ナラン若シ  
 實際ニ就テ之ヲ觀察スルハ蓋シ此説ニ反對セルヲ知ル  
 ヘシ凡ソ此樹木ハ其切口ヨリ芽ヲ吐カサルモ其近傍ニア  
 ル根ヨリ蘖ヒコメヲ生スルコト一樹ニ付キ五六十本ナルヘシ此蘖

ノ生長スルニ及テ各一個ノ神樹ト爲リ即チ六五十株ノ樹  
 木ト爲リテ又各其根ヨリ五六十ノ蘖ヲ生スヘシ且ツ此樹  
 ヲ伐採シタル年内ニ蘖ヲ生スルモノナレハ何ソ芽ノ切口  
 ヨリ吐出サルヲ憂ルニ足ラン

此樹木ヲ植ルニハ其地質ノ如何ヲ問ハス唯タ地上ニ小石  
 少キ土地ヲ撰フヘシ何トナレハ此樹根ハ地ヲ蟠延シテ養  
 料ヲ地上ニ取ルモノナレハナリ又タ此樹木ハ若年ノ時ニ  
 寒氣ニ觸レテ弱ル者ナルカ故ニ植付ヲ爲スニハ春暖ノ候  
 ヲ撰フヘシ此樹木ハ十二年乃至二十年ヲ經テ伐採スルハ  
 ハ栗樹ト同様ノ収獲ヲ得ヘシ予ハ十二歳ヲ經タル該樹林  
 ヲ伐採シテ「エシタル」ニ付キ千五百法乃至千八百法ノ利  
 益ヲ得タルコトアリ



オロムノ類 此樹ハ器械、建築、車輪ノ用材ニ供シテ最上ナ  
 リ之ヲ保存スルニハ水中ニ浸入シ置クヘシ薪炭ト爲スモ  
 其質甚ヨ美ナリ該樹ニ數種類アリテ其中ニモ「トルチアル  
 ト云ヘル種類ハ其木質堅剛ニシテ割レ易キモノナリ故ニ車  
 ノ心棒及ヒ器械ノ諸具ニ造リテ最モ良シ其代價從テ他種  
 類ヨリモ高直ナリトス凡テ楡樹ノ種類ハ砂地ニシテ地底  
 深キ土地ニ植付ケテ能ク生長スト雖此「トルチアル」種類  
 ハ膏氣アリテ且ツ濕氣アル土地ニ植付ルテ良シトス楡樹  
 ハ大木ニ至ラサルモ伐採スル「テ」得ヘキハ勿論ナレモ大  
 抵路傍ニ植ルテ通常トス而モ森林者ニシテ「トルチアル」楡  
 ニ適當ノ土地ヲ有スル者ハ必ス之ヲ植ユヘシ何トナレハ  
 此種類ハ最モ高直ニシテ収獲多クレハナリ

秦皮樹。 通常ノ秦皮樹外ニモ猶ホ數多ノ種類アリ或ハ木  
 質善良ニシテ土地ノ惡キヲ忌マサルモノアリ即チ赤秦皮  
 ノ如キハ洪水ノ憂絶ヘサル土地ニモ能ク生長スルナリ而  
 モ如此種類ハ生長速ナラス且ツ其身長ハ二十「メートル」以  
 上ニ至リ難キモノナリ唯モ黒秦皮ハ同前ノ惡地ヲ忌マス  
 ト雖モ其生長ハ頗ル高大ニ至ルベシ白秦皮ハ高サ二十五  
 乃至三十「メートル」ニ生長シ且ツ寒氣ヲ好ム樹木ナリ通常  
 ノ秦皮ハ天然ニ森林内ニ生長シ高サ三十「メートル」ニ達ス  
 其木色ハ白クシテ或ハ美麗ナル肌色ノモノアリ殊ニ根元  
 及枝節等ニ至テハ此肌色ノ紋綾甚ク美ニシテ轆轤細工師  
 ノ重寶スル材木ナリ其木質ハ頗ル柔軟ニシテ曲ク易ク其  
 用ハ轆轤等ニ造リテ最モ良シ其他需用ハ頗ル多キ樹木ナリ



トス而此材木ハ蟲類ノ嚙朽スル所ト爲ルヲ甚ク容易ナ  
 ルカ故ニ建築用ニ供シ難キモノナリ若年ノ時ニ伐採セル  
 者ハ桶樽材ニ用ユ又タ柵柱ニ用ユヘシ薪炭ニ供スルモ可  
 ナリ樹葉ニハ頗ル芫青虫ハシミコバヲ生スルモノナリ  
 該樹ハ何種ノ地質ニ拘ハラズ繁殖スルモノナレモ粘土ノ  
 土地ニハ頗ル生長シ難キモノナリ最モ適當ナル土地ハ沙  
 土ニ濼泥ノ交リタル濕地ヲ以テ然リトス草木ノ腐敗物ヨ  
 リ成立セル土泥ノ交リタル沙地モ亦タ適當スヘシ  
 又タ春暖ニ生シタル該樹ノ稚芽ヲ牛ニ喰ハシムルキハ腸  
 膨脹シテ病ヲ生スルモノナルカ故ニ注意スヘキナリ  
 シヤルヨ 該樹ハ薪炭ニ供シテ最良ナリ又タ道具及器械  
 鐵道器具ニ屬スル用材ト爲スヘシ又ハ靴ノ模形并ニ木石

運搬ノ木ゴ櫃コニ用ユ此樹木ハ枝多ク生シテ生籬ヲ作ルニ最  
 モ良シ數百年ヲ徑ルモ其籬ノ枯死スル憂無シ道傍ニ植ル  
 キハ夏分蔭深シテ暑ヲ防クニ宜シ此樹木ハ上等ノ土地ヲ  
 好ムモノナリ且ツ此樹木ハ生長速カナラスシテ其枝數多  
 四方ニ偃蟠スルカ故ニ他樹ヲ妨害スルコト少カラス是ヲ以  
 テ之ヲ大木ニ生育セスシテ十五年乃至廿五年毎ニ伐採ス  
 ルヲ得策ト爲ス  
 プラタタママ樹ハ其用ノ何物ニ適スルヲ能ク知ル者少シト雖  
 亦大抵山毛櫨ト同様ノ場合ニ供用セラル、ヲ得ヘシ然レ  
 薪木ニ用ルルハ却テ山毛櫨ニ優ルモノナリ又タ生長モ山  
 毛櫨ヨリ速ニ且ツ大ナリ唯ク其木質ハ割レ易キノ憂アリ  
 トス此樹ノ生長速ナルコトハ七十年ヲ徑テ其高サ三十五メー



トルニ達シ其小枝ノ量ハ合計ニメートル立坪二個半ヲ得ルニフルモノアリ又タ木炭ヲ製スルキハ其質頗ル良シ大木ニ至ラサル前ニ伐採スルキハ其伐口ヨリ數個ノ萌芽ヲ生シ其芽ハ二年目ニ至テ三乃至四メートルニ達スヘシ此樹木ヲ増殖スルニハ播種、插枝、壓條ノ諸法ヲ用ユルヲ得ヘシ但シ播種法ヲ用ルニハ其苗ノ生長速ナラス且ツ凍死ノ憂アルカ故ニ冬季ハ密ニ之ヲ覆置シテ春暖ニ至リ之ヲ移植スルヲ良シトス

該樹ハ土地ノ如何ニ拘ハラス能ク生長スト雖ヒ小石多キ地ニ適セサルモノナリ但シ沙地ニ在リテ能ク生長スル者アリ地位ハ成ルヘク北方ニ向ハサルヲ良シトス

樺樹ハ其種類數多アリ皆ナ樹木中ノ最モ有益ナル

者アリ何トナレバ此樹木ハ地ノ燥濕ヲ問ハズ氣ノ寒暖ヲ論セズ能ク生長シテ他ノ樹木ヲ能ク保護スルノ効アル者ナレハナリ故ニ此樹木ハ何種ノ森林ヨリトモ必ス十五メートル乃至二十メートル毎ニ之ヲ植置クヘシ此樹木ハ其體輕シ其幹長シ其葉及根ハ敢テ他ノ樹木ヲ妨害スルナシ其木質ハ樞ニ及ハサルコト遠シト雖ヒ亦タ有用ナル建築材及家具材ト爲ルヘシ其精汁ハ以テ銘酒ヲ造ルヘク其皮ハ以テ油ヲ製シ之ヲ獸皮ニ塗リテ蟲害ヲ防クヘシ且ツ此油ヲ獸革ノ精製ニ用テ其色ヲ艶ニスルノ効アリ又其皮ヲ以テ其入ヲ製造スルヲ得ヘシ又製革ニ用ヒタル皮ノ糟粕ハ麩麵製造所等ノ薪料ニ供スヘシ其小枝ハ箒ヲ作ルニ宜シ故ニ該樹ハ都鄙ヲ問ハズ頗ル有用ノ樹木ナリ



大木ト爲ラサル前ニ伐採スルハ爾後三十五乃至四十年  
 間ニ經サレハ其切口ヨリ發芽セサルモノナリ故ニ此樹林  
 ナ永保セント欲セハ伐採ノ前年ノ春三月以前ニ森林地ヲ  
 耕シ置キ母樹ヲ貯ヘ置キテ其種子ヲ蒔キ散ラスヘシ然ル  
 ルハ伐木以前ニ種子ノ發生スルアリテ伐木後モ唯々苗ノ  
 生長ヲ俟ツノミナリ

柳及檉 柳檉二樹ハ濕氣アル土地ニ克シ生長スル者ニテ  
 池沼河溝等ノ沿岸ニハ最モ繁生シ且ツ其岸ヲ堅固ナラシ  
 ムルモノナリ「ブールソール」ト云ヘル柳ノ種類ハ天然ニ森  
 林内ニ繁殖スルモノナリ檉樹ハ其材柳ヨリモ貴重ニシテ  
 水中ニ浸セハ克シ保存スルカ故ニ之ヲ水車建築用ニ供ス  
 へシ又ハ櫛輪細工師ハ此材ヲ以テ粗末ナル椅子及階子ヲ

作レリ又薪炭ニ用ユルモ頗ル良品ナリトス其木皮ハ黒色  
 ノ染料ニ用サラル其他右二種ノ樹木其種類數多アリト雖  
 此等ハ森林家ノ要用ニ非ルヲ以テ茲ニ略ス

菩提樹、小櫻木、楓樹 此三種ノ樹材ハ家具師、指物師、櫛輪細  
 工師、琴細工師等ノ用ユル所ナリ殊ニ楓樹 俗ニ板屋トモハ  
 其質堅剛ニシテ乾縮スル憂ナク且ツ之ヲ磨イテ光滑ナラ  
 シムルヲ得ヘシ馬車馭者ノ鞭ノ柄モ此材ヲ以テ製スルヲ  
 常トセリ菩提樹ハ道路ノ旁ニ植ルルハ葉繁茂シテ深陰ヲ  
 爲シ暑氣ヲ防クモノナリ右三種ノ樹林ハ森林家ノ注目ス  
 べき樹木ナリトス此等樹木ニ適スル土地ハ既ニ苗木ノ童  
 ニ詳陳セリト雖モ菩提樹ノ如キハ疲弊ノ土地タリトモ小  
 石少キ所ニハ能ク生長スルモノナリ



以上陳述セル樹木ノ外ニ尙ホ二三有益ノ種類アリト雖モ  
 前段ニ陳述セル樹木ノ如ク有益ニハ非ス而モ是等亦タ諸  
 製作及諸細工ニ有用ノ者ナルカ故ニ多少森林家ノ注目ヲ  
 要セサル可ラス就中最モ注目スヘキハ「アリシエ」(譯字ヲ知ラズ)ニ  
 シク此樹木ハ天然森林ニ生殖スルモノナリ其木肌ハソル  
 ビエ(譯字ヲ知ラズ)ニ似テ色美ニ之ヲ研磨スレハ光澤出ツヘシ製  
 造所ニ於テハ諸鉄具ノ柄ニ作り又タ笛等ヲ製スルニ用ユ  
 ルナリ木炭ト爲シテ楡樹ト同一ノ品質ヲ得ヘシ其實ハ之  
 ヲ製シ銘酒ヲ造ルヘシ其味少ク酸味ヲ帯ヒテ頗ル美ナリ  
 此樹木ヲ殖スルニハ播種、接木及壓條ノ諸法ヲ用ユヘシ  
 接骨木ハ煙草入ヲ造ルニ用ヒ山茱萸樹ハ階子ヲ造ル用材  
 ト爲スヘシ又木炭ト爲ス可シ忍冬樹狗骨樹ハ其幹大ナル

ニ及ンテ諸種ノ用ニ供スヘキカ故ニ賣捌ノ多キ樹木ナリ  
 「アルグシエ」(譯字ヲ知ラズ)ハ針毛多キ樹木ニシテ其根枝ノ茂キ  
 カ故ニ急流ノ川岸ニ植テ土ヲ堅固ナラシムヘシ山査子樹  
 ハ焙硝造製ニ用ヒ又藥品トシテ獸醫ノ用ル所ト爲ス山忍  
 冬樹「アルプーシエ」(譯字ヲ知ラズ)「Savonnier」(リシエ)  
 Ligierハ砂地ノ潰敗ニ易キ者ヲ堅固ナラシムルノ用アリ黃  
 楊樹ハ彫刻及小間物細工ニ用ル材料ナリ而シテ其代價頗  
 ル高直ナリ故ニ森林ニ植ユルキハ其利益多シト雖モ年々  
 其需用増加シテ樹木ハ次第ニ減少スルヲ見ルナリ此樹木  
 ハ日蔭ヲ好ムカ故ニ路傍又森林ノ傍ニ植ルヲ良シトス地  
 質ハ濕氣アリテ寒冷ナル處ハ不適當ト雖モ唯タ粘土ハ適  
 當ナリトス之ヲ殖生スルニハ多ク播種ヲ用ユト雖モ接木



法ヲ最良トスノアゼチエーハ桶樽ノ籠又ハ箒ノ結輪ニ用ユ  
 増殖スルニハ其枝ヲ十五乃至二十センチメートルノ長サ  
 ニ切取り之ヲ地中ニ挿植スヘシ土地ハ何種ヲ撰マスト雖  
 凡テ濕氣アル地ニハ殊ニ適スルナリ砂地楊ハ砂地ノ動  
 類ヲ防シニ長シ螺旋柳ハ其葉細ニシテ其木質ハ柔軟ナル  
 以テ之ヲ綱ニ代用スルニ足ル桃葉衛矛樹ハ其木ヲ燒焦  
 シテ之ヲ画工ノ繪具及焰硝製造ニ用ルモノナリ

一樹木伐養法

樹木伐養法 凡ソ樹木ハ植付テ爲シテ后三四年ヲ經其根  
 抵張りテ充分ニ生長シタル時ニハ之ヲ地ノ表面ヨリ伐ル  
 へキモノトス而テ其樹木ノ或ハ壯健ニ生育シテ幹木ノ直

立シタルモノアルキハ之ヲ伐ルニ及ハサルコトアリ凡ソ樹  
 木ヲ長大ニ生育セスノ伐採スルノ目的アテハ必ス右ノ如  
 シ幹ヲ切テ更ニ新蓓ヲ生セシムルヲ要ス之ヲ伐ルニハ幹  
 ヲ動シ根ヲ搖シテ樹身ノ他部分ヲ傷害スヘカラス故ニ之  
 ヲ切斷スル時必ス鋸ヲ用テ斧斤ヲ用ル勿レ切斷ノ時季ハ  
 可成的春三月ニ近寄ルノ時ヲ擇フヘシ何トナレハ如是ノ  
 時季ニ切斷スルキハ其伐口ヨリ一層壯健ナル萌芽ヲ吐出  
 シテ從來柔弱ノ幹ニ代ルヲ得ヘケレハナリ長大ニ生育セ  
 サル樹木ノ森林ニハ必ス此法ヲ用ユヘシト雖凡樹木幹ノ  
 周圍八乃至九センチメートルトルニ至ラサルモノハ妄リニ切  
 ルヘカクテ何トナレハ幹ノ小ナルハ即チ根ノ小ナル證ニ  
 レテ之ヲ切ルキハ其樹枯死セサルモ其發芽甚カ運キモノ



ナレハナリ故ニ此法ハ發育ノ盛ナル時ニ至テ行フヘキモ  
ノトス

一 毎年落葉スル樹木ノ播種法

樹木殖生法中ノ最モ天然ニ適セルモノハ樹木ヲ植ユヘキ  
場所ニ其種子ヲ播布スルコト是ナリ吾人今日ニ至ルマテ山  
林所有者ハ其林樹ヲ増殖スルコト皆天然ノ法ヲ用ルコト多  
シ此法ハ森林所有者ノ爲メニ苗床ヲ築キ又苗木ヲ移ス等  
ノ諸入費ヲ省ク可シ今試ニ播種ノ樹木ト移植ノ樹木ト其  
生長發育ノ度ヲ比較スルニ第一年ニ於テハ播種ノ樹木ハ  
移植ノ樹木ニ及フ可ラスト雖トモ爾後其枝葉ヲ茂生スル  
ニ至テハ其場所ニ播種シテ生シタル樹木ハ苗床ヨリ移植  
シタルモノヨリモ優ルコト遠シ播種シタル苗木ハ直立シテ

生長シ且ツ苗床ヨリ移植シタル苗木ヨリモ壯健ナリトス  
凡シ播種ト移植トヲ問ハス其場所ヲ精耕シ之カ土ヲ搗碎  
スルコト要ス若シ精良ノ土地ニシテ種樹アルキハ其播種ニ  
人勞ヲ省テ費用從テ減スルモノナリ母樹ノ實ヲ結フヤ其  
成熟スル時ニ及テ其下地面ヲ精耕シ其堅實ヲ覆埋シ以テ  
其發生ヲ俟ツヘシ然レ其下地面ニ芝アルキハ此單純ナル  
法ヲ以テ充分トスヘカラス  
右ノ如ク直ニ其場所ニ播種ヲ爲スキハ相當ノ距離ヲ隔テ  
畝線ヲ作り順序ヲ立テ之ニ種子ヲ蒔クヘン何トナレハ  
後日手入ヲ爲スニ方リテ甚タ至便ナルヘケレハナリ凡ソ  
播種ト移植トコ論スル勿ク其近傍ニハ大樹ヲ殘置クヘカ  
ラズ大樹近傍ニ在ルキハ其枝葉ノ蔭ニ因テ苗木又幼木ハ



充分ニ空氣日光ヲ受ケル能ハスシテ地底ノ養料モ亦大  
 樹ノ爲ニ吸取セラレテ充分ノ精力ヲ得ル能ハス幼木ノ繁  
 茂スルニ及テ之ヲ間引シニハ樹根ノ側マテ深鋤シテ必  
 其根ノ傷斷スルヲ恐ル可ラス何トナレハ少ク根ヲ傷ル  
 深ク鋤クハ其生長ノ力一年間甚ク鈍シト雖モ其次年ヨ  
 リ大ニ勢力ヲ増スモノナレハナリ又々有益ナラサル樹木  
 ヲハ魁ヲ之ヲ切除スヘシ面ノ有益ノ樹木ノエテ殘シ置ク  
 一樹木植付受負

樹木植付ハ決シテ受負人ニ委任スヘカラス受負人ニ委任  
 スルハ山林所有者ノ爲ニ利スル所少キノミナラス反テ  
 双方紛糾ノ其間ニ生スルコトアルヘシ例ハ間引充分ナラ

ス苗木壯健ナラス植方正良ナラサル等ノ事アリテ山林所  
 有家ノ心ヲ満足セシメサルコト多ク此等ノ事ハ猶ホ些小ナ  
 リト雖モ之ヲ要スルニ樹木能ク生育スルハ受負人之ヲ  
 訪稱スト雖モ若シ之ニ反シテ受負人ノ保証セラル如クニ  
 樹木ノ生育惡シキハ裁判上紛糾ノ公事常ニ絶ヘスシテ  
 爲ニ損毛ヲ來スヘシ往々然リトス

一常盤木ノ播種法

一松杉類ノ樹木即チ有脂木類ノ植付方ハ我佛國山林ニ於  
 テ未ク充分ナリト云ヘカラス荒瘠ニシテ他樹木ノ生育シ  
 難キ地ナルモ有脂樹ヲ植テ能ク生長セルコトハ屢ハ之レ有  
 リ之ニ因テ見レハ如斯ノ土地ヲ攢斥シテ今日猶ホ之ヲ不  
 毛ニ屬セシムルモノモ亦多カルヘシト思ハル有脂樹ノ



或ル種類ニシテ高山ノ巔直立峻嶮ナル土地ニ生長シ得ル  
 モノアリ此等ノ如キ土地ハ他ノ下草ヲモ能ク生育セサル  
 所ナリトス然ルニ有脂樹類ハ之ニ生長スルヲ以テ見レハ  
 土地ノ峻嶮疲瘠ニ拘ラス克ク生長スルモノト謂フヘシ  
 総テ有脂樹類ハ其材ノ有用ナル其樹ヨリ製品ヲ得ルノ夥  
 多ナル其葉ノ土地ニ墜落混和シテ肥料トナル等實ニ有益  
 樹木ナリト謂ヘシ例ヘハ松樹ヲ長ク植ヘタル土地ハ漸次  
 肥饒トナクテ松樹ヨリモ上等ナル樹木ヲ植ヘ得ルニ至ル  
 又ハ其土地ニ穀物ヲモ植ヘ得ルニ至ルヲアリ予ノ茲ニ植  
 得ルト云フハ徒ニ植付ヲ爲シ得ルト云フニ非ラス此處  
 ニ植付ヲ爲シテ最多ノ収獲ヲ得ルト云フ義ナリ凡ソ疲瘠  
 ナル土地ニ上等ノ樹木ヲ植テ収獲ノ多キヲ得サルモ又々

豊饒ナル土地ニ下等ノ草卉ヲ植テ利益ノ多キヲ得サルモ  
 皆ニ森林經濟ノ法則ニ戻レハナリ  
 一 檜樹 檜ハ大木ニ至リ易キモノナリ且ツ堅木ノ部類ニ  
 入レテ可ナリ其用ハ多ク建築材ニ用ユ其植付ハ上等ノ土  
 地ニ非ルモ生長至テ迅速ナリ予ノ實見シタル者ハ砂地ニ  
 シテ底深キ土地ニ植タル檜ノ僅ニ四十五年間ヲ經テ其材  
 量壹メートル立方ノ十分七以上ニ至リタリ沙地ニシテ底  
 深キ場處ハ檜ヲ植ルニ最下等ノ土地ニシテ之ヨリモ尙ホ  
 下等ナル土地ニハ檜ヲ植ユヘカラス「サペン、エビサア」杉ノ  
 ナ「メン、ストロビユス」種ナリ「セードル」樅ノ類等ハ重モニ風  
 景ノ爲ニ植ルモノニシテ其適合スル土地モ亦テ檜ト同一  
 ナルヘシ而シテ此等ノ樹木ハ檜ノ如ク森林家ノ注目ヲ煩ハ



スニ足ルモノニ非ラス  
 「ペンシルウエスト」  
 「ペンダコー」  
 松ノ類トモ此兩種ノ樹  
 ハ甚々相ヒ背タル樹木ナリ唯「ペンシルウエスト」ハ南  
 向ノ地ヨリモ克ク北向ノ土地ニ生長スルモノナリ「ペンダ  
 コー」ハ方向ニ均ハラヌ「ペンシルウエスト」ト同等ノ土  
 地ニ植テ其生長最モ速ナリ且ツ「ペンシルウエスト」ハ實  
 ナ結フ「甚々鈍ク」  
 「ペンダコー」ハ然ラス母樹ノ實ハ堅テ  
 下草ノ中ヨリ發生シテ能ク生長スルヲ見ルコト多シ  
 右種類ノ樹木ヲ播種スルニハ其土地ノ性質ニ從テ其方法  
 モ亦々殊ナルヘシ場合ニ因テハ播種前ニ土地ヲ耕ヘヌヲ  
 良シトス其耕耘ノ深サハ廿五センチナメ「ト」乃至三十センチ  
 ナメ「ト」ニシテ土地一ニシタールニ付キ種子十五センチ

ログランム乃至二十センチログランムヲ播種スヘシ而後ニ其  
 種子ヲ覆フ爲ニ再ヒ勸耕ヲ爲スヘシ或ル場合ニ因テハ播  
 種前ニ土地ヲ耕ヘサスシテ直ニ種子ヲ下シ勸耕ヲ以テ之ヲ  
 覆フモ可ナリ子實地ニ付テ此法ヲ試ルニ樹苗能ク發生シ  
 テ壯健ニ生育シタリ  
 播種後三四年ヲ徑ルニ及テハ其樹木充分ニ強壯ニ至ル此  
 時ハ樹木ノ根迄能ク耕ヘシ他ノ雜草木ヲ勸除クヘシ尙ホ  
 三四年ヲ歷ルハ處々ニ除去ルヘキ雜草木アルヘシト雖  
 モ一時ニ之ヲ取ルヘカラス何トナレハ有脂樹類ハ凡テ近  
 接セヌシテ孤暎疎間ナルキハ生長シ難キモノナレハナリ  
 故ニ始テ雜草ヲ除クキニハ唯々其ノ近接ナル者ノニテ除  
 キ其後五年若クハ十年ヲ經タルキニ至テ後ヲ結局ノ距離



ヲ定ムヘシ  
 「ペン、シルウエストル」及ヒ「ペンデコース」ヲ播種スルニハ海  
 松樹及ヒ檜樹ヲ交錯シテ播種スヘシト主張スル森林家多  
 シ如是スルキハ右ノ樹木最モ其土地ニ適シタルモノ能ク  
 生長スヘシト雖モ他ノ不適ナル種類ハ發生甚々難カルヘ  
 シ故ニ此ノ不適ノ樹苗ハ追テ之ヲ除拔スヘシ  
 「ペン、ラリシオ」種ナリハ「ペン、シルウエストル」ト同様ノ方法  
 ヲ以テ養育スルモノナリ然モ其樹木ノ長大ナルハ「ペン」  
 ルウエストル」ノ比ニ非ルヲ以テ一般ニ之ヲ植付ルヲ良シ  
 トス「ホンチアブロー」地名ノ森林ニハ「ペン、シルウエストル」ニ  
 接木ヲ爲シタル大樹多シ  
 海松樹ハ我佛蘭西ノ南方ニ於テ沙地ニ植付ルモノナリ其

有益タルヤ實ニ小少ニ非ストス北方ニ在テモ此樹木ノ或  
 ハ「ペン、シルウエストル」ペンデコース」ヨリモ長大ニ至レル  
 モノアリ且ツ北方ニ於テ一般ニ適當セスト雖モ凡ソ下等  
 ノ土地ニ在リテハ他ノ樹木ニ劣ルヲ無シ予ノ實見シタル  
 所ハ土地一「メートル」平方二十五個ニ付此樹一株ツ、ヲ植  
 テ年數五十歳ヲ經タルモノハ一「メートル」立方乃至一「メー  
 トル」四分立方ノ木材ヲ得タリ土地一「エクタール」ニ付キ四  
 百本ノ割合ニシ一本ノ代價四十法トスルキハ此金高ハ千  
 六百法ニ至ルヘシ年齢五十乃至六十歳ニシテ中等ノ土地  
 ニ生育スル樹木ノ如是収獲アルモノハ豈其レ多カラシヤ  
 「ペン、オストラール」種ナリハ南亞米利堅ヨリ舶來セル樹木  
 ナリト雖モ歐羅巴ニ於テ能ク生長スルモノナリ此樹木ハ



沙地乾地ニ能ク適スルモノニシテ其高サ七丈餘ニ達ス此  
 樹木ハ軟肉ル者ヲ俗稱ス少キカ故ニ蟲害ナク最モ建築材  
 ニ用ユ可キナリ  
 凡テ有脂樹木ハ其苗ヲ植ルヤ生育ノ充分ナルヲ得難キモ  
 ノニシテ之ヲ増殖スルニハ可及的苗ヲ植ヘスレテ其場所  
 ニ播種スルヲ要ス若シ土地ノ都合ニヨリテ播種スヘカ  
 サルキハ其移植スヘキ苗ヲ小壺若ハ小籠ニ養育シ之ヲ其  
 場所ニ植ルニ及テ後テ其鉢ヲ毀ツヘシ而ヒ此等ノ方法ハ  
 皆テ入費ヲ嵩ムモノナルカ故ニ可成ハ播種ノ方ニヨルハ  
 キナリ  
 右ノ外ニ猶ホ諸種方法アリト雖ヒ森林家ノ爲ニ至要ナラ  
 サルカ故ニ今暫ク之ヲ措テ陳セサルナリ

第四章 下草下枝ヲ刈除スル事

一長大ニ至テサル前伐採スヘキ森林ノ手入。

森林ノ下草下枝等ヲ刈除スルトハ近世森林生育改良以來  
 行ハル、モノニシテ其理由ハ誰モ能ク解了シ得ヘク且ツ  
 其方法タルヤ都テ森林ニ施行スヘキモノナリ此方法ヲ行  
 フルハ常ニ最良ノ結果ヲ得ルカ故ニ凡ソ養林家ハ一人ト  
 シテ此方法ヲ排斥スルモノナシ凡ソ樹木ヲ伐採スル時ハ  
 其伐口ヨリ數本ノ萌芽ヲ發生スト雖ヒ一本ノ幹株ハ其數  
 多ノ萌芽ヲ生長セシムル能ハスシテ其内數本ハ枯死シ又  
 其他ハ數年ヲ經ルノ後ニ枯死シ終ニ其殘存スル所ノモノ  
 ハ僅ニ二三本ニ過キス而シテ其先キニ已ニ枯死スルモノ  
 ハ其生存スルノ間永ク殘存スル所ノモノ、生長ヲ障害シ



タルモノナリ又森林内ニ數多ノ雜草雜木生長セテ地中ノ  
 養分ヲ吸収シ有益ナル樹木ノ生育ヲ害スルアリ是等ハ皆  
 ナ人ノ知ル所ナリトス則チ無益ナル萌芽ヲ刈除シ障害ア  
 ル雜草ヲ刈除スルハ此章ノ目的トスル所ナリ  
 樹木ヲ刈除スルハ森林家ノ最モ注意スヘキ所ニシテ其使  
 用スル所ノ職工ハ正直ニシテ且ツ取捨ノ才力ナカルヘカ  
 ラス又其樹木ヲ刈除スルニ當テヤ常ニ之ヲ監督セサルヘ  
 カラズ何トナレハ樹木ノ幹株ヨリ發生シタル萌芽ヲ點檢  
 シテ養育シ得ヘキ萌芽ノ數ヲ考エ其内刈除スヘキモノト  
 能ク根付キテ刈除ス可ラサルモノトヲ取捨セサルヘカ  
 サレハナリ若シ之ヲ取捨チナサス唯ニ萌芽ヲ多少刈除ス  
 ルトハ其有益ヨリモ寧ロ其有害多カルヘシ故ニ萌芽ノ刈

芽立木ト  
 云ハセルハ  
 伐採セル  
 樹木ノ根  
 ヨリ生シ  
 タル樹木  
 シ云フ

ルヘキト刈ルヘカサルシチ點檢取捨スルト最モ緊要ナリ  
 トス  
 芽立木ヲ刈除スルノ年限及ヒ其員數ノ多少等ハ其土地ト  
 其樹木ヲ伐採スヘキ年限トニヨリテ斟酌セセルヘカ  
 ルナリ即チ濕氣アル上等ノ土地ニ在リテハ五年若シハ八  
 年毎ニ之ヲ刈除スヘシト雖モ山地其他乾燥ノ地ニ在リテ  
 ハ樹木ノ未タ充分ニ生長セサニ追テ之ヲ刈除スルトハ地  
 中ノ水氣蒸發スルト速ニシテ林木ヲ害スルカ故ニ八年若  
 シハ十年毎ニ刈除スヘシ又凡ソ十五年目ニシテ森林ノ樹  
 木ヲ伐採スル目的ナルトハ多ク萌芽ヲ刈リ去ルヘカラス  
 是レ十五年間ハ一ノ幹株ニシテ能ク數本ノ萌芽ヲ充分ニ  
 生育スルヲ得ルニ因ルナリ又三十年或ハ四十年目ニ伐採



スルノ目的ナルモハ早ク萌芽ノ悪キモノヲ刈除シテ其要  
 用ナルモノ而已シ殘存スヘシ英吉利人ハ芽立木ヲ刈除ス  
 ルニ異法ヲ取レリ其方法タルヤ芽立木二年ノ時ヨリシテ  
 毎年少々宛之ヲ刈除シ如此クスルト十年乃至十五年ニ到  
 ル余想フニ此方法ハ乾燥ノ土地及ヒ山地ニハ適當ナラス  
 何トナレハ則チ枝葉漸々減少シテ土地ノ水氣速ニ蒸發ス  
 ルノ害アリ又濕地及ヒ沃饒肥膏ノ土地ニ行フキハ空氣ノ  
 流通ヲ善クシ雜草ノ多ク生長スル害アル可シ英吉利ノ如  
 キ季候ノ土地ニ在リテハ害尤モ多カル可キナリ且ツ是等  
 ノ方法ハ入費テ嵩ムト蓋シ勘カラストス  
 芽立木ヲ刈除スルニハ其最モ直ニシテ強壯ナルモノヲ殘  
 時シ其怯弱ニシテ發育ノ不善ナルモノヲ刈リ去ル可シ又

之ヲ刈ルニハ貯存スヘキモノニ害ヲ與ヘサル様ニ注意シ  
 可及的幹株ノ根本ヨリ丁寧ニ刈リ去ル可シ仮令ヒ一株ノ  
 芽立木皆チ發育不善ナリト雖モ悉ク之ヲ刈リ尽ス可カラ  
 ス必ス其内一本ハ殘貯シテ其株ノ精汁ヲ使用スル處アラ  
 シムヘシ且ツ嚴ニ注意シテ播種シタル苗木ヲ刈ル可ラス  
 而シテ己ニ刈リ取リタル木朶ハ直チニ之ヲ束テ道路ノ傍  
 ニ持チ去ルヘシ  
 芽立木ヲ刈除スルコトノ有益ナルヲ徴セシカ爲メニ此ニ一  
 例ヲ舉ク可シ即チ土地ノ善惡同等同質ニシテ同位地ナルニ  
 エクタル大凡我カノ森林アリ此森林タルヤ各同種ノ樹木  
 ヲ培植シタルモノナリ而シテ兩地共ニ其樹木二十年ヲ經ル  
 ノ後同時ニ之カ伐採ヲ行ヒタリ然ルニ其二「エックタル」ノ分



ハ八年ノ時ニ己ニ芽立木ヲ刈除シ而モ其収獲ハ其刈除ノ  
 入費ヲ引キ去リ殘金七十五法ノ潤益ヲ生シ爾後伐採シク  
 ル時ニ及テ金千二百法ノ収獲ヲ得他ノ芽立木ノ刈除ヲ行  
 ハサルニ「エクタル」ノ分ハ伐採シタル時ニ及テ唯千法ノ収  
 獲ヲ生セシ而已彼是之ヲ比較スルニ芽立木ヲ刈リタルモ  
 ノハ之ヲ刈ラサルモノヨリ其収獲金二百七十五法ノ過分  
 ヲ生セリ以テ芽立木刈除法ノ有益ナルヲ見ルヘシ又「メ  
 グン」リユヌヤク「新聞」ノ報スル所ニ依レハ佛國「ソ  
 ーヌ」州ノ「シヤレット」ト云ヘル所ノ森林ニ於テ芽立木ヲ刈  
 リタルモノハ「エクタル」ニ付木炭二百二十五「メ  
 ートル」立  
 方坪ヲ生シ其價金千百六十法ニ登リ而シテ同森林内芽立木  
 ヲ刈ラサルモノハ「エクタル」ニ付生スル所ノ木炭ノ價金

僅ニ九百法而已ト云フ以上報スル所ノ如ク差異アル原由  
 ヲ尋ルニ蓋シ樹木ノ一株ニシテ拾本ノ芽立木ヲ保存シ得  
 ルハ二十年間ヨリ長カラズ而シテ芽立木ヲ刈ラサル場處  
 ニ於テハ一幹株ニ三十本ノ芽立木ヲ生存スト雖モ其内二  
 十本ハ一株ノ能ク生育スヘキ所ニ非サレハ幹株ノ養分ヲ  
 吸尽スルニ及ンテ二十年間ヲ保タズ早ク已ニ必ス枯死ス  
 ヘシ其残り十本ハ能ク二十年間生存スヘシト雖モ最初二  
 十本ノ芽立木ト一株ノ養分ヲ共有スルノ間生長ニ幾許ノ  
 損害ヲ受タル故ニ其成長ノ劣レル亦怪ムヘキニ非ラス若  
 シ之レニ反シテ芽立木刈除ノ法ヲ行ヒ三十本ノ内二十本  
 ヲ刈除スルキハ残り十本ノ芽立木三十本分ノ養分ヲ吸収  
 シ得ルカ故ニ其成長ノ速ナルハ理固ヨリ然ルナリ森林所



有者其樹木ノ芽立木ヲ刈除スルヲ怠ルキハ其収獲ヲ減  
 少スルヲ如此實ニ忽ニス可カラサルナリ  
 森林ノ土地豊饒ニシテ上等ノ樹木ヲ生育スルニ當リ下等  
 ノ樹木混交シテ生長スルキハ芽立木ヲ刈除スル時ニ其根  
 ヲリ之ヲ掘リ去ルヘシ若シ下等ノ樹木夥多ナルニ於テハ  
 寧ロ伐採ノ期ヲ待テ之ヲ掘リ去リ而シテ其跡ニ上等ノ樹  
 木ヲ植ルヲ善シトス

一大樹ヲ生育スヘキ森林ノ手入

大木トナスヘキ樹木ハ其初メ前條ノ手入ヲ行ヒタル後  
 甚タ容易ナルモノナリ其手入タルヤ二十年若クハ二十五  
 年毎ニ白木、鐵薇、其他雜木ヲ除去シ樹木ヲシテ自由ニ成長  
 セシムルニ在リ而シテ二十年乃至二十五年毎ニ雜草ヲ刈

除スルキハ其雜木ノ収獲モ亦少シトセス右ノ如ク雜木ヲ  
 刈去リタル後八年若クハ十年ヲ經テ堅實ノ樹木ヲモ伐採  
 シテ間引ヲナス可シ又其後八年若クハ十年ヲ經テ第二回  
 ノ間引ヲナシ而シテ立木ノ距離ヲ定ムヘシ此間引ハ必ス  
 八年若クハ十年目ニ兩回ニ之ヲ行フヘキモノナリ若シ之  
 ヲ一回ニ施行シテ樹木ノ距離ヲ廣クスルキハ樹木ニ數夥  
 ノ枝葉ヲ生シテ其空所ヲ充テサントスルモノニシテ樹木  
 ノ高ク成長スルヲ遲カルヘキナリ且ツ大風大雪ノ際爲メ  
 ニ樹木ヲ損傷スルヲアリ巳ニ前條ニ述ヘタル如ク長大ニ  
 到ラサル前伐採スヘキ樹木ハ芽立木ヲ刈除セサレハ幹株  
 ノ養分不足スルモノナリト雖モ大木トナスヘキ樹林ニ在  
 テハ其樹木ノ距離近接ニ過ルキハ空氣、日光、土地ノ養分、共



ニ充分ナラヌレテ樹木ノ成長遅キモノナリトス  
 森林ノ樹木ヲ間引クノ緊要ナルハ前ニ陳述スルカ如シ  
 ト雖モ決シテ分外ニ之ヲ間引ク可カラズ何トナレハ則チ  
 大樹ニ到ラシムルコトハ其距離近ク相接スルチ善長トスレ  
 ハナリ而シテ間引ノ距離ハ豫メ之カ規則ヲ定メ難シ故ニ  
 宜ク森林生育ノ指揮ヲナス者其貯存スヘキ樹木ノ種類ヲ  
 撰ミテ其距離ヲ定ムヘキナリ樹木ノ種類ヲ撰ムニハ其最  
 モ高且ツ直ナル樹木ノ性質能ク其地ニ適當ノ大樹ニ到ル  
 ノ目的ナル者ヲ撰養ス可シ是レ實ニ後來成木ノ時収獲ノ  
 多少ニ關スル所ナリ故ニ之ヲ指揮スル者ハ深ク此ニ注意  
 セサルヘカラサルナリ

一大樹ノ下枝ヲ刈除スル事

大樹ノ下枝ヲ刈除スルコトニ付テハ森林家議論區々ニシテ  
 一定セス或ハ下枝ヲ刈ルヘシト云ヒ或ハ之ヲ刈ルヘカラ  
 スト云フ者アリ然レモ余ハ之ヲ刈ルヘカラスト思フナリ  
 蓋シ下枝ヲ刈除シタル樹木ヲ見ルニ皆ナ螺旋形若クハ節  
 瘤ヲ生シテ最良ノ材トナルモノ甚ク僅少ナリ且ツ樹木ノ  
 枝數ハ根ノ員數ト相當シテ生スルモノナルカ故ニ一大枝  
 チ切り去ルルハ之レニ代リテ他部ニ數個ノ小枝ヲ生スヘ  
 キノ理ナレハナリ  
 大木ト爲スノ目的ナル樹木ハ其下枝ヲ刈除スヘシト雖モ  
 之ヲ刈除スルニハ又大ニ注意セサルヘカラサルモノアリ大  
 木ノ下枝ヲ切斷スルニ當テヤ此切斷ヲ行フ所ノ職工ハ爪  
 針ヲ附セル鉄靴ヲ履テ樹木ニ登ルモノナリ而シテ其爪針



ハ木皮ニ刺入シテ職工ノ樹上ヨリ墮落スルヲ防禦スルモ  
 ノニシテ此爪疵ハ何ノ障害ヲナサ、ル如ク見ユルト雖モ  
 能ク之ヲ考フンハ則チ其樹木ノ精汁ハ爪疵ノ周圍ニ集合  
 シテ忽チ十「サンツメートル」乃至十五「サンツメートル」ノ節  
 瘤ヲ生シ仮令ヒ其周圍ニ腐敗ヲ來サ、ルモ其爪疵數個ア  
 ルニ至テハ木材供用ノ目的ヲ變セサルヲ得サルノ害アリ  
 初メニ之ヲ斧割材ニ供用セント欲セシモ多ク節瘤ヲ生ス  
 ルニ至テハ其用ニ堪ヘス之ヲ鋸割材等ニ用ユルニ至ル而  
 シ鋸割材等ニ用ルモ到底其板面ニ節痕アルキハ其價格低  
 減ノ其收穫ノ少ナルニ及フ可シ山毛櫸樹其他木皮ノ薄キ  
 樹木ハ其害殊ニ多シトス是故ニ大樹ノ下枝ヲ刈除スルニ  
 モ如此キ鉄靴ヲ用ヒテ爪疵ヲ著センヨリハ寧ロ長柄ノ鎌

ヲ用ル歟又ハ楷梯ヲ用テ樹上ニ登ルヲ良善トナスナリ  
 大樹ヲ生育セント欲スルモ或ハ已ムヲ得ス其下枝ヲ刈除  
 セサルヲ得サル事アリ即チ其樹木ノ下枝四方ニ廣マリ以  
 テ地面ヲ覆ヒ近隣ノ樹木ニ障害ヲナス場合はレナリ此ノ  
 場合は於テ其樹木ハ通常ノ樹木ニシテ且ツ既ニ成長セル  
 モノナラハ其枝ヲ刈ルヨリハ寧ロ其樹ヲ伐採スルヲ以テ  
 良法トナス若シ其下枝ヲ刈ント欲セハ必ス其幹ヨリ二十  
 「サンツメートル」ニ隔テ切斷スヘシ而シテ其切殘ノ分ハ爾後  
 二年ヲ經テ之ヲ伐除スヘシ且ツ如此ク切斷シタル后ハ其  
 切口ノ乾燥セサル様ニ注意スヘシ若シ初メヨリ直チニ之  
 ヲ幹ニ接近シタル所ヨリ刈除スル時ハ其切口空氣ニ觸レ  
 其レヨリ幹ノ中部マテ乾燥スルヲ到ルヘシ然ルキハ樹木



ノ精汁其切口ニ集合シタ一塊ノ癭起ヲナシ之レヨリ其周  
 圍ニ腐敗ヲ生スルコトアリ假令ヒ腐敗ヲ生セサルモ節割ヲ  
 生シテ其部分ハ材木トシテ細工ニ供用スルニ一ノ疵瑕ト  
 ナルモノナリ凡テ下枝ヲ刈リ去ルニモ又夕切斷シタル枝  
 ノ殘部ヲ切除スルニモ務メテ切口ヲ平滑ニナシテ割レ目  
 切り損等ノナキ様ニ注意スルコト肝要ノ事ナリトス  
 數十年ヲ經タル樹木ノ下枝ヲ刈除スルコトハ前條ノ如ク注  
 意ヲ要スル緊切ノ事ナリト雖モ若木ノ下枝ヲ刈除スルコト  
 ハ更ニ障害ヲ生スルコトナリ却テ其樹木ノ成長ヲ助クルモ  
 ノナルカ故ニ若木ノ下枝ハ必ス刈リ去ルヘキモノトス若  
 木ノ下枝ヲ刈除スルニモ亦其樹幹ヨリ四サシチメトトル  
 乃至六サシチメトトルヲ隔テ切斷スヘシ而シテ其枝ノ殘

部ハ之ヲ切除セサルモ可ナリ蓋シ若木ノ下枝ハ素ヨリ細  
 小ニシテ其切痕モ亦從テ小ナレハ四五年ヲ經ルノ後下枝  
 ノ切殘部ハ自然ニ朽墜スルモノナリ  
 長大ニ至リサル前ニ伐採スヘキ森林ト雖モ其伐採ヲ行フ  
 ニ當リ殘存シテ生育スヘキ樹木ハ往々之アリ而シテ一般  
 ニ其殘木ノ下枝ヲ刈除スルハ森林伐採ノ際ニ行フヘカラ  
 ス若シ伐採ノ時ニ同シク之カ下枝ヲ刈ルルハ其樹木ノ精  
 汁上部ニ昇リテ上部ニ多ク小枝及ヒ葉ヲ生シ暴風積雪ノ  
 爲メニ或ハ彎曲シ或ハ折損スルコトアリ故ニ寧ロ森林ノ間  
 引チナスニ當リテ其下枝ヲ刈除スルニ如カサルナリ  
 河海ノ傍又ハ製造所ノ多キ處ニ近接スル地方ニ於テハ造  
 船或ハ建築ニ供スル曲形ノ木材ヲ要スルコト多ク故ニ彎曲



シテ能ク其用ニ適スルモノハ通常其價格直木ノ價ニ二倍  
 スルモノナリ檜樹、栗樹、楡樹及ヒ秦皮樹ハ善良ノ曲材ヲ生  
 スルモノトナス而シテ森林ノ夥多ノ樹木中ニハ天然ニ能  
 ク彎曲シタル木材往々ナキニ非スト雖ヒ之ヲ求ムル所ハ  
 甚ク稀ナリ然レモ天然ニ成リ難キモノ人爲ニ成ス可容易  
 ナリ即チ曲木ト作サント欲セハ樹木ノ枝ニ股ニ生シタル  
 時其直出シタルモノヲ切り其傾出シタルモノヲ存スレバ  
 樹木ノ精汁ハ殘存セル曲枝ニ昇リテ其枝ノ曲形ニ從ヒ成  
 長シ以テ欲スル所ノ曲材ヲ得ヘキナリ  
 有<sup>レ</sup>脂<sup>ニ</sup>樹<sup>ニ</sup>木<sup>ニ</sup>到<sup>ル</sup>ヲハ右ノ方法ヲ以テ曲材ヲ得ル可ハス且  
 ツ其間引方法等ハ已ニ第三章ニ陳述シタルヲ以テ再ヒ此  
 ニ記セス然レモ森林ニ間引ヲ行フ<sup>レ</sup>度ニ過ク<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>ハ土地

ノ水氣ノ蒸發ヲ速ニシ播種ノ發育ヲ遅クシ而シテ種々ノ  
 雜草ヲ生シテ樹木ニ障害ヲ與フルカ故ニ森林ニ間引ヲ行  
 フ<sup>レ</sup>ノ大ニ注意スヘキハ余カ飽マテ森林所有者ニ忠告ス  
 ル所ナリ

第五章 森林支配ノ事

新ニ森林ヲ作ル者又ハ在來森林ヲ有スルモノ最モ注意ス  
 ヘキ所ハ何年目ニ樹木ヲ伐採スヘキヤ否ヤヲ熟知スルニ  
 在リ即チ其伐採ノ年限ハ森林所有者ノ收穫ノ多少ニ關係  
 スル<sup>レ</sup>實ニ少ラサルカ故ニ能ク其道理ヲ考ヘ其收穫ノ最  
 モ多カルヘキモノト其後來繁榮スヘキモノトヲ撰テ而シ  
 テ後伐採ニ着手スヘキモノナリ茲ニ先ツ有<sup>レ</sup>脂<sup>ニ</sup>樹<sup>ニ</sup>木<sup>ニ</sup>非<sup>ル</sup>  
 森林ノ事ヨリ説明スヘシ



森林所有者ハ其森林ヲ數區ニ分テ順次ヲ選テ毎年一區ツ  
 ヲ伐採シテ其區數ト其伐採ノ年限トヲ同一ニシテ年々絶  
 ヘス伐採スルノ方法ヲ立ルヲ以テ通常トナス然ルニ往々  
 此方法而已ヲ墨守シテ充分ナルヲト思考セ或ハ其森林ノ  
 位置樹木ノ種類及ヒ樹木成長等ノ一ハ顧ミサル者多シ苟  
 モ森林所有者ヨシテ如此キ思想ヲ以テ森林ヲ支配スルハ  
 ハ人アリ若シ此森林ノ樹木ヲ此年ニ於テ伐採スルハ何等  
 ノ理由ナルヤト問ヘハ決シテ之レニ答フルノ辭ナカルヘ  
 シ

「アレン」氏森林支配ト云フ義ヲ解シテ曰ク森林支配トハ  
 森林ノ樹木伐採ノ年限ヲ定メ其年限内ニ一森林ノ樹木ヲ  
 盡シ伐採スル順序ヲ定立シ且ツ如此クシテ毎年代採スルヘ

キ樹木ノ員數ト之ヲ伐採スルノ方法トヲ定ムルヲ云フナ  
 リト斯レ能ク意義ヲ解了シタルモノト云フヘシ

森林ノ支配ハ凡テ他ノ事業ト等シク最少ノ時間ニ最少ノ  
 資本ヲ以テ最多ノ利ヲ得ルヲ以テ其要トナス然レモ單ニ  
 此目的ヲ達セント欲スルハ或ハ後生子孫ノ爲メニ大害  
 ヲ生スルヲアリ是故ニ森林ノ事ニ到テハ政府ニ於テ宜ク  
 已往將來ヲ通鑑シ現在ノ需用ヲ節シ社會人民ノ貪欲頑愚  
 ヲ制シ以テ後生子孫ヲ保護スヘキナリ若シ政府ニ於テ此  
 制度ヲナサハルハ其障害ヲ來ス一蓋シ或ハ子孫ノ世ヲ  
 待ツヘカラス既ニ佛國ニ於テハ大樹アル森林ヲ見サルナ  
 リ夫レ森林ニ大樹ナキハ樹木ノ天然ニ繁殖シテ森林ノ  
 自ラ繼續スルヲ固ヨリ難シトス百年以來我國諸製造ノ進



歩シ及ヒ社會ノ開化スルニ從ヒ日ニ月ニ木材ノ需用ヲ増  
 加シ遂ニ其代價モ亦騰貴スルニ及フ則チ其需用ノ増加ト  
 社會人民ノ食欲ト此二ノ者ハ實ニ我國ノ大木ヲ尽ク伐採  
 セシメタルモノト云フヘシ然リ而シテ大樹ハ祖先ノ用ヲ  
 節シテ子孫ニ讓與セシ者ナルカ故ニ千思萬慮ノ後ニ非レ  
 ハ叨リニ之ヲ伐採シテ可ナランヤ且ツ大木ヲ尽ク伐採ス  
 ルトキハ其土地乾燥シテ不長ノ地トナリ易キモノナリ然  
 ルニ是レ之ヲ思ハス叨リニ大樹ヲ伐採シ其地爲メニ乾燥  
 地トナルニ迫テ其所有者ハ却テ其地ヲ墮シ乾燥ニシテ森  
 林ノ生育ニ不適當ナリト云フニ至ル思ハサルノ甚シキ者  
 ト謂フヘシ凡テ森林ノ樹木ヲ數々伐採スルキハ則チ其森  
 林ノ處々ニ殘存スヘキ樹木ト雖モ風雪ニ晒サレ爲メニ數

多ノ枝葉ヲ生シ高ク成長スルヲ得ス又直木トナルヲ得ス  
 終ニ大樹ト成ルトハ殊ニ難キモノナリ若シ之レニ反シテ  
 森林ノ樹木ヲ二十五年乃至三十五年目ニ伐採スレハ其殘  
 置シテ生育スヘキ樹木ハ近接ノ樹木ノ爲メニ障害サル、  
 故ニ下枝ヲ多ク生セス高ク成長スルヲ速ニシテ近接ノ樹  
 木伐採ノ後ト雖モ已ニ高ク成長スルヲ以テ能ク風雪ニ堪  
 へ大樹トナルヲ得ルモノナリ又森林ノ樹木ヲ數々伐採ス  
 ルニ因テ大樹ヲ得難キ所以ハ其殘置スヘキ樹木ト雖モ皆  
 ナ伐後ノ幹株ヨリ生スル萌芽ニシテ其萌芽ノ發育ハ播種  
 シタル樹木ノ如クナラス決テ大樹ニ至ラサルモノナリ是  
 又大樹ヲ得難キ原因ノ一トナスヘシ  
 森林所有者ハ其所有ノ土地大樹ヲ生育スルニ不適當ナリ



ト云フ者多シト雖能余ハ却テ曰ハソ土地トシテ大樹ヲ生  
 育レ得難キ者ナシト然レ能其樹木ノ成長ニ優劣ナキニ非  
 ラス地質長ク地底深キ土地ハ元ヨリ大樹ヲ生育スルニ最  
 上ノモノナリ  
 佛國ニ於テ或ル巖山ニシテ其地底僅カニ五六「サ」チメ  
 ル「ノ」深サナル處ニ高サ二十五乃至三十「メ」ートルニ及フ諸  
 種ノ大木生存スルアリ如此キ土地ニシテ如此キ大木ノ生  
 存スル所以ノモノハ他ナシ樹木ヲ伐採セサルニ由ル而已  
 故ニ若シ樹木ヲ盡ク伐採スルニ至ラハ其土地ノ水氣速ニ  
 蒸發シテ乾燥ノ土地トナリ再ヒ大樹ヲ生育シ難キ耳ナラ  
 ス或ハ其地質ヲ變シテ他ノ植物ト雖能不適當ナルニ至ル  
 「ア」ルヘシ若シ學者ノ先見ト今人ノ志力トヲ以テ從來ノ

方法ヲ改正セサルキハ森林都テ地ヲ拂フニ至ルハ蓋シ違  
 キニ非ルヘシ如此ク論スル所以ハ元ヨリ古來ノ大樹ヲ惜  
 ムコ非テ唯大樹ノ再ヒ得難キヲ患フル而已森林ノ樹木ヲ  
 數々伐採スルキハ天然播種ノアル「ナ」シ若シ假令ヒ豐饒  
 ノ地ニシテ稀レニ天然播種アルモ決シテ堅質ノ樹木ニ非  
 ラス此結果ヲ得ル「ア」ルハ白肌木ニ外ナラサルヘシ  
 凡テ森林所有者ノ大樹ヲ生育スル「ナ」稀ナルヲ以テ數々伐  
 木スルハ最多ノ利益アリト謂フヘカラス大樹ヲ生育スル  
 キハ其利益却テ數々伐木スルヨリモ大ナルモノナリ森林  
 所有者ノ此利益多キモノヲ捨テ彼利益少キモノヲ取ルハ  
 何ソヤ他ナシ大樹ヲ生育スルニハ多少年月ヲ費スカ故ニ  
 其永キヲ待ツニ堪ヘサル「ニ」ミナラス毎年可及的多ク森林



ノ樹木ヲ伐採ソ速ニ其収獲ヲ得ント欲スルニ職トシ是レ由ルナリ然レニ其収獲ハ大樹ヲ生育スルニ比スレハ其代價ノ少キ而已ナラス其収獲ノ量モ隨テ減スルナリ假令ヒ利息ヲ利息ヲ附シテ計算スルモ収獲ノ多キハ年月ヲ積テ大樹ヲ生育スルニ在リ凡テ森林ノ樹木尽ク一種類ナルモノハ甚々稀ニシテ諸種ノ樹木混交スルモノヲ常トス而シテ其樹木年ヲ經テ成長スルニ從ヒ先ツ白肌木ヨリ次第ニ之ヲ伐採スルトハ終ニ殘ル所ノ大樹ハ悉ク皆ナ檜樹、栗樹等ノ如キ堅木トナルニ至ルヘシ今斯ニ例ヲ舉テ大樹ヲ生育スルノ利益最多ナルヲ示スヘシ

森林内最モ豊饒ナル部分ニ「エシタル」ヲ撰ミ其地ニ大樹四百本乃至五百本ヲ有スト見做シ今茲ニ之ヲ四百本ト定メ

其収獲ノ計算ヲ示スヘシ左ノ如シ

(甲)大樹ヲ生育スルニ其成長ニ至ルマテ百年間ヲ要スルト見做シ「エシタル」ニ付平均一ケ年ノ収獲

代價計算

一金八千七百七十二法

「エシタル」ニ付百年間ニ収獲スヘキ金高合計

内譯

金八千法

百ケ年ノ末ニ収獲スヘキ大樹四百本ノ代價但シ一本ニ付金二十法

金五百法

初年ヨリ二十五年目ニ伐採セシ白肌木ノ収獲代價

金六十法

生木ノ第一回間引ヲ爲セシト得ヘキ間引木代金但



金百十二法

金百法

通計八千七百七十二法

右ニ掲タル所ハ百年間ノ収獲タルヲ以テ平均一ケ年ノ収獲ハ其百分ノ一即チ金八千七法七十二仙ナリ  
今又森林ニ「エクスター」ノ地ニ大樹五百本ヲ有スト定メ其収獲ノ計算ヲ示スヲ左ノ如シ

(乙)大樹ヲ生育スルニ其成長ニ至ルマテ百年間ヲ要スルト

シ薪六百把分百把ニ付金  
十法ノ第二回引チ爲セ  
堅木ノ第一回引チ爲セ  
シ薪ノ代價但シ  
木炭ニ用ユヘキ品ニメ  
ト炭立方坪二十八個一個  
ニ付金四法坪二十八個一個  
堅木ノ第四回引チ爲セ  
堅木ノ第二回引チ爲セ  
但シ薪ノ代價但シ

見做シ「エクスター」ニ付平均一ケ年ノ収獲

代價計算

一金一万〇六百七十二法

「エクスター」ニ付百年間  
ニ収獲スヘキ金高合計

内譯

金九千法

百ケ年ノ末ニ収獲スヘキ  
大樹ニ付金十法但シ一

金九百法

右樹ノ代人ノ利益ノ割即其樹  
木買受ノ第一回引チ爲セ

金六十法

堅木ノ薪得六把其間引チ爲セ  
但シ薪得六把其間引チ爲セ

金百十二法

堅木ノ薪得六把其間引チ爲セ  
木炭立方坪二十八個一個  
ト炭立方坪二十八個一個



金五百法

= 付金四法

二十五年白肌木ノ収獲高

金百法

堅木ノ第二回間引ヲ爲セ  
シキ得ヘキ小枝千把ノ代  
價但シ百把ニ付金十法

通計金一万〇六百七十二法

右ニ掲クル所ハ百年間ノ収獲タルヲ以テ平均一ケ年ノ収  
獲ハ其百分ノ一即チ金百〇 法七十二仙ニ當ルナリ  
今又右同様ノ樹木ノ森林ヲ二十年毎ニ伐採シ百年間ニ五  
度収獲ヲ得ルモノトシテ其収獲ノ計算ヲ示ス左ノ如シ  
(丙)「エシタル」ノ樹林ヲ二十年毎ニ伐採スルモノト見做  
シ平均一ケ年ノ収獲

代價計算

一金千〇八十法

第一回ノ二十年目ニ伐採  
シタル収入高

内譯

金九百法

森林ニ「エシタル」ハ其二十  
年目ニ伐木スルキハ其十  
年ノ収入高ニ「メ」トシ立  
坪ノ百八十五個トス但シ一  
ニ付金五法

金百八十法

森林ニ「エシタル」ハ其二十  
年目ニ伐木スルキハ其十  
年ノ小枝千把トス但シ  
百把ニ付金十法

通計金千〇八十法

右ニ掲クル所ハ初度二十年間ノ収獲タルヲ以テ平均一ケ  
年ノ収獲ハ其十分ノ一即チ金五十四法ナリ  
前例甲乙丙三款ノ結果ヲ比較スレハ即チ甲号一ケ年平均



ノ収獲ハ金八十七法七十二仙ニシテ乙号ハ百〇六法七十  
 二仙ナリ甲乙ヲ平均スレハ九十七法一十二仙ナリトス而  
 シテ同森林ニシテ之ヲ二十年毎ニ伐採スルキハ一ヶ年平  
 均ノ収獲ハ金五十四法ナル而已又同森林ニシテ毎年現品  
 ノ増加セル高ハ大概小樹共ニ「メートル」立方十個ナリト  
 ス然リ而シテ大樹ハ増加高ノ分ハ一個ニ付其代價金十法  
 ニ當レモ小樹ノ分ハ此代價一法乃至五法ニ當ル而已ナリ  
 トス  
 「ノアロー」氏云ヘル「アロ」曰ク「ウオー」州ノ近傍ニ於テハ  
 大樹ノ森林ニ「エクタール」ノ伐木代金一万乃至一万二千法  
 ニ至ルモノ少カラス又「オー」州「リケル」州ノ森林ニ  
 於テハ「エクタール」ノ地ニ松樹ノ大木ノ四千本餘ヲ有シ

而シテ此代金合計二万千法ニ當ルヘント余モ亦「アール」  
 「メートル」百分ノ一「エクタール」中ニ「蘇格蘭」松ノ四十五年ヲ經ルモノ  
 十二本アルヲ目撃セリ而シテ其十二本ノ材木ノ合計ハ一  
 「メートル」立方坪二個四分ニ當レリ若シ此樹木八十年ヲ經  
 ルキハ必ス其材木ノ合計「メートル」立方坪四個八分ニ到  
 ルヘシ此割合ヲ以テスレハ「エクタール」ノ地ニハ「メートル」  
 トル「立方坪」四百八十個アリトス今其一個ノ代金三法トス  
 ルキハ合計金千四百四十法トナルヘキナリ  
 前ニ陳述スル所ヲ推テ考フルニ佛蘭西全國ノ森林ヲ二十  
 年乃至二十五年毎ニ伐採スルキハ其現品ノ損失大凡五割  
 ノ多キニ至ルヘシ然レモ單ニ森林所有者而已ニ關スル利  
 害ヲ論スル時ハ則チ利息ニ利息ヲ附スルノ計算モ亦見ル



ヘキ所アリ例ヘハ森林ヲ二十年目ニ伐採スルキハ其収獲  
 金若干ヲ貸附スルモノト見做スヲ得ヘキナリ然ラハ則チ  
 森林ヲ二十年若クハ二十五年毎ニ伐採スル所以ハ眞ニ其  
 収獲ノ利息ヲ計算スルニ依ルモノト謂ハシ歟余ハ決シテ  
 然ルモノニ非スト云ハシ右僅少ノ利息ノ如キハ一般社會  
 ハ勿論森林所有者ニモ益スル所少キハ知ルヘキナリ凡ソ  
 數々森林ヲ伐採スル所以ノモノハ卓識ナル森林家ノ其方  
 法ヲ知リテ之ヲ無知ノ森林所有者ニ示ス者ナキニ由ルモ  
 ノナリ茲ニ人アリ森林所有者ニ告ケテ云ハシ曰ク今君ノ  
 所有セル森林百「エクダール」ヲ十年毎ニ伐木スルキハ毎年  
 十「エクダール」ヲ伐採スヘク而シテ其一「エクダール」ノ収獲ハ  
 金四百法ニシテ即チ毎年ノ収獲ハ金四千法ナルヘシ然レ

用若シ又同森林ヲ二十年毎ニ伐木スルモノト爲セハ其一  
 「エクダール」ノ収獲ハ増加シテ金千二百法ニ騰ルヘク加之  
 毎年伐採スヘキ所ノ森林十「エクダール」ノ多キニ至ラスシ  
 テ僅ニ五「エクダール」ニ止リ而シテ其毎年ノ収獲ハ四千法ニ  
 非ラスシテ金六千法ヲ得ヘキナリ是故ニ百「エクダール」ノ  
 森林ヲ十年毎ニ伐採スルキハ則チ毎年ノ収獲僅ニ金四千  
 法ナレ用若シ之ヲ二十年毎ニ伐採スルキハ則チ毎年ノ収  
 獲ハ金六千法トナルヘク若シ又之ヲ百年毎ニ伐採スルキハ  
 則チ毎年ノ収獲ハ金一万〇六百七十二法ニ到ルヘシ  
 前ニ  
 掲ク  
 ル所ノ計算表是ヲ以テ之ヲ見レハ十年目ニ伐採スル収獲  
 チ參觀スヘシ  
 ハ百年目ニ伐採スル収獲ニ比較スレハ其収獲五分ノ三ヲ  
 減シ二十年目ニ伐採スル収獲ハ其収獲五分ノ二ヲ減スヘ



シ且ツ森林伐木ヲ數々スルキハ(第一)其収獲ヲ減少シテ(第  
 二)天然ノ播種ヲ得難ク(第三)土地ノ水氣ヲ減少シテ乾燥ノ  
 土地トナリ諸種ノ雜草ヲ生シ母樹ノ良キモノヲ撰ヒ難ク  
 (第四)母樹ニ撰ミタルモノニ多ク枝ヲ生シ高ク成長セス且  
 ツ近隣ノ樹木ニ障害ヲ與フルアリ若シ多年ヲ經テ之ヲ伐  
 採スルキハ如此ノ憂ナキモノナリト尙モ森林所有者ニシ  
 テ如此キ説明ヲ聞クハ必ス其利益ノ少キモノヲ捨テ利  
 益ノ多キモノヲ採用スルヤ疑フヘキ所ニ非ス  
 歐洲大陸中ニ於テ日耳曼國ハ森林支配ノ模範トナルヘキ  
 國ニシテ現存樹木ノ維持ニ注意スルヲ勉メ之レニ反  
 シテ英國佛國ノ如キハ利息計算ヲ勉メ森林ヲ他ノ利息ニ  
 ニ比較シテ現金ヲ收入スルヲ專ラト爲セリ且ツ日耳曼

ニ在テハ金利ハ度外ニ置キテ論セス唯能ク森林ヲ維持ス  
 ルカ故ニ幾年ヲ經ルト雖モ樹木ノ減少ヲ來スナシ英國  
 ニ在テハ森林ノ買入代價及ヒ手入雜費等ヲ計算シ之レニ  
 他ノ貸附利息ノ相場ヲ比較シテ其利益ノ劣レルキハ忽チ  
 伐木スルヲ常トス之ヲ要スルニ英人ハ俗ニ所謂ル商賈人  
 ニシテ貪欲深ク日耳曼人ハ後生ヲ考ルノ遠慮アルニ由ル  
 日耳曼國ニハ森林地ノ坪數五十万「エクタール」ニ過キスト  
 雖モ其樹木ノ高ハ英佛兩國ヲ合シテ二百万「エクタール」ノ  
 森林地ニ在ル樹木ヨリモ多シトナス是レ全ク其森林方法  
 ノ良善ナルニ由ルモノナリ  
 統計表ニ掲載スル所ヲ見ルニ百年毎ニ伐木スルモノハ余  
 カ前ニ陳述シタルモノト全ク符合セリ即チ平均一ケ年ノ



収獲ハ「エクタール」ニ付九十法乃至百〇五法ナリ然レモ  
二十年乃至三十年毎ニ伐木スルモノハ其平均一ケ年ノ収  
獲ハ「エクタール」ニ付金四十五法乃至五十法ナリ

一 將來豫慮

予カ前ニ辨論シ來ル如ク我國ニ在リテハ大樹ヲ養育セン  
ト欲スル者少キ而已ナラス二十年若クハ三十年毎ニ森樹  
ヲ伐採スル者ト雖モ亦其時ヲ撰ムトチ知ラス是レ全ク森  
林所有者カ眼前ノ利ニ迷フト森林家カ其利害得失ヲ辨明  
スル「ナキト」ニ由ルモノト謂ハサルヲ得ス今日森林ノ景  
況ハ如此而シテ租々ノ建築ニ大材ヲ要スル事業ハ日一日  
ヨリモ多シ安ソ知ラソ他日石炭ノ欠乏ヲ告ケ薪材ノ需用  
モ亦増殖スルヲ森林ノ支配ハ元ヨリ其所有者ノ全權ニ任

スルモノナレハ他ヨリ之ヲ牽制スル「能ハサル」ヘシト雖  
モ吾人社會ニ於テ森林ノ景況ヲ患ルヲ尤ムル「能ハサル」  
ヘシ予輩ハ之ヲ患ヘ公有地ニ屬スル森林而已ナリモ二十  
年若クハ二十五年毎ニ伐木スル始息ノ方法ヲ捨テ、大樹  
ヲ養育スル「能ハサル」ニ注意アラソ「能ハサル」政府ニ望ムモノナリ予輩  
如此ク政府ニ望ムト雖モ政府ハ唯現在公有ニ屬スル森林  
ニ大樹ヲ養育スル而已ニシテ他ニ大樹ヲ生育スヘキ森林ヲ  
新説セズンハ數百年ノ後必ス其欠乏ヲ來スノ患ヲ免レサ  
ルヘシ礦山家ノ説ニ因レハ自今三百年ニシテ現在ノ石炭  
礦ハ盡ク欠乏スルニ至ルヘシト此言少シク臆説ナルカ如  
シト雖モ地中石炭ノ増殖高其需用高ニ及ハサル時ハ何レ  
ノ日乎欠乏スルニ至ルヘシ而シテ其需用ハ諸製造ニ航海



ニ鐵道ニ替以テ日々増殖ヲ來スカ故ニ今日其需用ノ増殖  
 ナ推テ計測スルキハ礦山家ノ説ノ如クナルモ亦未ク圖ル  
 ヘカラサルナリ若シ如此キハ則チ薪材ノ需用高ハ年ヲ追  
 テ増殖スルニ至ルヘシ開化人民ノ主宰タル者宜ク今ヨリ  
 禍患ヲ未發ニ豫防スルノ遠慮ナクシテ可ナルヘクンヤ  
 我佛國全部中ノ未ク開墾セサル地ハ大凡七百五十万、エ  
 クタールニシテ其内四百万、エクタール乃至五百万、エ  
 クタールハカヲ用ルキ猶ホ開墾スルヲ得ヘシ若シ四百万、エ  
 クタールノ土地ハ盡ク開墾シ難シトスルモ二百万、エク  
 ターノ土地ハ必ス開墾スルヲ得ヘキナリ且ツ是等ハ多ク山  
 地、砂地等ニシテ其地質耕作ニ適セサルヘシト雖厄若シ之  
 ナ森林トナスニ於テハ何ノ難キヤアラソヤ而シテ其開墾

入費及ヒ播種、手入費用ヲ合セテ一「エクタール」ニ付金三百  
 法ト見做スルハ二百万、エクタールノ地ヲ森林トナスノ費  
 用ハ六億万法ニ過キサルヘシ而シテ其森地ノ樹木ヲ百二  
 十五年乃至百五十年ヲ經テ伐木スルトキハ一「エクタール」  
 ニ付平均木材一「メートル」立方坪八百個ヲ得ルハ容易ナル  
 ヘキナリ然ルキハ二百万、エクタールノ樹木ハ一「メートル」  
 立方坪十六億万個ニシテ一「メートル」立方坪ノ代價金八法  
 トスレハ其代金百二十八億万法ニ至ルヘシ此金額ハ歐洲  
 諸政府ノ國債ノ過半ヲ消却シ得ヘキ程ノ員數ナリ現今人  
 民食料及ヒ原品ノ欠乏ヲ患フト雖モ未開墾地七百五十万  
 「エクタール」ノ内牧場トナシ得ヘキ土地モ亦ナキニ非サル  
 ヘキナリ予カ斯ク論スル所ハ或ハ想像ノ空論ナリト認ム



ル者アルヘシト雖現ニ最モ下等ナル土地ニ樹木ヲ播種シテ一「エクタール」ノ地ヨリ一方法以上ノ収獲ヲ得ル者アリ是レ空論ニ非ルノ實證ナリ二百萬「エクタール」ノ地ヲ森林トナシテハ其費用ヲ一時ニ課出セシテ例ヘハ二十五年ニ分チ一ケ年ニ金二千五百万法ヲ出シテ其最モ開墾シ易キ所ヨリ着手セハ二十五年ノ後ハ二百萬「エクタール」ノ森林ヲ得ルヤ必セリ今若シ三百萬乃至四百萬「エクタール」ノ森林ヲ新設セハ從來ノ森林ヲ合セテ自今以後百五十年若クハ二百年ヲ經ルノ後ニ至テハ材木高「メートル」立方坪四千乃至五千萬個ヲ得ルヲ容易ナルヘク之ヲ以テ石炭ノ欠乏ヲ補フニ足ルヘキナリ右森林ヲ新設スルニ當リテハ政府毎年ノ定額金ヲ増加セサルヘカラスト雖モ若シ

其増加ヲ厭ハ、全國ノ兵士三十五萬人ヲ率ヒテ其業ニ從事セシメ以テ富強ノ策ヲナシテ可ナリ

一小樹森林ノ伐採區別

我佛國ノ森林ハ七年乃至十二年ニシテ伐採スルモノ最モ多ク其材木ハ桶材、薪材及ヒ木炭ニナルヘキモノアリ如此キ森林ハ伐採後其幹株ヨリ芽ノ發生スルニ由テ繼續スル者ナルカ故ニ數年ノ後ハ必ス欠乏スルニ至ルヘシ是故ニ時々播種又ハ補植又ハ壓條法ヲ施行シテ其欠乏ヲ防カサルヘカラスト而シテ播種ヲナスニハ母樹ヲ殘置セサルヘカテサルナリ通常ノ樹木ハ母樹ヲ殘置スト雖モ森林内ノ雜草ニ障害セラレ自落シタル所ノ種子ノ發生スルヲ難カルヘシ故ニ七年乃至十二年ニシテ伐採シ得ヘキ樹木ハ甚タ



稀ナリ唯其土地乾燥シ砂石多シ地底淺キ處ニ栗樹、柳樹、榛樹等ヲ植ルキ是等ノ樹木ハ多ク年ヲ費サスシテ速ニ能ク成長スルモノニシテ且ツ桶材等ニ適用スルモノナレハ七年乃至十二年ニシテ伐採スルヲ善良トナスヘシ今先ツ伐木年限ニ因リテ森林ノ區別ヲ立テ而後各種ノ維持法ニ論及スヘシ其森林ノ區別ハ即チ左ノ如シ

(第一)十五年乃至二十五年目ニシテ伐採スヘキ森林(其収獲物ハ薪炭ニ供用ス)

(第二)二十五年乃至四十年目ニシテ伐採スヘキ森林(其収獲物ハ上等ノ薪及ヒ小材木ニ適用ス)

(第三)四十年以上ニシテ伐採スヘキ森林(其収獲物ハ多ク材木ニ適用ス)

一 芽立木森林伐採年限

各種樹木ノ伐採年限ヲ定ムルニハ先ツ各種ノ樹木一ケ年ノ成長若干ナルヤヲ計算セサルヘカラス舊森林學校ニ於テハ樹木ノ成長活潑ヤラスシテ枯木トナラントスルノ徵アルモノハ直チニ伐採スヘシト云ヘリ然レモ此言タルヤ甚ク確定ナラス且ツ詳細ナラサルナリ何トナレハ則チ強壯ニシス能ク成長スヘキ樹木ト雖モ時トシテ或ハ其枝葉ニ枯死ノ徵ヲ現スフアリ然レモ是レ決シテ伐採スヘキモノニ非ルナリ又空氣ノ流通充分ナラサル等ノ爲メニ枯稿ノ徵ヲ見シ其成長宜シガラサルモノアリ又數十年ヲ經タル大水ト雖モ敢テ枯稿ノ徵ヲ見サスシテ幾多ノ星霜ヲ經ルモノアリ故ニ舊森林學校ニ云ヘル所ハ甚ク盡サ、ル所



アリトナス是以テ森林伐採ノ年限ヲ定ムルニハ各種樹木ノ成長一ケ年間ニ若干ナルヤヲ知り之レニ因テ其年限ヲ算定スルヲ適當ノ方法ト謂フヘキナリ

凡テ堅木ヲ上等ノ土地ニ植ユルキハ故ラニ手入ヲナサハルモ其成長スル度量ハ數學上ノ平方自乗ノ數ノ如シ即チ最初一ケ年ニ成長スヘキ量ヲ一ト定ルキハ二年目ノ末ニハ成長シテ其四倍トナリ三年目ノ末ニハ其九倍トナリ四年目ノ末ニハ其十六倍トナルヘシ此事ハ森林ニ注意スル者ノ皆能ク知ル所ナリ又収獲ノ金高モ殆ント之レト同様ノ割合ニシテ一個ノ樹木ノ代價ハ其體積ノ大小ニ從ヒ其體積ノ大小ハ其年限ノ長短ニ關スルモノナリ即チ初年ヨリ三四年ヲ經タル樹木ハ唯麤朶トナル而已ニ十年乃至

二十年ヲ經タルモノハ木炭トナルヘキ而已又凡ソ二十五  
 年乃至三十年ヲ經タルモノハ薪材トナルヘキ而已其餘ノ  
 年數ヲ經タルモノハ材木トナルヘシ然リ而シテ麤朶ノ價格  
 ハ木炭ノ價格ニ及フヘカラス木炭ノ價格ハ薪材ノ價格ニ  
 及フ可ラス薪材ノ價格ハ材木ノ價格ニ及フヘカラスナ  
 リ然レモ右ノ割合ハ土地上等ニシテ手入ヲ爲サハルモノ  
 ト見做シタルナリ若シ下草ヲ刈リ種々ノ手入ヲ爲スルハ  
 右ノ割合ヨリモ尙ホ成長ノ度大ヒニ増加スヘク若シ又下  
 等ノ土地ニ在リテハ其割合減少スヘキナリ

以上論述セル所ハ森林ニ注意スル者ノ能ク知ル所ニシテ  
 其理當ニ然ルヘキヲ論シタル而已今實際右ノ割合ニ因リ  
 テ伐木年限ヲ定ムルトテ得ヘシ前條ノ如ク一年ノ樹木ノ



成長スル量ヲ一ト定ルルハ二年ニハ之カ四倍トナリ三年ニハ之カ九倍トナリ四年ニハ之カ十六倍トナリ五年ニハ之カ二十五倍六年ニハ之カ三十六倍七年ニハ之カ四十九倍八年ニハ之カ六十四倍九年ニハ之カ八十一倍十年ニハ之カ百倍十二年ニハ之カ百四十四倍十六年ニハ之カ二百五十六倍二十年ニハ之カ四百倍二十五年ニハ之カ六百二十五倍三十年ニハ之カ九百倍トナル等ナリ是ニ由テ之ヲ見レハ二十年ニシテ森林ヲ伐採センヨリモ寧ロ三十年ヲ待ツニ如カス何トナレハ二十年ノ時ニ樹木ノ成長初年ニ比スレハ四百倍ナルモ尙ホ十年ヲ經ルルハ忽チ九百倍トナレハナリ而シテ二十年ノ時ニ伐採スレハ其損失九分ノ五ニ當ル可シ伐木ニ最モ適當ナル期限ハ其樹木ノ成長右

ノ割合ヨリモ減少シタル時ナリトス例ヘハ二十五年目ニ樹木ノ成長初年ノ六百二十五倍ニ達シ其翌年二十六年ノ末ニ至ルルハ六百七十六倍ニ達スヘキ道理ナレモ實際ニ附テ之ヲ見ルニ或ハ六百四十倍若クハ六百五十倍ヨリ以上ニ達セサルモノアリ故ニ二十六年ニ至ルヲ待ト雖モ其成長ハ年數ヲ費シタル割合ニ及ハサルカ故ニ二十五年目ニ之ヲ伐採スルハ即チ最多ノ利益アルモノトス樹木ノ種類ニ因リテハ數十年ヲ經ルト雖モ更ニ右ノ割合ヲ減少セサルモノアリ然レモ森林地買入代金及ヒ初年ノ手入費用等ノ利息ハ毎年利ニ利ヲ附シテ増加シ多年ヲ經ルニ至リテハ毎年ノ増殖高愈ヨ巨額ニ上ルヘキナリ此利息ノ増殖ヲ計算外ニ置クヲ得ヘキ森林所有者ハ假令ヒ幾十年ナ



其樹木ノ長大ナルマテ伐採セシテ生長度量ノ割合  
 減少スルコト至リテ之ヲ伐採ス可シ然レモ右利息ノ増加ヲ  
 計算スルキハ三十五年以上ニ至レハ利息ノ増加高ハ樹木  
 成長ノ増殖高ヨリモ大ナルニ至ルモノトス  
 樹木ノ代價モ亦前上ノ割合ト同一ヨシテ初年一ケ年ニ成  
 長増殖スル材積ヲ「エシタール」ニ付金二法ノ價格アリト  
 見做スルハ十ケ年ノ成長高ハ初年ノ百倍トナリテ「エシ  
 タール」ニ付金二百法ノ収獲ヲ得ヘシ二十年ヲ經テ伐採ス  
 ルキハ樹木ノ収獲品ハ初年ノ四百倍ニシテ其金額ハ八百  
 法トナルヘシ此割合ハ能ク實際ト符合スルモノナリ且ツ  
 能ク下枝雜草ヲ刈リテ手入ヲ行フキハ二十年ノ樹木伐採  
 ノ収獲ハ八百法ニアラスシテ千法乃至千百法ニ達スヘシ

トナス

實地森林ノ事ニ熟達セル者ハ毎年樹木ノ成長積ヲ算ラヌ  
 ト雖モ地質樹色枝形葉芽ノ成長等ヲ見テ毎年成長増殖ノ  
 割合ヲ監定スルモノナリ然レモ實地不熟練ノ者ハ森林中  
 處々ニ一本ツ、樹木ヲ撰ンテ其材積ヲ算リ而シテ又其翌  
 年モ再ヒ同樹木ノ体積ヲ算リ如此シテ毎年森林ノ樹木成  
 長定規割合ニ符合スルヤ否ヲ驗スヘシ  
 収獲ノ増加ハ大概樹木成長増殖ノ割合ト同一ナルコトハ前  
 ニ解陳シタリ今實際ニ就テ之ヲ鑑ルニ五年目ニシテ伐採  
 スルキハ「エシタール」ニ付金大凡六百乃至七百把ヲ獲  
 ヘク而シ百把ノ代價ハ金六法ツ、ナリトスルキハ「エシ  
 タール」ノ収獲金ハ即チ四十二法ナリ又十年ノ末ニ伐木ス



ルキハ其収獲ハ小薪千八百把ニシテ百把ノ代價金十六法  
 ツ、トスルハ「エクタル」ノ収獲ハ金二百八十八法ナ  
 リ然リ而シテ其他木炭トナルヘキ木材「メートル」立方坪  
 十六箇ヲ得ヘシ此代金ハ凡ソ六十四法ナリ之ヲ合算スレ  
 ハ即チ金三百五十二法トナルヘシ十年目ニシテ伐採スル  
 キハ其樹木未ダ薪材トナラサルカ故ニ其収獲ノ割合少ク  
 減小スル所アリト雖モ若シ之ヲ二十年目ニ伐採セハ左ノ  
 割合タルヘシ

森林ノ手入ヲ施サ、ルモノヲ二十年目ニ伐木シタ  
 ル「エクタル」ノ収入

一金八百八十法

内譯

金三百六十法

金二百五十法

金二百七十法

通計金八百八十法

右ノ割合ヲ以テ見ルキハ「エクタル」ノ収獲金精算左ノ  
 如シ

伐木期限ノ長短ニヨリ収獲金ノ多少

一金四十二法

一金三百五十法

一金八百八十法

五年目ニ伐木シタル「エクタル」  
 十年目ニ伐木シタル「エクタル」  
 二十年目ニ伐木シタル「エクタル」  
 二十年目ニ伐木シタル「エクタル」  
 二十年目ニ伐木シタル「エクタル」  
 二十年目ニ伐木シタル「エクタル」

木炭トナスヘキ樹木「メートル」立方坪  
 九箇ノ薪材「メートル」立方坪  
 二、五箇但シ一箇ノ代金十法  
 小薪千八百把但シ百把ノ代金  
 十法



一金千百法

樹林ノ最初ヨ手入ヲ施シタル者ヲ二十年目ノ収入金

一金千八百法

三十年目ノ伐木シタル一「エ」

十二年目ニ伐木スルニ當リ假令ヒ二十年目ニ伐木シタルモノト殆ソト同一ノ材積ヲ得ルヲアリト雖モ十二年目ニ伐採シタルモノハ其収獲品小薪等ノミヨ其代價ハ二十年目ニ伐採シタルモノヨリモ低シ且ツ二十年目ニ伐採シタルモノハ樹木稍々大ナルカ故ニ其價格モ亦從テ高シ又二十年目ニ伐木スルニ當リ假令ヒ其樹木ノ材積三十年目ニ伐木シタルモノト同一ナルヲアリト雖モ二十年ノモノハ其収獲品唯木炭ニ供用スヘキモノニシテ一「メ」ト立方坪ノ代價四法ニ過キス若夫レ三十年ノモノハ薪材トナ

ルヘキモノニシテ一「メ」ト立方坪ノ代價ハ十二法ニ騰ルヘシ然リ而シテ樹木ノ伐採ニ最モ不利益ナル年限ハ三十五年ヨリ七十年ノ間ナリトス奈ソトナレハ則チ三十五年ヨリ七十年ニ至ルノ間ハ常ニ薪材トナスヘキモノヲ獲ル而已ニシテ未タ材木トナルヘキモノヲ得ヘカラス故ニ一「メ」ト立方坪ノ代價ハ此年間ニ増加スルヲナク徒ニ年ヲ費ス耳ニシテ常ニ十二法ニ過キス是故ニ己ニ三十五年ヲ經テ伐木セサルモノハ寧ロ九十年若クハ百年ニ至ルマテ伐採セサルニ如カサルナリ九十年ヲ經ル時ハ大材トナリ一「メ」ト立方坪ノ代價ハ四十法乃至五十法ニ達スヘシ

前條樹木成長増殖ノ割合ハ殊ニ檜樹ニ能ク適當セルモノ



ナリトス然レモ山毛櫟、秦皮樹等ノ如キ樹木モ此割合ニ從  
 ハサルニ非ラズ其木材ノ積ニ從テ収獲モ亦多キモノナリ  
 前ニ述ルカ如ク森林ノ樹木定規ノ割合ニテ成長スルキハ  
 金利ノ割合四歩乃至五歩ト見做シテ二十八年若クハ三十  
 五年目ニ伐採スルヲ以テ最多ノ利益アリトナス若シ上等  
 ノ土地ニシテ下枝雜草等ヲ刈リテ手入ヲナスモノハ三十  
 五年乃至四十年目ニ伐採スルヲ以テ最多ノ利益アリトナ  
 ス獨リ最多ノ収獲アル而已ナラズ天然播種ニモ亦適當ナ  
 リトス其然ル所以ハ此年間伐採セサルキハ樹木ノ菓實地  
 上ニ落テ發芽シタルモノ已ニ充分ニ成長シテ近隣ノ木葉  
 ノ蔭翳ヲ蒙ラサルモ獨立シテ克ク風雨霜雪ニ堪ラルヲ得  
 へキナリ

一芽立木森林伐木法

山岳若クハ丘陵等ニアル森林ハ其樹木ヲ盡ク伐採スルト  
 ハ或ハ危險ナルコトナキニ非ス又損害ヲ生スルコトアリ是故  
 ニ大凡十ヶ年毎ニ芽立木ノ最も強壯ナル者ヲ撰シテ斬伐  
 シ其怯弱ナル者ハ之ヲ殘存シ尙ホ十ヶ年ヲ經ルノ後伐採  
 スヘキナリ其伐採スルニ當テハ可及的根本ノ地面ニ接ス  
 ル處ヨリ斬伐シ幹株ヨリ發生スル芽立木ヲシテ根ヲ地中  
 ニ生セシムヘシ如此數々伐採スルキハ斧斤ノ森林ニ入ル  
 毎ニ殘存スル所ノ他ノ芽立木ニ大ニ障害ヲ與フ可シト思  
 慮ス可シ然レモ實際ル然ラス伐木毎ニ多少折損スル者ナ  
 キニ非ラズト雖モ株根ヨリ發芽スル員數ハ常ニ過多ナル  
 モノニシテ到底一株根ノ能ク生育シ能ハサル所ナリ故ニ



伐木ノ翌年ハ敢テ斧斤ノ跡ヲ見サルカ如シ若シ如此ナル山林ヲ悉皆伐木スルキハ其土地乾燥疲瘠シテ再ヒ樹木ヲ播種スル能ハサルニ至ル可シ已ニ其例少ナカラス實ニ戒慎セサルヘカヲサルナリ

如此キ森林ノ伐採シタル樹木ハ直チニ之ヲ路傍ニ出スヘシ又山林ノ地質能ク乾燥セサル處ト雖モ伐木毎ニ必ラス處々ニ數本ノ樹木ヲ殘存スルヲ肝要ナリトス其殘存シタル樹木ハ近隣ノ土地ニ水氣ヲ與ヘ其地ヲシテ播種ニ適當ナラシムルノ功能アルナリ

一芽五木森林内ノ大樹

大抵佛國ノ芽立木森林ハ其伐木スルニ際シ處々ニ樹木ヲ殘存シテ之ヲ長大ニ生育スルモノナリ然レモ森林所有者

ニシテ最多ノ利益ヲ得ント欲スル者ハ其土地ノ能ク大樹ヲ生育スルニ適スルヤ又其樹木ノ種類能ク大樹ニ生育シテ利益アルヤ否ヲ思考セサル可カラズ大樹ノ能ク生育スヘキ土地ハ上等ノ土地ニシテ地底深ク常ニ濕氣ヲ含ミ西北ニ面シタル處ヲ最良トナス如此キ土地ヲ撰ミテ高價ナル樹木ヲ長大ニ生育スルハ利益アルモノナリ

又其土地乾燥シ易ク地底淺キ處ニハ必ラス大樹ヲ生育スヘカラス若シ之ヲ生育スルモ必ラス母樹ニ限ルヘシ母樹トナスヘキ者ハ能ク注意シテ樹木ノ種類ヲ撰ミ之ヲ處々ニ分栽シテ後來其菓實四方ニ散落シテ繁殖スルニ至ラシムルヲ肝要ナリ

伐木期限ニ就キ前上陳述スル所ニヨレハ其手續ハ之ヲ要



スルニ先ヅ森林各部ノ樹木毎年成長増殖高キ知リテ而后  
其各部ノ伐木年限ヲ定メ以テ最多ノ利益ヲ占ムヘキモノ  
トス然ルニ大抵如此注意シテ森林ノ伐木ヲナス者ナシ唯  
豫メ幾年毎ニ伐木スヘシト定ムルモノ多キハ利益ヲ収ル  
ヲ知ラサル者ノ所爲ト云フヘシ

一 芽立木伐採年限ノ變換

森林所有者ニシテ其現ニ行フ所ノ伐木年限方法ハ以テ最  
多ノ利益ヲ獲ルヲ能ハサルヲ知リテ其年限ヲ變換セシト  
欲スト雖モ年限ヲ變換スルキハ從來ノ伐木順序ノ亂ルハ  
テ以テ伐木ノ利益ヲ得ルヲ能ハスト想像スルモノナキニ  
非ラス然レモ假令ヒ伐木年限ノ順序ヲ變換スルモ等シク  
毎年伐木ノ利益ヲ収ルヲ得ヘキナリ例ヘハ三十ニシテ

「ル」ノ森林ヲ從來十五部ニ區分シ十五年毎ニ伐木順序ヲ  
立テ而シテ其二ニエシタルツ、テ毎年伐木シタルモノア  
リ今之ヲ毎年「エ」シタルツ、伐木セシニ三十年ノ後ニ  
ハ悉皆伐木スルノ割合トナリテ三十年ノ後ニハ新ニ再ヒ  
年限ヲ立ルヲ得ヘシ而シテ其得ル所ノ利益ハ更ニ從來ノ  
年限ニ因ルト異ナラス

一 大樹林木伐採法

合脂樹木ニ非ラサル大木ヲ伐採スルノ方法ハ其樹木ノ種  
類ト其土地ノ質トニヨリテ異同ナリ或ハ唯母樹ニミテ存  
シテ其他ハ大小トナシ盡ク地平ニ根本ヨリ伐木スルノ方  
法ヲ用ユルアリ「ウ」レ「ゴ」ツ「レ」ノ森林ノ如キハ千八百三  
十四年ニ至ル迄ハ此方法ニヨリテ常ニ長結果ヲ得タリ此



方法ヲ用ユルハ伐木後ノ初年ヨリ絶テ樹木ヲ見ス三年  
 目ニ至リテ漸ク白肌樹木ノ發生スルモノアリ而シテ堅木  
 ハ八ヶ年ヲ經カレハ發生セサルモノナリ二十五年乃至三  
 十年目ニ至レハ白肌樹ハ伐採スルヲ得可シ而シテ此時堅  
 木ノ種既ニ發生シテ地上ヲ覆フカ如キニ至ルト雖モ其數  
 過多ナルカ故ニ伐木ノ期ニ至ル迄ニハ其枯死スルモノ少  
 カラストス「ウイレ」コツレ」ノ森林ハ其土地上等ナルカ故  
 ニ能ク此伐木法ニ適シタルナリ然ルニ其後此方法ヲ改革  
 シテ森林ノ樹木ヲ撰ンテ少々ツ、數回ニ伐木スルノ法ヲ  
 用キ又其後之ヲ改革シテ日耳曼ニ多ク行ハル、方法即チ  
 公園法ヲ用ヒタリ然レモ予ノ愚見ヲ以テスレハ此公園法  
 ハ當ニ入費ヲ増加スル而已ナラス其他種々ノ損害アルモ

ノナレハ如此上等ノ土地ニハ却テ不適當ナルヘシ且ツ如  
 此キ土地ニ在リテハ森林ノ樹木ヲ撰ンテ少々ツ、數回ニ  
 伐木スルノ方法ヲ以テ最良トナスナリ例ヘハ第一回伐木  
 ノ時ニハ十分ノ六乃至十分ノ七ヲ伐木シ其撰拔シテ殘存  
 スル所ノ樹木ハ第二回伐木ノ時ニ總テ一時ニ之ヲ伐採ス  
 可シ又「コンピエ」ニユ」ノ森林ノ如キハ其土地過半乾燥地  
 ナルカ故ニ一回ニ盡ク其樹木ヲ伐採スルハ甚ク惡シトナ  
 ス蓋シ此森林ニ此方法ヲ用ヒタル間ハ常ニ播種スルヲ  
 得ス故ニ伐木毎ニ森林地ヲ耕シテ之レニ苗木ヲ栽植スル  
 ノ外ナカリキ如此キ土地其他險崖ニ在リテ此方法ハ尤モ  
 適當セズ必ズ數回ニ伐木ヲ行フテ最良トナス殊ニ母樹ト  
 ナスヘキモノハ最後ノ伐木ノ時ニ於テモ尙ホ之ヲ殘存シ



テ十五年ヲ經テ後伐木スルヲ善良トナスナリ通常第一回  
 伐木ニハ森林ノ樹木五分ノ二乃至五分ノ三ヲ伐採シ其後  
 五六年ヲ經テ天然播種ノ樹木充分ニ成長シテ初度伐木シ  
 タル跡ノ空地ヲ覆フニ及テ其殘木ヲ悉ク伐採ス可シ然レ  
 トモ天然播種ノ樹木未タ充分ニ發生セサルト認ムルハ  
 殘木ノ内其五分ノ一ヲ伐採シ其後尙ホ數年ヲ經テ播種ノ  
 樹木充分ニ發生シテ空地ナキニ及ンテ悉ク之ヲ伐採ス可  
 シ若シ又處々ニ空地アルトハ其空地ノ近傍ニ二三ノ母樹  
 ヲ殘存シ以テ天然播種ヲ計ルヘシ乾燥地ニ在テ如此數回  
 ニ伐木ヲナスハ其土地ハ大樹ニ翳ハレ濕氣ヲ含ミテ播  
 種ヲ助ケ又發生シタル若木ノ生長ヲ助クルモノナリ是故  
 ニ之ヲ最良ノ方法ト謂フ

右ノ如ク數回ニ森林ノ伐木ヲナスニ當リ森林家ノ注意ス  
 ヘキモノ一アリ曰ク森林地ノ北方ニ面シ山岳等ノ障屏ナ  
 キ處ハ發生シタル若木大風ノ爲メニ倒ル、トアル是レナ  
 リ故ニ北方ニ面スル處ニハ大樹ヲ多ク殘シ置キテ宜ク若  
 木ノ防禦ニ備ヘサルヘカラサルナリ

一大樹森林伐採ニ關スル畫線區分法及公園法

森林ノ伐木畫線區分法トハ例ヘハ斯ニ二十「エ」ク「ル」ノ  
 森林アリ之ヲ縱線十乃至十五ニ區分シ毎年一線區ツ、ヲ  
 伐採スルヲ云フナリ一線區ツ、ヲ伐採スト謂フト雖也此  
 方法ハ大概森林ノ樹木ヲ一時ニ悉ク伐採スルノ方法ト同  
 一ナレモ唯長線ニ依リテ毎年伐採スルノ差異アリ且ツ如  
 此ニスルハ伐採シタル一線區ノ空地ニハ其左右兩線區



ノ樹木種子ヲ散落シテ苗木ノ發生速カナルノ益アリトス  
 此方法ヲ用ルルハ縦線ノ方向ハ可成丈東西ニ取リ土地ノ  
 日光ニ晒サレ乾燥セサルヲ注意ス可シ  
 公園法ナルモノハ舊來ノ方法ニシテ其障害アルト少カラ  
 スト雖也當今尙ホ之ヲ採用スル者多シ而シテ此方法ハ森林  
 ニ毎二三年ニ斧斤ヲ入レテ樹木ノ最モ老衰ノ徴アルモノ  
 ト其能ク成長ニ達シタルモノトヲ撰ミ少々ツ、伐採スル  
 モノナリ如此クシテ數々森林ニ斧斤ヲ入ル、ハ其苗木  
 ナ踏シテ折損スルモノ少カラス又其入費モ大ニ増加スル  
 モノナリ且ツ大樹ノ蔭翳ハ苗木ノ生育ニ要用ナリト雖也  
 其度ニ過キテ多キハ苗木却テ大樹ノ爲メニ壓倒サル、  
 一アリテ速ニ生長スルヲ得ス遂ニ倒レテ枯死スルモノモ

亦ナシトセズ

森林ノ樹木ヲ二回若クハ三回ニ伐採スル方法ハ如何ナル  
 場合ニ於テモ大抵適當スルモノナリ然レモ實地ニ之ヲ施  
 スニ臨ミテハ土地ノ肥瘠及ヒ其位置等ニ依リテ第一回伐  
 木ノ量度ヲ斟酌スヘキナリ即チ豊饒ナル土地ニ在リテハ  
 第一回伐木ノ時其六分ノ四ヲ伐採シ而シテ殘餘ノ樹木ハ  
 最初伐採シタル跡即チ空地ニ苗木繁茂スルニ迫ラテ之ヲ  
 伐木スヘシ若シ又乾燥ナル土地ニ在リテハ第一回伐木ノ  
 時其五分ノ二ヲ伐採シ第二回ニモ亦五分ノ二ヲ伐採シ而  
 シテ第三回ニハ前回伐採シタル空地ニ苗木繁茂スルニ迫  
 シテ殘存スル所ノ五分ノ一ヲ伐木スヘシ且ツ總テ諸樹木  
 ノ内最モ價格アル種類ヲ殘シ置キ最後ニ伐採スヘキナリ



一有脂木伐採法

有脂木ヲ伐採スルニ最モ適當ナル方法ハ亦前條ニ陳說シタル方法ナリトス畫線區分法及ヒ公園法モ適用セサルニ非スト雖モ是等ハ障害ナキニ非ス凡テ有脂木ハ皆常盤木ニシテ伐採後其殘根ヨリ發芽スルヲナシ故ニ或ハ之ヲ斬伐セスシテ其根ヨリ堀リ去ル者アリ如此スルハ其木材量積ヲ増加スヘシ畢竟常盤木ハ伐餘ノ根ヨリ發芽セサルカ故ニ必ス天然播種ニ依リテ森林ヲ繼續セサル可ラス巖山絶壁其地底ノ深サ僅ニ二三「サンチメートル」ニ過サル處ニ於テ松樹ノ大木鬱々トシテ繁茂セルヲアリ如此キ場合ニ於テハ假令ヒ畫線區分法ヲ行フト雖モ其一部ヲ悉ク伐採スルハ則チ其土地乾燥シテ再ヒ樹木ヲ生育スル能ハ

ス全ク秃山トナルモノナルカ故ニ森林家ノ最モ注意スヘキ所ナリトス之ヲ二回若クハ三回ニ伐採スト雖モ常ニ其跡ニ苗木ノ繁茂スルヲ待テ次回ノ伐木ヲナスヘキナリ常盤木ノ森林ヲ間引スルハ總テ他種ノ樹木森林ト等ク其樹木ノ生長ヲ速ニスルモノナリ然レモ常盤木ノ森林ニ於テハ必間引ノ度テ過スヘカラス何ントナレハ常盤木ハ總テ多數ノ根ヲ有スト雖モ其根甚タ淺クノ樹幹ト樹幹トノ距離近カラサルハ却テ能ク生長セサルモノナリ故ニ之ヲ過度ニ遠クヘカラス又常盤木ノ成長充分ナルハ其梢枝ノ傾クカ故ニ之ヲ以テ其生長ノ充分ナルヲ徴シ知ルヘシ

一伐木順序

森林伐木法ヲ定メタル後ハ伐木ノ順序ヲ立テ而シテ后伐



採ニ着手スヘキナリ其順序ヲ立ルハ即チ先ツ森林ノ各部  
 ヲ點驗シ各部ノ樹木成長増殖高ヲ計算シ其高ニ依リテ森  
 林ヲ區分シ十五年目、二十年目、二十五年目、四十年目、五十年  
 目、等ニ伐採スヘキ部分ヲ定メ而シテ又其各部分ヲ分テ十  
 五年目ニ伐採スヘキ部分ハ之ヲ十五部ニ別テ四十年目ニ  
 伐採スヘキ部分ハ之ヲ四十部ニ別ツヘシ其他皆之レニ準  
 ス而シテ第一回ニハ寒風又ハ酷暑ヲ受クヘキ處ヨリ着手  
 スヘシ然リ而シテ森林ヲ區分スルニハ各部共ニ小徑ヲ通  
 レ且ツ其各部ノ經界ノ角隅ニハ杭ヲ植テ其杭ニ林地平面  
 圖ト符合セル記号ヲ書スヘシ又各部ノ經界ニハ一「メー」ト  
 ルノ空地ヲ存シテ雜草ヲ刈除シ之ニ樹木ヲ播植セサルヘ  
 シ此經界ハ無用ノ如シト雖モ決シテ然ラス此經界ナキト

ハ各部ヲ區別シ難キ而已ナラス空氣日光ノ流通及ヒ看守  
 者ノ通行ニ甚タ不便ナルモノナリ且ツ假令ヒ幅一「メー」ト  
 ル長若干ノ處ニ樹木ヲ生育セスト雖モ之レカ爲メニ森林  
 ノ収獲ヲ減少スヘシト思フヘカラス幅一「メー」ト長若干  
 ノ空地アルハ其空地ニ近接セル樹木ハ必ス他ノ樹木ヨ  
 リ多ク空氣、日光其他土地ノ養分ヲ得ルカ故ニ克ク生長ス  
 ルヲ以テ右空地ニ樹木ヲ播植セサルノ欠乏ヲ補フニ足ル  
 經界中ニ樹木其他雜草ヲ生スル毎ニ之ヲ刈リテ其得ル所  
 ノ者ハ或ハ之ヲ賣却シ或ハ之ヲ看守人ニ渡與スルモ可ナ  
 リトス

一 芽立木森林中ニ大樹ヲ生育スル  
 芽立木ヲ以テ繼續スル森林ニハ伐木ノ際大樹ヲ殘存スル



一アリト雖用大抵之ヲ母樹トナシテ天然播種ヲ爲サソカ  
 爲ナリ此場合ニ在リテ其殘存スヘキ樹木ハ價格アル種類  
 ニシテ其身幹直ク其小枝少キモノヲ撰フヘシ且ツ其員數  
 ハ過多ナルコト及ハサルナリ又能ク其樹木ヲ分配シテ其風  
 上トナル可キ處ニハ其數ヲ多クシテ森林内一様ニ種子ヲ  
 散落セシムヘキナリ就中濕地ニ在リテ其數過多ナル時ハ  
 土地益濕氣ヲ帶ルカ故ニ可成的其員數ヲ減少シテ其土地  
 ノ能ク乾燥スルヲ要ス可シ  
 右ハ芽立木森林通常ノ場合ナレニ或場合ニ於テハ母樹ノ  
 外ニ大樹トナスヘキ樹木ヲ殘存スルヲ利益アリトスルコ  
 アリ如此キ場合ニ於テハ其殘存スヘキ樹木ハ可及的播種  
 ヨリ生シタル樹木ヲ撰ミ芽立木ノ成長シタルモノヲ撰ム

ヘカラス然レニ若シ播種ヨリ生立シタル樹木却テ怯弱ニ  
 シテ直立ナラス或ハ身幹高長ニ過キ周圍細小ナル等ノ樹  
 木ハ之ヲ捨テ芽立木ノ最モ發育善キモノヲ撰ムニ如カサ  
 ル可シ播種ノ樹木タリト雖用如此ク怯弱ナルモノハ伐木  
 後ニ獨立シテ暴風大雪ニ堪ヘス爲メニ折傷スルコトアリ然  
 レニ大抵播種ヨリ生立シタルモノハ芽立木ヨリモ直立ニ  
 シテ強壯ナリ且ツ後來ノ發育モ亦芽立木ヨリモ速ニシテ  
 其壽命モ芽立木ヨリモ永シトス森林家此撰抜ヲナス者ハ  
 必ス幹木直立ニシテ枝葉青々皮色ノ薄キ強壯ノ者ヲ撰ム  
 可シ如此キ者ハ必ス後來能ク成長スルノ徵ナリ若シ曲材  
 トナサント欲スルニ非レハ決テ屈曲シタル樹木ヲ撰テ殘  
 存ス可カラス



伐木ノ時殘存スヘキ樹木ノ員數ハ其土地ノ肥瘠ニ因リテ  
 差異アル可キモノナルカ故ニ之ヲ豫定シ難シト雖モ母樹  
 而已殘存スヘキ土地ニ於テハ其數可成的少キヲ要シ豊饒  
 ナル土地ニ於テハ母樹ノ外尙ホ樹木ヲ殘存スヘシ然レモ  
 過度ニ樹木ヲ殘存シ其樹木林地ヲ覆フキハ芽立木ノ成長  
 シ妨害スルカ故コト「エシヨール」ニ付五六十本ニ超ユ可カ  
 ラス其土地豊饒ニシテ五六十本ノ極度ノ數ヲ殘存シ得ヘ  
 キトハ五十本ヲ殘スヨリモ寧ロ六十本ヲ殘スヲ良シトナ  
 ス何ントナレハ次回伐木ノ期ニ至リテ尙ホ或ハ成長ノ宜  
 シカラサル者アレハナリ  
 豊饒ナル土地ニ於テハ六十本以上ノ大樹ヲ殘存シテ利益  
 アルトアリト雖モ是レ全ク非常ノ土地ニシテ例トスヘカ

ラス通常ノ場合ニ於テハ芽立木ヲ多ク生育スルヲ以テ利  
 益多シトナス例ヘハ第一回伐木ノ時ニ五十本ヲ殘シ置キ  
 第二回伐木ノ時ニ又五十本ヲ殘スルハ第一回伐木ノ時ニ  
 殘シ置キタルモノト合計「エシヨール」ニ付大樹ノ員數百  
 本トナルヘキ計算ナリ然レモ第一回ニ殘シ置キタル大樹  
 五十本ハ實際其内發育ノ不充分ナルモノアリテ之ヲ第二  
 回伐木ノ時ニ伐採スルカ故ニ存スルモノハ百本ニ充タス  
 シテ八十本内外ナル可シ第三回伐木ノ時ニ又更ニ四十本  
 ノ大樹ヲ殘シ置キ第二回ニ殘シ置キタル五十本ノ内發育  
 ノ不充分ナル者大凡二十本ト第一回ニ殘シ置キタル者ノ  
 内大凡十本ヲ伐採スルキハ實際殘ル所ノモノハ凡ソ九十  
 本ニ過キサル可シ第四回伐木ノ時ニモ亦四五十本ノ大樹



チ殘存シテ從來ノ九十本ノ大樹ノ内已ニ老成シタルモノ  
 ハ之ヲ伐木ス可シ其他順序如此ナルヲ通例トス然ルモハ  
 一「エクタール」ニ存生セル大樹ノ數ハ常ニ百本乃至百二十  
 本ヨリ多カラサルヘシ芽立木森林ニ於テ之レヨリ多數ノ  
 大樹チ殘シ置クモハ芽立木ニ障害ヲ與ヘ却テ収獲ヲ減少  
 スルモノナリ總テ大樹チ殘シ置ク第一ノ趣旨ハ天然播種  
 ヲ爲スニ在リ且ツ其大樹ノ収獲ヲ合計シテ一「エクタール」  
 ノ収利ヲ増加セント計ルモノナリ故ニ殘存スヘキ樹木ノ  
 種類ハ其森林ノ芽立木ノ母樹トナスヘキ種類ヲ撰ムヘシ  
 總テ芽立木森林中其株根ノ老テ枯朽シタルモノアルモハ  
 之ヲ掘リ去リテ其處ニ他ノ樹木ヲ播種スルヲ良シトス若  
 シ右等ノ古木チ其儘ニ放置スルモハ無益ニ土地ヲ用ルカ

故ニ其収獲ヲ減少スルヤ必セリ

第六章 伐木方法及ヒ収獲方法ノ事

前ニモ陳論スルカ如ク伐木ノ要ハ斧斤時ヲ以テ山林ニ入  
 リ最少年間ニ最多利益ヲ得ルニ在リトス最多ノ利益ヲ得  
 ノト欲セハ其地質其樹類其年限ノ當否ヲ詳悉セサルヘカ  
 ラスト云フコトモ亦前章ニ論シタリ而シテ伐木方法ノ其當  
 ヲ得サレハ大ニ利益ノ損失ヲ來タスコトアリ故ニ特ニ伐木  
 方法ヲ此章ニ論セン

一 伐木方法

森林所有者ノ目的トスル所ハ他ニ非ラス第一其所有地ナ  
 ル森林ヨリ最多ノ利益ヲ得コト第二後來其森林チ障害セ  
 サルコト此二者ニ止ル可シ然リ而シテ猥リニ最多ノ利益ヲ



得ント欲シテ後來森林ノ障害ヲ招ク可ラス現在ノ森林ハ  
 祖先ノ遺物ナルカ故ニ又之ヲ維持シテ子孫ニ傳ヘサルヘ  
 カラス前章ニモ云ヘル如ク利ニ利ヲ附スルノ計算ヲ以テ  
 山林資金ヲ算定スルキハ其利分ノ増殖高ハ各年樹木成長  
 ノ増殖高ヨリモ多キカ故ニ其時ニ至テハ直ニ伐木ニ從事  
 シテ最多ノ利分アリト知ルヘシ而モ若シ森林ヲ害スルト  
 見做スルハ二年又ハ三年ヲ經テ伐採シ僅少ノ損失ヲ患ヘ  
 ス後來ニ障害ヲ遺サ、ルヲ要ス可シ若シ猥リニ伐木ヲナ  
 シ後來ノ障害ヲ慮ラサルキハ天然播種ヲ得ル能ハス森林  
 ハ伐及毎ニ衰微シテ一朝遽ニ秃頓トナルニ至ルヘシ豈ニ  
 深ク注意セサルヘケンヤ  
 森林ノ樹木二十年乃至三十年ヲ經テ之ヲ伐採スルキハ則

ク其地其樹木ノ種類ニ不適當ナラサルヨリハ必ス天然播  
 種ヲ得ヘキナリ而シテ森林中播種ヨリ生育セシ樹木アル  
 キハ幹木ノ周圍四「サンチメートル」ニ及ハサルモノハ伐採  
 ス可カラズ若シ其周圍四「サンチメートル」ニ至ラサルモノ  
 ナ伐採スルキハ其根未タ充分ニ蔓延セサルカ爲メニ其根  
 株ヨリ發生シタル萌芽ハ速ニ成長セス近隣ノ芽立木ノ覆  
 フ所トナリ空氣ノ流通日光ノ射照充分ナラス終ニ壓倒セ  
 ラル、ニ至ル可シ幹木ノ能ク成長シテ后之ヲ伐採スルキ  
 ハ伐木ノ后其根株強壯ナルヲ以テ其根株ヨリ發芽シタル  
 樹木モ亦勢力盛ニシテ能ク成長スルヲ得可シ又他ノ樹木  
 ナ伐採スル時ニ當リ唯天然播種ヨリシテ成長シタル若木  
 ナ殘シ置クキハ其若木他ノ樹木ノ倒ル、トアラハ其枝梢



等ニ觸レテ共ニ倒ル、コアリ然レモ是等ノ事ハ席上ニ論  
 スルカ如ク實際ニ於テハ恐ル、ニ足ラヌトス天然播種ノ  
 樹木ハ其幹枝共ニ大ニ柔韌ニシテ他ノ樹木ノ枝梢ニ觸ル  
 、モ大抵唯屈撓スル而已ニシテ折傷スルコト少シ假令ヒ偶  
 々折傷スルモノアルモノアルモ根株ノ發育ヲ害スルコトナ  
 シ僅ニ其幹其枝ヲ害スルニ止ルカ故ニ其根株ハ能ク發育  
 シテ強壯ナルヘシ

森林伐木ノ方法ハ其地質地位等ニヨリテ差異アルヘキハ  
 己ニ辨論シタル所ナリ獨リ是レ而已ナテス樹木ノ種類ニ  
 ヨリテ又差異アルヘキモノナリトス現ニ山毛櫸、檜、秦皮樹、  
 栗樹等ノ如キハ地面ヨリ一「サンヤメー」トル乃至一「サンヤ  
 メー」トルヲ隔テ、斬伐スルキハ其伐根ヨリ萌芽ヲ能ク發

生スルモノナリト雖モ若シ之ヲ地面ニ接スル處ヨリ地平  
 ニ斬伐スルキハ其木根ヨリ萌芽ヲ發生スルコト甚ク少ナル  
 モノナリ是レ則チ樹木ノ種類ニ因リ同一ニ伐木法ヲ施ス  
 可ラサル所以ナリ右等ノ樹木ハ地平ニ伐採スヘカラスト  
 雖モ其根株ノ老テ充分ニ萌芽ヲ發生セサルニ至ラハ其發  
 生ヲ促スカ爲メニ再ヒ之ヲ地平ニ伐採スルヲ善良トナス  
 余ハ如此クシテ常ニ好結果ヲ得タリ最初ヨリ地平ニ伐木  
 シテ可ナルモノハ唯水ニ根ヲ洗滌セラレタル樹木而已是  
 等ハ其根本已ニ地上ニ顯ハレタルモノナル故ニ其顯レタ  
 ル所ヨリ萌芽ヲ發生スルモノナリ茲ニ惣論ヲ終リ是ヨリ  
 左ニ土地ニヨリテ伐木方法ノ差異アル所ヲ陳論スヘシ  
 土地低クシテ常ニ濕氣ヲ帶ヒ洪水ノ害ヲ受クヘキ處ハ地



中ニ水氣充滿スルカ故ニ如此處ノ樹木ヲ伐採スルニハ地面ニ近接スル所ヨリ代ルヘカラス何ントナレハ地面ニ近接スル所ヨリ伐採スルキハ霖雨雪霜ノ爲メニ土地膨脹シテ伐根ヲ覆フコアリ之レヨリシテ腐敗ヲ生シ失敗ヲ招クコアレハナリ此類ノ土地ニ於テ播種ヨリ生育スルハ甚々容易ナルモノナレハ可成的播種ニ依テ其増殖ヲ計ル可シ而シテ必ズ地面ニ接スル處ヨリ斬伐ス可カラサルナリ高上ニシテ乾燥ナル土地ハ大雨洪水積雪等ニ遇フト雖モ前ニ述ルカ如キ害ヲ被ラサルナリ然レモ濕氣充分ナラサルカ故ニ樹木ヲ天然播種ヨリ生育スルハ極メテ難シトナス然リ而シテ此場合ニ於テハ又天然播種ノ外ニ増殖方法ノアルアリ其方法タルヤ樹木ヲ少ク地下ヨリ伐採スルニ

在リ然ルキハ其伐根ヨリ發生スル所ノ萌芽ハ必ズ地中ヨリ出ルヲ以テ其樹木新ニ根ヲ生シテ成長シ更ニ一個ノ幹株トナルモノナリ故ニ其幹株ヨリ發生スル萌芽モ亦更ニ一個ノ新株ヲ生スヘシ如此キ法ヲ行フキハ天然播種ニ依ラスシテ絶ヘス樹木ヲ増殖スルヲ得ヘキナリ森林内或ハ古株ヲ距ルコト數メートルノ所ニ新樹ノアルハ皆此方法ニ依リテ増殖シタルモノナリ或ハ此方法ヲ以テ古株ノ有益ナル者ヲ早ク無用ノ者トナスノ害アリト謗リ又ハ古株ヨリ充分ノ萌芽ヲ生セシメ之ヲ収獲スル能ハスト謗ル者アリ夫レ或ハ然ラシテ而レモ實驗上ニ於テハ此非難ノ効ナキヲ見ル若シ假令ヒ此非難ノ如クナルモ右等ノ土地ニ於テ樹木ヲ地上ヨリ伐採スルキハ則チ其古株萌芽ヲ發生セサ



ルカ故ニ他ニ増殖ノ道ナキヲ以テ復々樹木ヲ生育スル能  
 ハス其森林ハ遂ニ樹木ヲ見サルニ至ル可シ之レニ反シテ  
 地下ヨリ伐採スルキハ充分ニ發芽ヲ得スト雖凡必ス新株  
 ヲ得テ樹木ヲ増殖スルコトヲ得ヘキナリ此二者ヲ比較スレ  
 ハ孰レヲ取リ孰レヲ捨ツヘキヤ余ハ必ス一個ノ古株ヲ失  
 ヒ二三個ノ新株ヲ得ル者ヲ取リ以テ森林ノ繼續ヲ計ル可  
 シ或ハ曰ク樹木ヲ地下ヨリ伐採スルキハ其發芽ノ數少シ  
 ト是レ眞ニ然リト爲ス而レモ發芽ノ少キハ患フルニ足ラ  
 ス一株ノ萌芽ノ中二三個ハ其成長全ラスシテ枯死スル者  
 アルヲ常トス然ルニ新株ヨリ發生シタル者ハ古株ヨリ發  
 生シタル者ヨリ強壯ナルカ故ニ其數少キモ常ニ充分ナリ  
 トス

土地濕氣ノ充分ニシテ天然播種ニ便宜ナル森林ニ在リテ  
 ハ數十年間ヲ經サレハ株樹ヲ伐採セサルヲ常トス此場合  
 ニ於テハ樹木ヲ地平ニ伐採シテ唯可及的収獲ノ多キヲ主  
 トスヘシ此場合タリモ根株老朽シテ充分ニ萌芽ヲ發生セ  
 サルニ至ラハ必ス再ヒ之ヲ地下ヨリ伐採シ新芽ヲシテ新  
 ニ根ヲ地中ニ生セシムヘシ而シテ伐採シタルキハ其伐株  
 ノ周圍ニ在ル芝草或ハ土塊ヲ除キテ之ヲ柔カニシ以テ發  
 芽ヲ妨害セサラシム可シ此仕事タルヤ至テ容易ニシテ且  
 ツ要用ナルコトナレハ森林所有者ハ必ス之ヲ柚夫ニ命スヘ  
 キモノナリ

大抵森林所有者ハ樹木ヲ地面上ヨリ伐採スルヲ好マサル  
 者多シ而レモ地面上ヨリ伐採スルモノハ地面下ヨリ伐採



スルモノト同一ノ結果ヲ生スルコトアリ冬季前若クハ冬季  
 中ニ伐木スルキハ其株根ノ上ニアル水氣凍結シテ霜トナ  
 リ其樹肉ト樹皮トノ間ニ在ル汁液ヲ膨脹セシメテ樹肉ト  
 樹皮ト分離スルニ至ル而シテ春暖ノ候ニ及ヒ日光其伐口  
 ヲ乾カシテ愈ヨ分離スルニ至ルキハ其伐口ヨリ萌芽ヲ生  
 スル能ハス遂ニ株根ノ横側即チ地ニ接スル處ヨリ發芽ス  
 ルニ至ルモノナリ

又森林所有者カ地面ニ接スル處ヨリ伐木スルヲ忌ム者ア  
 ルニ因リ余今茲ニ一例ヲ舉テ以テ其恐ル、ニ足ラサルヲ  
 示スヘシ予曾テ或ル森林ヲ經過セシニ當リ數人ノ工夫森  
 林地ヲ鋤起シテ新ニ苗木ヲ植附ルノ用意ヲ爲スヲ見タリ  
 其森林地内ニ尙ホ檜樹ノ古株數個殘存スルヲ工夫之ヲ斬

毀シテ可及的其古株ヲ獲ンコトヲ勤メリ然レモ其根株ヲ悉  
 ク掘リ去ルニ至ラザリキ予之ヲ見ルヤ其古株ノ負傷尙ホ  
 癒ヘサルモ萌芽ヲ發生スヘキ理アルヲ察シ其翌年ニ至リ  
 テ該森林ヲ再ヒ經過スルニ當テヤ果シテ彼ノ古樹ヨリ數  
 個ノ強壯ナル萌芽ヲ生シタリ右古株ハ皆十五乃至二十五  
 「サシナメートル」ノ厚サノ土ヲ被リタルモ猶ホ此ノ如シ是  
 ヲ以テ之ヲ見レハ樹木ヲ地面ニ接スル處ヨリ伐採スルモ  
 萌芽ノ發生セサルノ恐ナカルヘシ然レモ予ノ經驗シタル  
 森林ハ其土地豊饒ナルモノナルカ故ニ下等ノ土地ニ於テ  
 ハ同一ノ結果ヲ生スヘキヤ否ハ予ノ未タ經驗セサル所ナ  
 リ

樹水中榆樹「アカシア」樹ハ必ス地面下ヨリ伐木スヘキモノ



ナリ楡樹ハ常ニ多クノ萌芽ヲ伐口ヨリ發生シ「アカシア」樹  
 ハ其伐口而已ナラス其根元ヨリモ亦數個ノ萌芽ヲ發生ス  
 ルモノニシテ兩種共ニ發芽ノ多キニ過クルモノナリ  
 森林ノ樹木ヲ地面ニ接スル所ヨリ伐採スルキハ如何アル  
 ヘキヤヲ恐ル、フアリト雖モ是レ唯從來地面上ヨリ伐採  
 シ來レルニ因ル而已通常ノ森林ヲ始メテ伐木スルキハ必  
 ス地面ニ接スル所ヨリ伐採シテ後日ニ至リ其根株ノ高キ  
 ニ過キサルヲ要スヘシ  
 總テ樹木伐採ニ最モ適當ナル季節ハ樹木ノ汁液未タ發生  
 セサル前ヲ善良トス即チ十月ヨリ三月ニ至ルノ間ヲ以テ  
 最良ノ季節トナスナリ或ハ五月ニ及ンテ伐木スルモ其伐  
 株ヨリ發生スル所ノ萌芽ハ別段ノ障害ナキカ如キ者アリ

然レニ樹木ノ液汁己ニ生シタル後之ヲ伐採スルキハ必ス  
 其液汁ノ洩漏スルカ故ニ其伐株幾分カ勢力ヲ失ヒ隨テ其  
 伐株ヨリ發生スル萌芽モ亦不充分ナル所ナキヲ得ス寧ロ  
 其液汁ノ未タ發生セサル前ニ於テ之ヲ伐木スルニ如カサ  
 ルヘシ然レニ唯樹木ノ老衰ニ至テ其根株ヲ殘シ置クモ利  
 益ノ少キモノ、如キハ之ヲ根株ヨリ掘リ去ル可キモノナ  
 レハ其掘取ノ季節ヲ撰ムトヲ要セスト雖モ森林内ニ於テ  
 他ノ根株ヨリ萌芽ヲ生シタル季節ニ之ヲ掘リ取ルキハ其  
 倒ル、ニ及ンテ他ノ萌芽ヲ折損スルノ恐アリ古株ヲ掘リ  
 取リタルキハ從前ノ種類ニ異リタル樹木ヲ其跡ニ植附ヘ  
 シ樹木モ亦禾穀野菜等ト同一ニシテ始終同種類ノモノヲ  
 同地所ニ培植スルトチ好マナリ又曲木ヲ伐採スルニ當リ



テハ之ヲ伐採スル前ニ袖夫ヲシテ其樹木ニ登ラシメ大ナル枝ヲ伐リ落ス可シ如此スルキハ伐木スルニ當リ其幹木倒ルト雖厄枝裂ケ等ノ患ナキモノナリ

伐木セント欲セハ先ツ其業ニ従事スル前ニ豫メ森林ノ下草ヲ刈除スヘシ若シ伐木ニスル際シテ下草ヲ刈ラシメサルキハ必ス粗漏ニ流レテ處々ニ雜草ヲ殘スコアルヘシ然ルキハ其森林内自ラ清潔ナラサルニ至ル

總テ樹木ヲ伐採スルヤ其伐口平滑無瑕ニシテ幹木ノ中心ト切口ノ平面ト直角ナルヲ要ス若シ其伐口惡シキハ兩水其伐口ニ滯溜シテ之レヨリ其株木ノ腐敗ヲ來ス丁數々之レアリ其腐敗ハ其根株ヲシテ萌芽ヲ發生セシメサルニ至ラスト雖厄株木ノ中心腐朽シタルモノト伐木ニ際シテ

第一先ツ工夫ニ命シテ勤メテ其伐口ヲ平滑ニセシム可シ

大抵伐木ニハ「パスス、パルツ」伐木鋸刃ノ名稱ニシテ此鋸ハ

ヲ用ユ此鋸ハ便利ナルモノナレド地面ニ接シテ伐木スル

丁ヲ得サルモノナルカ故ニ伐木ノ後其伐口ヲ削リテ之ヲ

低下スルヲ要ス

樹木ヲ伐採シタル後ハ其伐口常ニ空氣及ヒ日光ヲ受クル

ヲ要スルカ故ニ之レニ注意シテ伐木スルニ當リ直ニ小枝

等ヲ束ネ去リ伐口ヲシテ小枝等ニ掩ハレサラシム可シ如

此クスルトキハ獨リ樹木ニ宜キ而已ナラス森林清潔ニシ

テ監察ニモ亦便ナリトス若此注意ヲ怠リテ伐口長掩ルハ

キハ微チ生シテ爲メニ釀腐スルニ至ルヘシ如此ナレハ伐

口ハ假令ヒ朽損セサルモ其害ヲ受クルヤ甚シキモノナリ